

2026 年 8 月

食料安全保障月報

(第 62 号)



令和 8 年 8 月 31 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021 年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報(生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等)について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月 1 回、月末を目処に公表します。

2026 年8月食料安全保障月報(第 62 号)

目 次

概要編

I 2026 年8月の主な動き	1
II 2026 年8月の穀物等の国際価格の動向	4
III 2026/27 年度の穀物需給(予測)のポイント	4
IV 2026/27 年度の油糧種子需給(予測)のポイント	4
V 今月の注目情報「カナダの穀物等の生産・輸出動向」	5
(資料)	
1-1~3 穀物等の主要輸出国の生産量(過去 10 年平均との増減比較)	1 0
1-4 穀物等の国際価格の動向	1 3
1-5 サプライチェーン等に関する状況	1 4
2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	1 5
3 穀物等の期末在庫率の推移(穀物全体、品目別)	1 6
4 加工食品の主な輸入原材料(穀物等を除く)の状況	1 8
5 食品小売価格の動向	2 2
6 海外の畜産物の需給動向(ALIC 提供)	2 3
7 FAO 食料価格指数	2 4

今月のコラム

「南米・チリの食事情③: 日本からの「焼き肉」輸出の可能性」	2 5
--------------------------------	-----

品目別需給編

I 穀物	
1 小麦	1
<米国> 2026/27 年度の生産量は前年度から 22.9%減少する見込み	
<カナダ> 2026/27 年度の生産量は前年度から 9.2%減少する見込み(AAFC)	
<豪州> 2026/27 年度の生産量は前年度から 22.2%減少する見込み(USDA)	
<EU27> 2026/27 年度の生産量は前年度から 8.2%減少する見込み(EC)	
<ロシア> 2026/27 年度の輸出量は前年度から 4.2%減少する見込み	
<ウクライナ> 2026/27 年度の輸出量は前年度から 4.3%減少する見込み	
<中国> 2026/27 年度の生産量は史上最高となる見込み	
2 とうもろこし	9
<米国> 2026/27 年度の生産量は、前年度から 5.9%減少する見込み	
<ブラジル> 2026/27 年度の生産量は、前年度から 0.7%減少する見込み	
<アルゼンチン> 2026/27 年度の生産量は、前年度から 12.7%減少する見込み	
<ウクライナ> 2026/27 年度の生産量は、前年度から 2.9%増加する見込み	
<中国> 2026/27 年度の生産量は、前年度から 1.9%増加する見込み	

3 コメ	1 5
<タイ> 2026/27 年度の生産量は、前年度から 1.9%減少する見込み	
<米国> 2026/27 年度の生産量は、前年度から 23.3%減少する見込み	
<中国> 2026/27 年度の生産量は、前年度から 0.5%増加する見込み	
<インド> 2026/27 年度の生産量は、前年度から 2.6%減少する見込み	
<ベトナム> 2026/27 年度の生産量は、前年度から 0.4%減少する見込み	
II 油糧種子	
大豆	2 1
<米国> 2026/27 年度の生産量は前年度から 6.0%増加する見込み	
<ブラジル> 2026/27 年度の生産量は前年度から 3.0%増加する見込み	
<カナダ> 2026/27 年度の生産量は前年度から 8.4%増加する見込み (AAFC)	
<中国> 2026/27 年度の生産量は前年度から 0.5%増加する見込み	
<アルゼンチン> 2026/27 年度の生産量は前年度から 1.0%増加する見込み	
(参考1) 本レポートに使用されている各国の市場年度について (2026/27 年度)	2 7
(参考2) 単位換算表	2 8
(参考3) クロップカレンダー	2 9

表紙写真: 豪州のウェスタンオーストラリア州の分けつ期後期を迎えた小麦。平年よりも乾燥し、気温も高くなると予想されており、収量は昨年を下回る見込み。
(撮影日: 2026 年 8 月 4 日、撮影者: Caro Telfer 氏)

(概要編)

I 2026 年8月の主な動き

主要穀物等の生産量等について

8月の米国農務省(USDA)の需給報告によれば、2026/27年度の各品目の生産量等の状況は以下のとおり。

小麦の生産量は、ウクライナ、カナダ、カザフスタン等で上方修正されたものの、EU、英国等で下方修正され、前月から0.7百万トン下方修正された。前年度からは、トルコ、モロッコ、インド、シリア、イラン等で増加するものの、米国、EU、豪州、アルゼンチン、カナダ、カザフスタン、ロシア、ブラジル等で減少し、世界全体の生産量は前年度から24.1百万トン減の819.3百万トンとなる見通し。

とうもろこしの生産量は、EUで下方修正されたものの、ウクライナ、ロシア、ザンビア等で上方修正され、前月から1.8百万トン上方修正された。前年度からは、中国、ロシア、カナダ、セルビア等で増加するものの、米国、アルゼンチン、EU、インド等で減少し、世界全体の生産量は前年度から31.0百万トン減の1,298.9百万トンとなる見通し。

大豆の生産量は、ウクライナ等で下方修正されたものの、米国等で上方修正され、前月から0.6百万トン上方修正された。前年度からは、パラグアイ、ロシア等で減少するものの、米国、ブラジル等で増加し、世界全体の生産量は前年度から12.8百万トン増の442.3百万トンと史上最高となる見通し。

期末在庫量は、小麦、とうもろこし及び大豆とも前年度から減少となっている。消費需要は引き続き旺盛であり、注視が必要。

FAO(国連食糧農業機関)が公表した7月の食料価格指数(最新値)については、肉類及び乳製品の価格指数が下落したものの、穀物、砂糖及び植物油の価格指数が上昇したことにより、6月の130.3から131.1に上昇(参考:2025年7月129.8)。

海上運賃については、バルチック海運指数(穀物輸送等に使用される外航ばら積み船の運賃指数)が、7月末時点2,732(6月末時点2,501、2025年平均値1,679)。



写真:ロシア・南連邦管区クラスノダール地方の乳熟期
～糊熟期を迎えたとうもろこし。作柄は良好。

撮影日:2026年7月31日



写真:フランス・北東部エピナルの収穫期を迎えたとうもろこし。高温の影響で収量は平年を下回る見込み。

撮影日:2026年8月14日

ウクライナの生産・輸出動向

8月のUSDAの需給報告によれば、2026/27年度のウクライナの小麦の生産量は、前月予測から140万トン上方修正され、単収が増加することを受け、前年度から5%増加し2,540万トンとなる見込み。一方、輸出量は、黒海での混乱を受け前月予測から100万トン下方修正され、前年度から4%減の1,350万トンとなる見込み。

2026/27年度のとうもろこしの生産量は、前月予測から180万トン上方修正され、収穫面積及び単収が増加することを受け、前年度から3%増加し3,180万トンとなる見込み。一方、輸出量は、黒海での混乱を受け前月予測から100万トン下方修正され、前年度から4%減の2,200万トンとなる見込み。

現地情報会社によれば、8月10日現在、2026/27年度の小麦の収穫進捗率は78.8%（前年同期74.4%）で1,973.8万トンが収穫されている。作柄は概ね良好及び平年並。

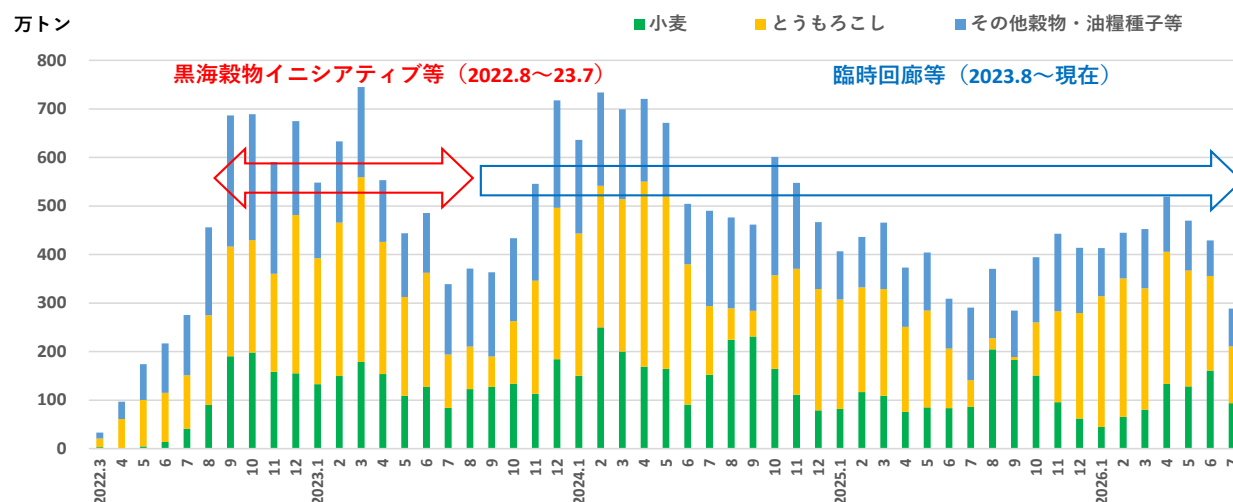
7月の穀物・油糧作物の輸出量は、前月に比べ33%減の288.9万トンとなっている。ロシアによる攻撃激化で黒海港湾の稼働がほぼ停止となり、大半が海上輸送されとうもろこし及び小麦の輸出が大幅に減少したことが主因。なお、前年同月に比べれば微減だが、これは前年7月の輸出量が極めて少なかったことによる。

臨時回廊からの輸出状況

2022年7月22日の国連、ウクライナ、ロシア及びトルコの4者によるウクライナ産穀物の黒海経由での輸出再開に関する合意（黒海穀物イニシアティブ）により、同年8月以降、オデーサ港等3港からの輸出が再開したが、2023年7月17日にロシアが同イニシアティブからの離脱を表明し、輸出が停止した。

黒海穀物イニシアティブの停止後、ウクライナは、ルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する新ルート「臨時回廊」を国際海事機関(IMO)に通報し、2023年8月以降、運用が開始された。現在、臨時回廊のほか、運河等を利用し、ルーマニアのコンスタンツァ港などを経由した輸出等が行われているものの、2026年7月以降、ロシアによるオデーサ港等への攻撃が激化しており、動向について注視する必要。

（参考）ウクライナの輸出量の推移（月毎）（2022年3月～2026年7月）



出典：ウクライナ経済・環境・農業省、ウクライナ穀物協会のデータをもとに農林水産省で作成

注：データは港湾、鉄道、陸路などすべての輸出の計

○ EU:2026/27 年度のとうもろこしの生産量は 2007/08 年度以来の低水準、小麦も生産量が減少する見込み

USDA によれば、2026/27 年度の EU のとうもろこし生産量は、前月予測から7%下方修正、前年度から 12%減、過去5年平均から 17%減の 5,020 万トンと、2007/08 年以来の低水準となる見込み。これは、収穫面積が前月予測から2%下方修正、前年度から9%減の 750 万ヘクタールと 1990/91 年度以来の最低水準となるとともに、単収が前月予測から5%下方修正、前年度から3%減の 6.74トン/ヘクタールとなることによる(図1)。

西欧州では、高温かつ乾燥した天候が、とうもろこしの生育に深刻な被害をもたらしている。本来は穀物用として収穫されとうもろこしがサイレージ(家畜用飼料)として収穫され、穀物用とうもろこしの収穫面積は大幅に減少する見込み。国別には、フランスで 150 万トン、ハンガリーで 120 万トンの生産減が見込まれ、ポーランド、スロバキア、オーストリアでも大幅な生産減となる見込み。一方、気象条件が良好であるブルガリアでは生産量が増加する見込み。

2026/27 年度の EU の小麦生産量は、前月予測から1%下方修正され、前年度から8%減、過去5年平均から1%減の1億 3,420 万トンとなる見込み。これは、収穫面積が前月予測から1%増となるものの、単収が前月予測から2%下方修正され、前年度から7%減の 5.66トン/ヘクタールとなることによる(図2)。

EU では小麦の収穫が終盤を迎えており、西欧州の大部分で単収が減少しているほか、ハンガリーでも局所的な単収の減少がみられる。西欧州では春から記録的な高温と乾燥に見舞われ、登熟期に利用できる水分が極めて限られた。特にフランスの小麦生産量は前月予測から5%減少した。

図1:EU のとうもろこしの生産量の推移(2000/01 年度以降)

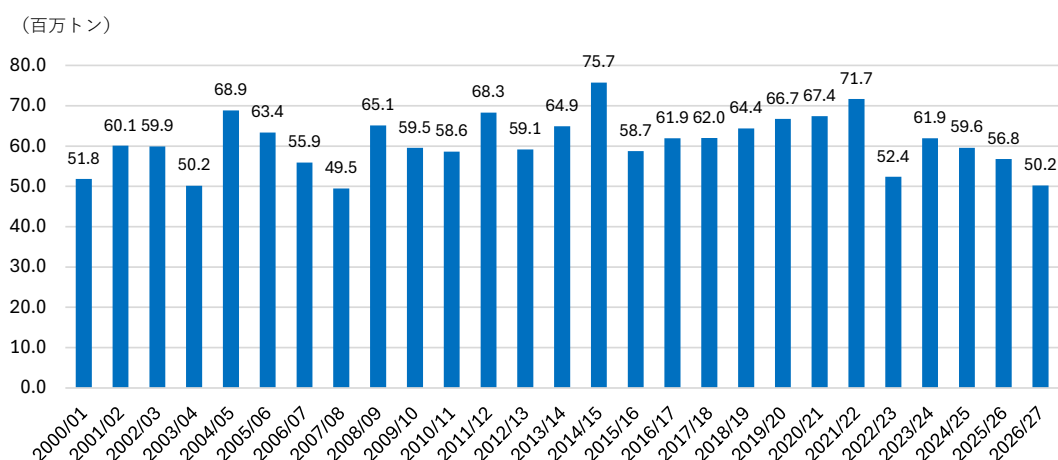
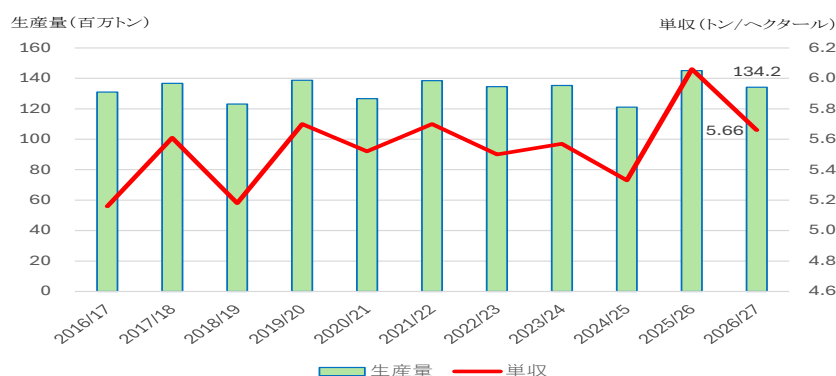


図2:EU の小麦の生産量・単収の推移



出典:USDA「PS&D」(2026.8.12)をもとに農林水産省で作成

Ⅱ 2026 年8月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、7月末、230ドル/トン台半ばで推移。8月に入り、原油価格の下落、米国産春小麦の作柄改善等を受け230ドル/トン台前半まで下落したものの、黒海の混乱による供給懸念等を受け上昇し、8月中旬現在、240ドル/トン台後半で推移。

とうもろこしは、7月末、170ドル/トン台半ばで推移。8月に入り、米国の降雨等を受け170ドル/トン台前半まで下落したものの、米国農務省需給報告で、米国の2026/27年度の期末在庫量が市場予想を下回ったこと等を受け上昇し、8月中旬現在、180ドル/トン台前半で推移。

コメは、7月末、470ドル/トン台前半で推移。8月に入り、タイバーツ高等を受け堅調に推移し、8月中旬現在、470ドル/トン台前半で推移。

大豆は、7月末、430 ドル/トン台前半で推移。8月に入り、原油価格の下落、米国の降雨等を受け420ドル/トン台前半まで下落したものの、中国による買付け、作柄の低下、原油価格の上昇等を受け上昇し、8月中旬現在、430ドル/トン台前半で推移。

(注:小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場の期近終値で8月 14 日まで、コメはタイ国家貿易取引委員会公表価格で8月 13 日まで)

Ⅲ 2026/27 年度の穀物需給(予測)のポイント

8月の USDA の需給報告によれば、2026/27 年度の世界の穀物全体の生産量は、前年度から、小麦、とうもろこし、コメは減少し、穀物全体でも減少となり、前年度から 2.2%減の 29.50 億トン。

消費量は、前年度から、小麦、コメは増加、とうもろこしは減少し、穀物全体では増加となり、前年度から 0.04%増の 29.86 億トンと、消費量が生産量を上回る見込み。

貿易量は、前年度から、コメは増加、小麦、とうもろこしは減少し、穀物全体では減少となり、前年度から 5.4%減の 5.28 億トン。

期末在庫量は、前年度から 4.5%減の 7.73 億トン、期末在庫率も前年度を 1.2 ポイント下回り 25.9%(P15 資料2参照)。

(注:数値は8月の USDA「PS&D」による)

Ⅳ 2026/27 年度の油糧種子需給(予測)のポイント

8月の USDA の需給報告によれば、2026/27 年度の油糧種子全体の生産量は、前年度を上回り 7.21 億トン。

消費量も前年度を上回り 7.18 億トンとなり、前年度に引き続き、生産量が消費量を上回る見込み。

期末在庫量は、前年度を上回り 1.46 億トンとなるものの、期末在庫率は前年度を下回り 20.4%。

(注:数値は8月の USDA「PS&D」による)

V 今月の注目情報: カナダの穀物等の生産・輸出動向

カナダ農務農産食品省(AAFC)によれば、2026/27年度のカナダ産小麦は、収穫面積及び単収の減少を受け、史上最高の豊作となった前年度(2025/26年度)の生産量を9.2%下回る36.3百万トンが見込まれている。また2026/27年度のなたねは、過去最高の豊作となる前年度からは0.9%減少するものの、過去5年平均(18.7百万トン)を、15%上回る21.6百万トンが見込まれ、今春の作付面積は、過去最高の9.5百万ヘクタールを記録すると見込まれている。2026/27年度の作付予測を公表したカナダの生産・輸出動向等についてまとめた。

注: 文中の「2026/27 年度」等は市場年度で、カナダ産小麦及びなたねは 2026 年8月から 2027 年7月。市場年度は国や作物によって異なる(品目別需給編参照)。

1 カナダの生産・輸出動向

(1) 小麦(春小麦、デュラム小麦、冬小麦)の生産動向

米国農務省(USDA)(2026.8.12)によれば、2026/27年度の小麦総生産量は、作付面積の減少と単収の低下傾向への回帰を受け、史上最高の豊作となった2025/26年度の生産量を12.4%下回る35.0百万トンと見込まれている(図1)。

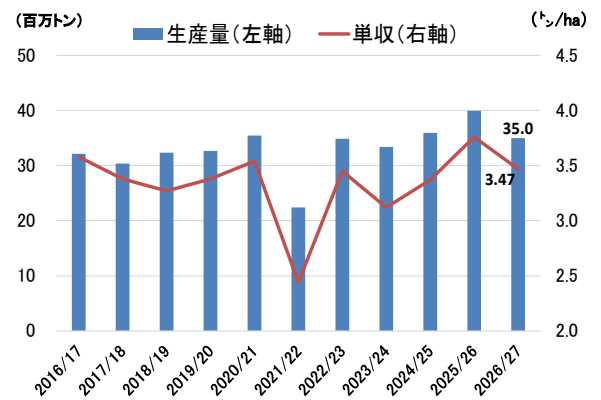
カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2026.8.20)によれば、2026/27年度の全小麦生産量は、収穫面積及び単収の減少を受け史上最高の前年度(図2)から9.2%減となるものの、過去5年平均(33.3百万トン)から8.9%増の36.3百万トンとなる見込み。

(2) 春小麦の生産動向(全小麦生産量の約75%)

USDAによれば、カナダの春小麦の大部分が生産されるプレーリー地方(アルバータ州、サスカチュワン州、マニトバ州)では、平年を上回る降雨(図3)と寒さが長引いたため春小麦の作付けに遅れが生じ、出芽も遅れた。多くの農家では通常、毎年5月末までに春小麦の作付完了を目標としている。作付けが遅れると、生産量の減少や、秋の霜害を受けるリスクが高まるなどの影響が懸念される。

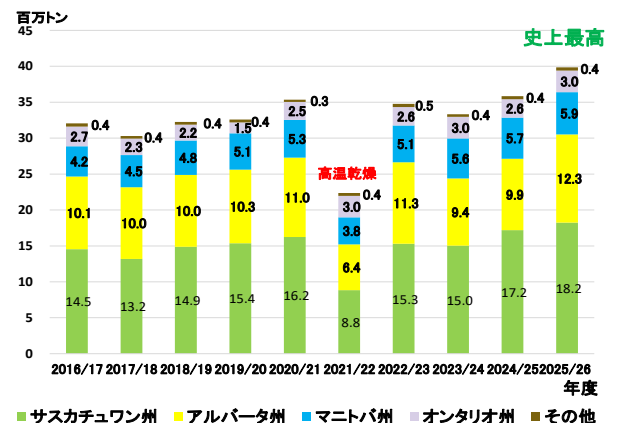
5月25日時点で、サスカチュワン州の農家は春小麦の作付けを52%しか終えていなかった(前年同期93%)。一方、アルバータ州の農家は86%(前年同期97%)、マニトバ州の農家は75%(前年同期98%)を終えていた。5月下旬から6月上旬にかけて作付けに適した天候に恵まれたため、サスカチュワン州の農家は作付けを進めたが、過去平均には及ばなかった。

図1 小麦の生産量及び単収の推移



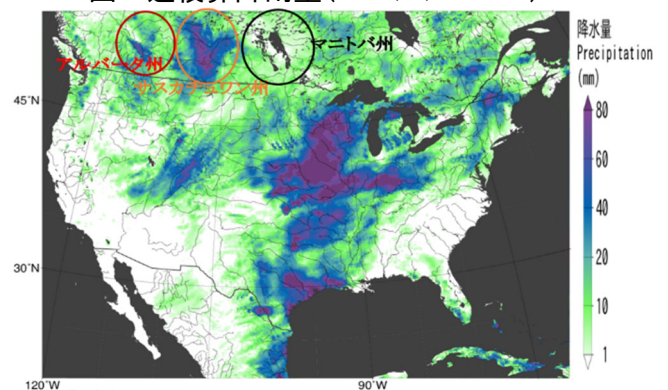
資料: USDA「PS&D」(2026.8.12)をもとに農林水産省で作成

図2 小麦の州別生産量の推移



資料: カナダ統計局(2026.7.20)のデータをもとに農林水産省で作成

図3 週積算降雨量(2026/5/14~20)



出典: 農業気象情報衛星モニタリングシステム(JASMAI)

生育期が進むにつれ、作物の生育が平年よりも遅れていることが明らかになってきた。州政府報告によれば、6月2日時点で、アルバータ州における春小麦の出芽進捗率は73%で、過去5年平均の81%を下回っている。

作付けや出芽の遅れはあったものの、州の作物報告によると、6月29日時点で、サスカチュワン州の春小麦の生育状況は「極めて良好」が23%、「良好」が68%、「普通」が8%と評価されている。アルバータ州では主に州北東部及び中央部の栽培地域における豪雨の影響により、春小麦の「良好～極めて良好」の評価は70%に留まっている。

(3) 春小麦の単収は平均から平均を上回る見通し

AAFCの「作物単収予測指標」によれば、カナダのプレーリー地方の主要生産地域では、平均以上の単収が見込まれている。ただし、アルバータ州ピースリバー地域、サスカチュワン州北東部、マニトバ州北西部については、各州で平均的な単収になると予測している。

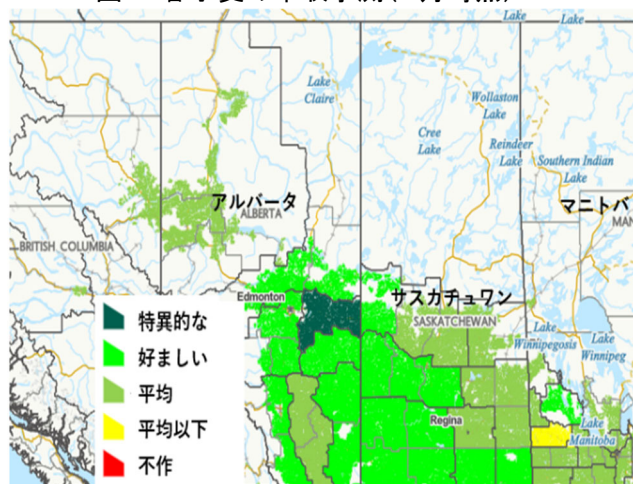
5月末時点でのサスカチュワン州の春小麦の作付進捗は、2023年の同時期と同水準だったが、2026年の土壌状態はこれまでのところ、2023年と比べて全体的に乾燥度が低い(図5)。

2023年の単収は、干ばつに見舞われた2021年を除けば、過去9年間(2017年から2025年)で最低水準となった。同州では、作付けが遅れただけでなく、異例の猛暑と乾燥、そして平均を大幅に下回る降水量に見舞われ、単収に悪影響を及ぼした。例えば、サスカチュワン研究評議会(SRC)は、2023年のサスカトゥーン市を観測史上5番目に乾燥した年として記録している。対照的に、4月末時点でのサスカチュワン州の土壌水分状態は大幅に改善しており、単収増加に向けた明るい兆しとなっている。

(4) デュラム小麦の生産動向(全小麦生産量の約20%)

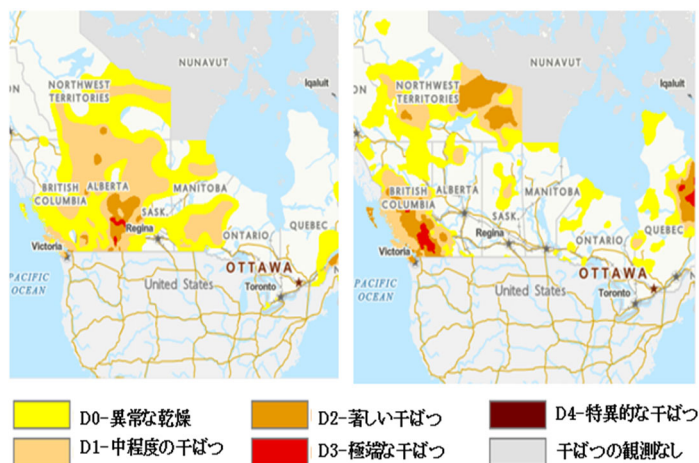
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2026.8.20)によれば、2026/27年度のデュラム小麦は、単収の引上げを受け前月予測(6.0百万トン)から0.2百万トン上方修正され、前年度(7.1百万トン)から12.1%減となるものの、過去5年平均(5.3百万トン)から18.0%増の6.3百万トンとなる見込み。USDA「Grain and Feed Update」(2026.7.31)によれば、春小麦とは異なり、デュラ

図4 春小麦の単収予測(8月時点)



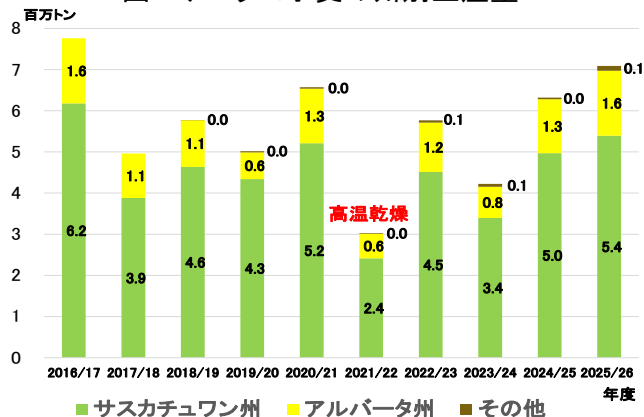
出典: AAFC「作物単収予測指標」

図5 干ばつ状況(2023年5月(左)、2026年5月(右))



出典: AAFC「Canadian Drought Monitor」

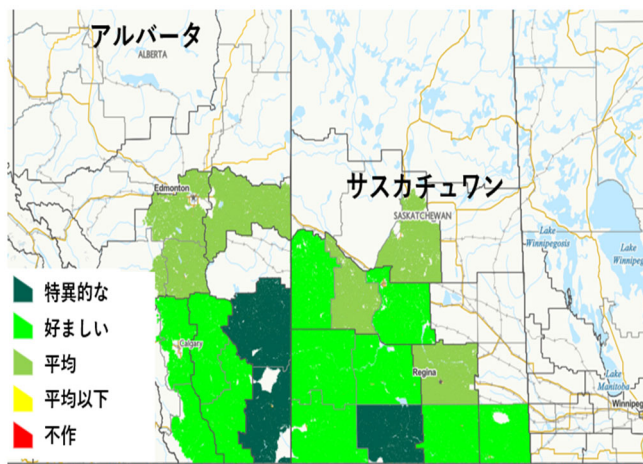
図6 デュラム小麦の州別生産量



資料: カナダ統計局(2026.7.20)のデータをもとに農林水産省で作成

ム小麦の作付けは遅れることはなかった。デュラム小麦は主に、サスカチュワン州とアルバータ州の乾燥し、温暖な南部地域で栽培されている。これら地域では、春の豪雨や冷たく湿った土壌により、畑に入ることができなかった春小麦の栽培地域に比べ、畑へのアクセスや作付進捗ははるかに順調だった。デュラム小麦の単収は、平年並みから良好と予測されている。AAFC の「作物単収予測指標」によれば、デュラム小麦の生育が進むにつれ、サスカチュワン州南西部及びアルバータ州南東部では例外的に高い単収が示唆されており、当該地域では良好から平年並みの単収が見込まれている(図7)。

図7 デュラム小麦の単収予測(8月時点)



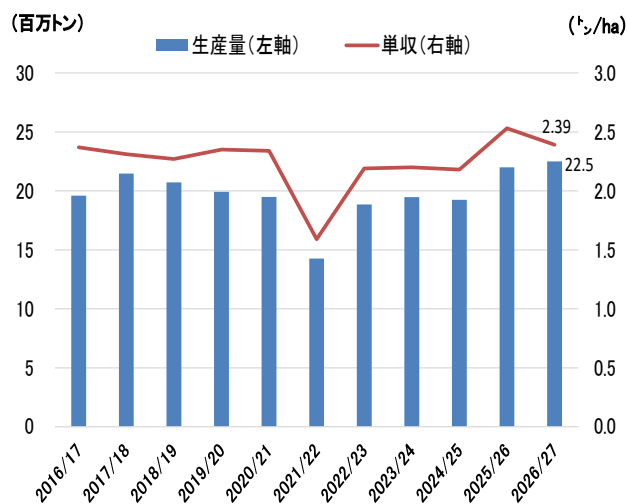
出典:AAFC「作物単収予測指標」

(5)なたねの生産動向

USDAによれば、2026/27年度のカナダのなたね生産量は、前月予測及び過去最高を記録した前年度(22.0 百万トン)から 0.5 百万トン増の 22.5 百万トンと見込まれている(図8)。

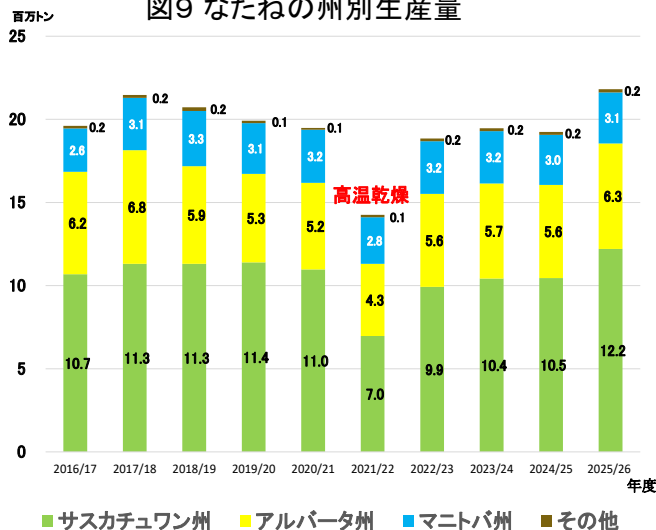
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2026.7.20)によれば、カナダ統計局が、2026年6月30日に発表した「主要畑作作付面積報告書」において、2026/27年度の作付面積は、今春、過去最高の 9.5 百万ヘクタール作付けられたと推定している。輪作計画により、作付面積の大部分が固定されるものの、競争力のある価格と、特に国内搾油産業からの需要が堅調との兆しがあり、なたねの作付面積は更に拡大した可能性がある。なたねの作付面積が9百万ヘクタールを超えたのは 2021/22 年度以来。州別には、サスカチュワン州の作付面積が前年度に比べ最も大きな伸び(前年度比 10%増、5.4 百万ヘクタール)を記録し、次いでアルバータ州(前年度比7%増、2.7 百万ヘクタール)、マニトバ州(前年度比6%増、1.3 百万ヘクタール)が続く。カナダのなたねの大部分はプレーリー地方で生産されている(図9)が、一部はカナダ東部でも栽培されている(図10)。オンタリオ州では、なたねの作付面積が前年度を上回った(15%増、2.6 万ヘクタール)一方、ケベック州の作付面積は減少した(前年度比 36%減、7.2 万ヘクタール)。

図8 なたねの生産量・単収の推移



資料:USDA「PS&D」(2026.8.12)をもとに農林水産省で作成

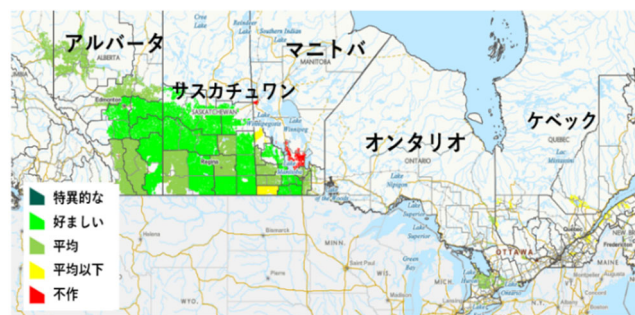
図9 なたねの州別生産量



資料:カナダ統計局(2026.7.20)のデータをもとに農林水産省で作成

同「Outlook for Principal Crops」(2026.8.20)によれば、作付面積が上方修正され、それに伴い収穫面積も前月から上方修正されたことを受け、2026/27年度の生産量は、21.6 百万トンに上方修正された。これは過去最高を記録した前年度(21.8 百万トン)から 0.9%減少するものの、過去5年平均の 18.7 百万トンを 15%上回る水準となっている。現時点では、単収は平年をわずかに上回ると見込まれている。

図 10 なたねの単収予測(8月時点)



出典:AAFC「作物単収予測指標」

(6)小麦の輸出動向

USDA (2026.8.12)によれば、2026/27 年度の小麦の輸出量は、前月予測から 1.0 百万トン上方修正されたものの、国内供給量の減少に伴い、前年度(29.6 百万トン)から 3.7%減の 28.5 百万トンと予測されている。

AFFC「Outlook for principal field crops, 2026」(2026.7.20)によれば、2026/27 年度の輸出量は前月予測から 0.2 百万トン下方修正され、前年度から 2.2%減の 28.4 百万トンとなる見込み。種類別には、普通小麦は前年度から 0.9%減の 23.2 百万トン。デュラム小麦は、世界的な供給増により北アフリカ等向け輸出で競合が見込まれることから前年度から 8.0%減の 5.2 百万トン。カナダ統計局(STC)のデータでは、2025/26 年度のうち 2025 年8月から2026 年5月のデュラム小麦の輸出量は 500 万トンを超え、前年度と同水準で推移している。主な輸出先は、アルジェリア(130 万トン)、イタリア(100 万トン)、モロッコ(90 万トン)、米国(50 万トン)、日本(20 万トン)等となっている。

USDA「Grain: World Markets and Trade」(2026.8.12)によれば、7月10日以降、ロシアを除く主要輸出国において、小麦の輸出価格が急騰した。ロシアでは、早期収穫による供給圧力に加え、一部の輸出ルートが利用できない状況にあることから供給量が増加し、輸出価格は1トン当たり3ドル下落した。世界最大の小麦輸出国であるロシアが黒海ルートでの輸送難に直面し、他の輸出国の輸出価格は上昇した。世界市場の逼迫を受けて、カナダの輸出価格はトン当たり 20 ドル上昇し、米国の輸出価格は2026 年産米國小麦の作柄悪化を受けてトン当たり 26ドル上昇した(図 13)。

図 11 カナダの普通小麦の国別輸出量の推移

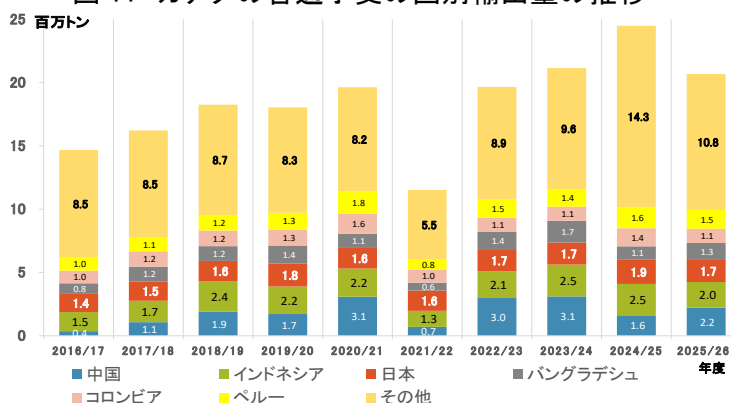
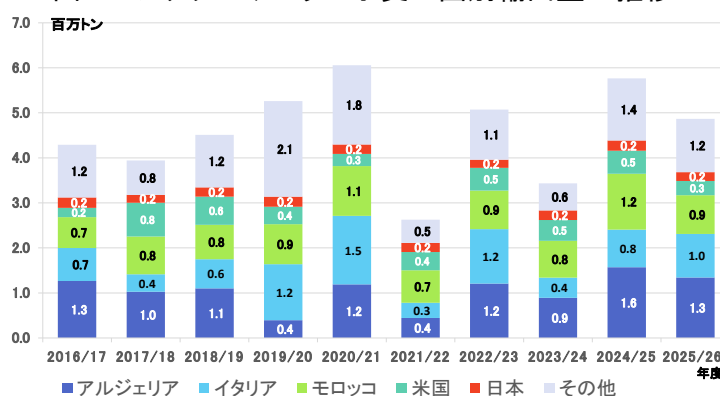
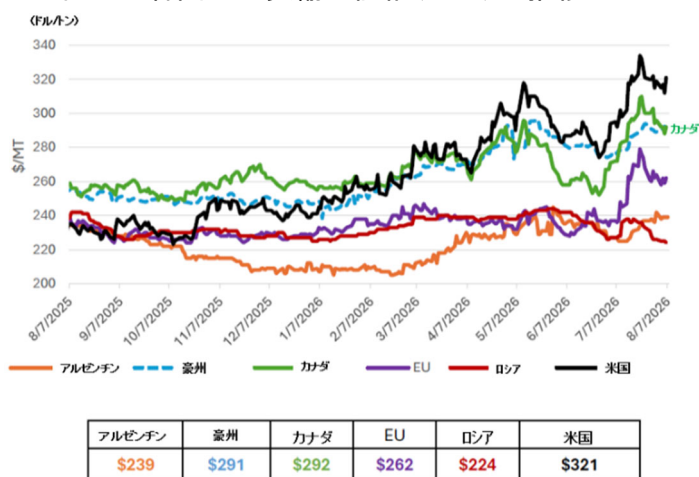


図 12 カナダのデュラム小麦の国別輸出量の推移



資料:CGC のデータをもとに農林水産省で作成

図 13 各国の小麦輸出価格(FOB)の推移



出典:USDA「Grain: World Markets and Trade」(2026.8.12)

(7)なたね種子の輸出動向

USDA「Oilseeds and Products Annual」(2026.4.23)によれば、2026/27 年度のなたね種子の輸出量は、カナダ国内での搾油需要が増加するとの予測を受け、前年度(8.3 百万トン)から 5.4%減の 7.9 百万トンとなる見込み。

米国環境保護庁(EPA)は、2026、2027 年の再生可能燃料混合義務を拡大するとともに、外国産の再生可能燃料や原料から生成される RIN クレジットの価値を 50%とする案を延期すると発表したため、なたね種子の輸出に比べ、なたね油の輸出の割合が増加すると見込まれている。

また、カナダでは 2026 年に搾油能力が増強される予定。一方、2026 年2月 28 日、中国は 2025 年8 月にカナダ産なたね種子に課したアンチダンピング関税を、75.8%から 5.9%に引き下げるとを発表した。当該措置は、3月 1 日から発効し、少なくとも5年間継続される。貿易障壁が大幅に緩和され、カナダ産なたね種子の対中国輸出量が増加することから、国内の加工業者は、中国のなたね種子購入業者との間で、なたね種子の獲得をめぐる競争が激化する可能性が示唆されている。

2 我が国の穀物輸入への影響

我が国は、カナダから、長年、小麦となたねを継続的に輸入している。小麦については、過去 10 年平均で約 1.67 百万トン、5年平均でも約 1.73 百万トンと、堅調な輸入を継続している(図 11)。

カナダ産小麦の主な輸入先国として、近年では、中国及びインドネシアがそのシェアを増やしている。カナダは、2025 年9月に、インドネシアとの包括的経済連携協定に署名し、カナダ議会の批准を待っている。本協定に基づき、インドネシアは、発効時に食用小麦に対する最恵国待遇(MFN)による無関税措置を確約し、飼料用小麦に対する5%の関税を撤廃することとなっている。

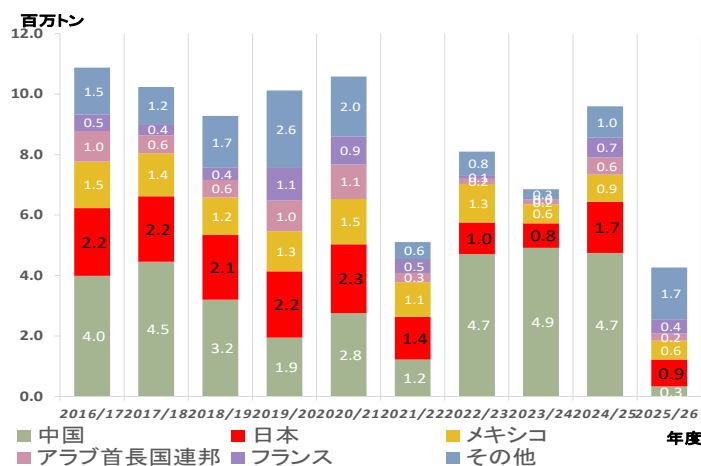
我が国は、主に食パン用の強力小麦であるカナダ産ウェスタン・レッド・スプリングを輸入しているため、インドネシアとの競合が直ちに生じるということは、現時点では高くないと考える。しかしながら、今後、世界的な小麦の供給が逼迫するとの予測があることから、今後の小麦の価格動向を含め、注視していきたい。

なたねについては、我が国は、カナダから、過去 10 年平均で約 1.68 百万トン、5年平均で約 1.17 百万トンの輸入量となっている(図 14)。

USDA は、2026/27 年度の我が国のカナダからのなたね種子の輸入量に関し、前年度(0.9 百万トン)の維持を見込んでいる。

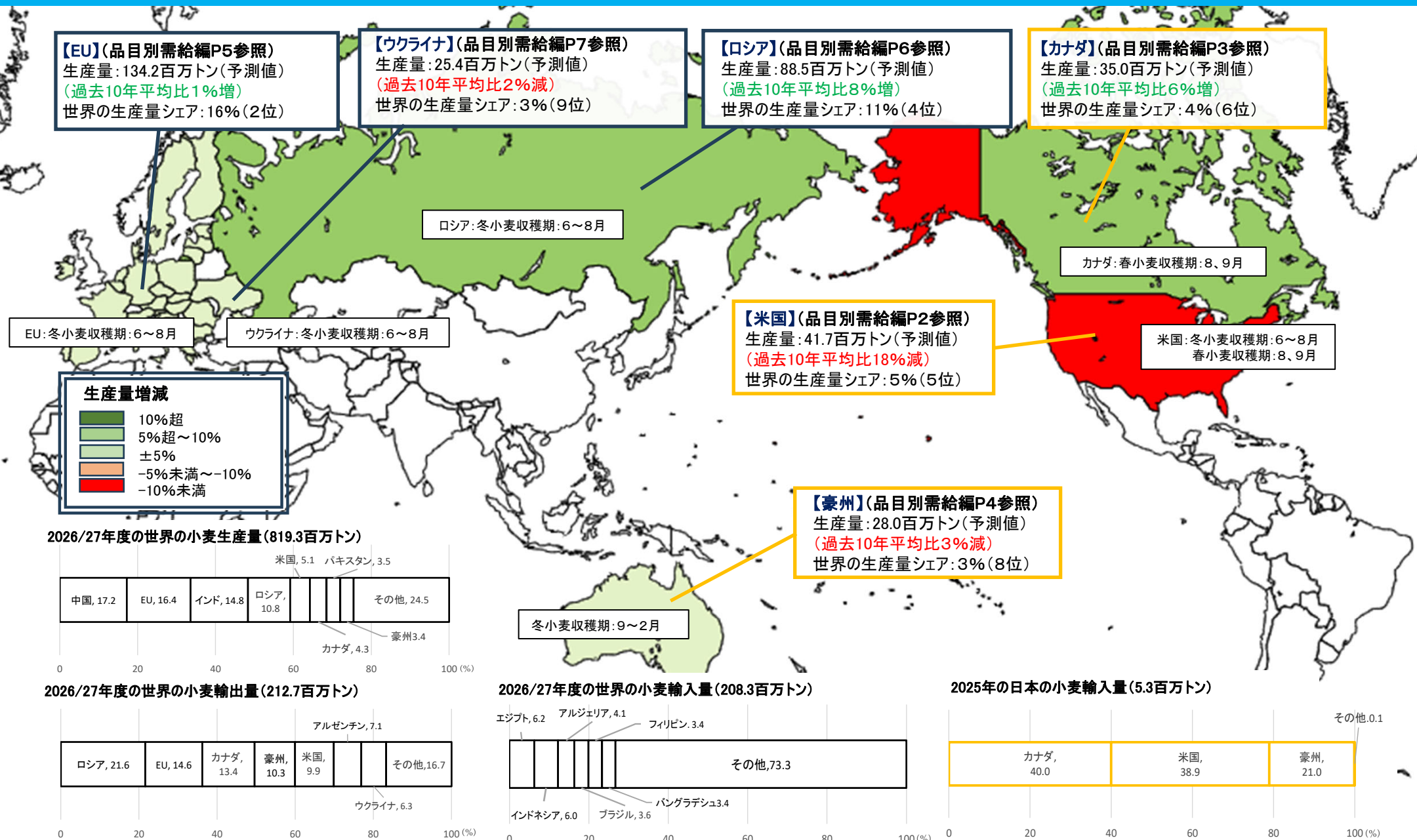
我が国は、2021/22 年度以降、カナダ産なたねの不作により、豪州産のなたね種子の輸入を増やした。2023/24 年度に、日本で輸入したなたねの 38%がカナダ産で、62%が豪州産だった。昨年8 月から 2026 年2月の輸入は、72%がカナダ産、28%が豪州産であり、本割合は前年度と同じ割合となっている。カナダ産なたねについては、カナダの国内需要や、中国とカナダの貿易関係の改善等がその需要を逼迫させるおそれもあることから、我が国の安定的な供給に影響が生じぬよう、カナダ産のなたねの生産・輸出動向について、引き続き注視していきたい。

図 14 カナダのなたねの国別輸出量の推移



資料:カナダ統計局(2026.7.20)のデータをもとに農林水産省で作成

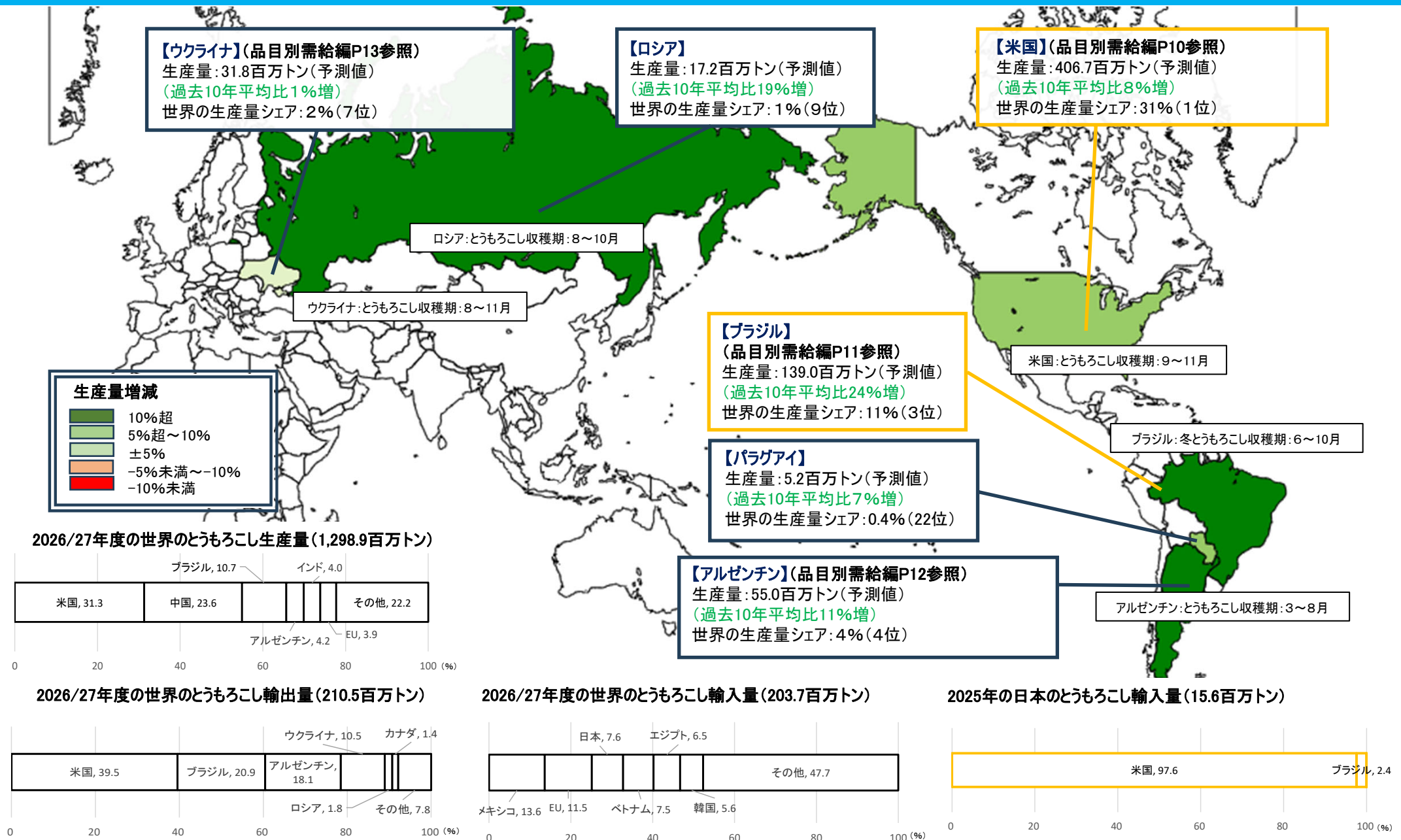
資料1-1 小麦の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2026/27年度(8月版)



- 2025年度の日本の小麦輸入量は565万トンであり、日本の小麦国内消費仕向量(659万トン、うち食用は518万トン)の85.8%を占める。
- 輸入小麦の1人1日当たり供給熱量は260kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,237kcal)の11.6%を占める(2025年度)。

出典: USDA「PS&D」(2026.8)、財務省「貿易統計」(2025年輸入量)、農林水産省「令和7年度食料需給表(概算値)」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

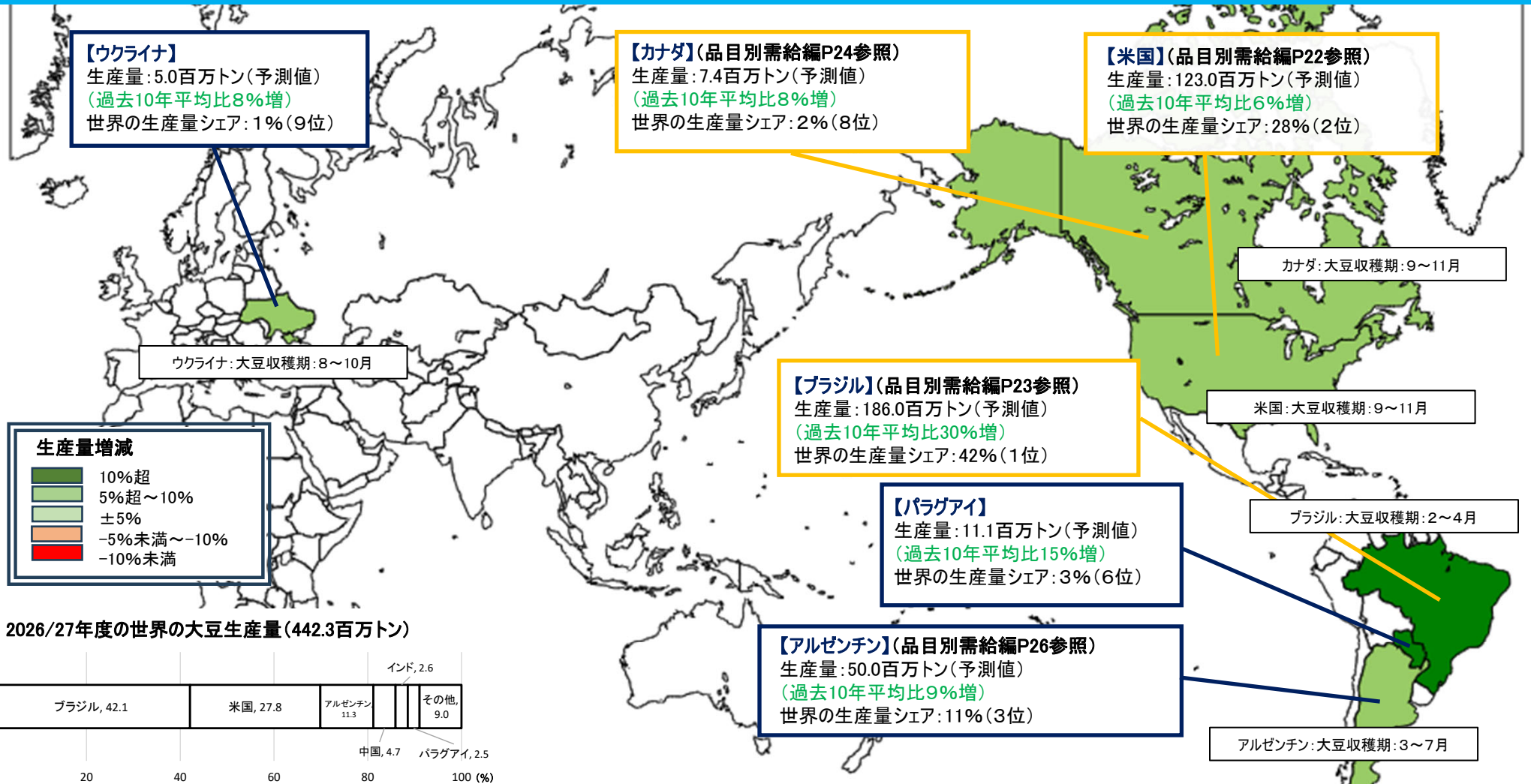
資料1-2 とうもろこしの主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2026/27年度(8月版)



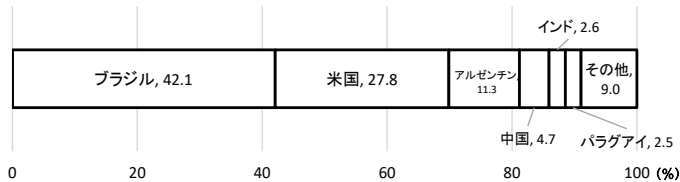
○ 2025年度の日本のとうもろこし輸入量は1,581万トンと、日本のとうもろこし国内消費仕向量(1,551万トン、うち飼料用は1,234万トン)のほぼ全量を占める。

出典: USDA「PS&D」(2026.8)、財務省「貿易統計」(2025年輸入量)、農林水産省「令和7年度食料需給表(概算値)」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

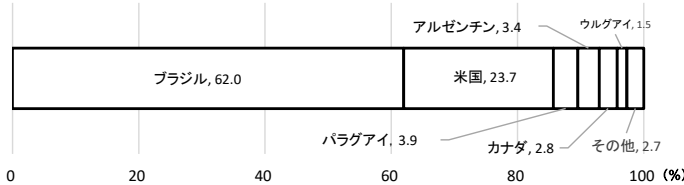
資料1-3 大豆の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2026/27年度(8月版)



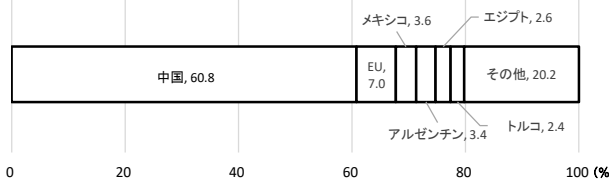
2026/27年度の世界の大豆生産量(442.3百万トン)



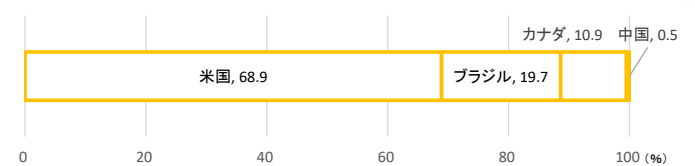
2026/27年度の世界の大豆輸出量(190.4百万トン)



2026/27年度の世界の大豆輸入量(189.3百万トン)



2025年の日本の大豆輸入量(3.3百万トン)



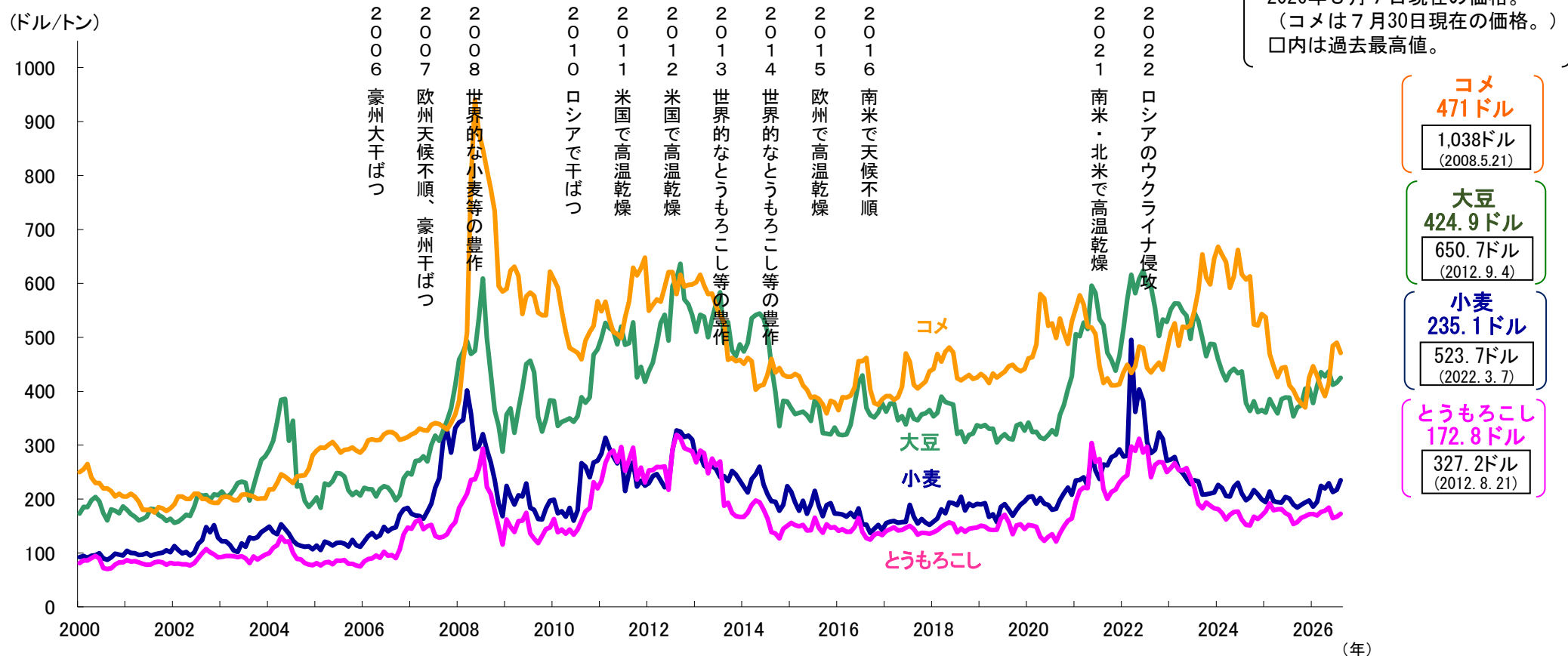
- 2025年度の日本の大豆輸入量は337万トンであり、日本の大豆国内消費仕向量(382万トン、うち大豆油などの加工用は275万トン、食用は90万トン)の88.3%を占める。
- 輸入大豆の1人1日当たり供給熱量は60kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,237kcal)の2.7%を占める(2025年度)。

出典: USDA「PS&D」(2026.8)、財務省「貿易統計」(2025年輸入量)、農林水産省「令和7年度食料需給表(概算値)」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

資料 1 — 4 穀物等の国際価格の動向 (ドル/トン)

- 穀物等価格は、とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から下落。2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥、2022年のロシアのウクライナ侵攻等により上昇も、侵攻前の水準まで下落。
- とうもろこし、大豆は、ウクライナ侵攻時に高騰も、ブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで下落。直近では、大豆は、米国の高温乾燥による作柄懸念や中国の買付け等を受け上昇傾向。
- 小麦は、2022年、ウクライナ侵攻により史上最高値を更新も、ウクライナからの臨時回廊等による輸出再開などもあり侵攻前の水準まで下落。直近では、米国の高温乾燥や欧州の熱波による作柄懸念、ウクライナ情勢悪化等を受け上昇傾向。
- コメは、2022年9月以降、インドの輸出規制強化、インドネシアの需要増等から上昇も、2024年以降、インドの輸出規制解除等を受け下落し、直近では、中東情勢の影響に加え、エルニーニョ現象の影響による次期作の見通しの不確実性を受け大きく上昇。

□ 穀物等の国際価格の動向



注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格(セツルメント)である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。なお、今月のコメは7月30日現在の価格。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料 1－5 サプライチェーン等に関する状況

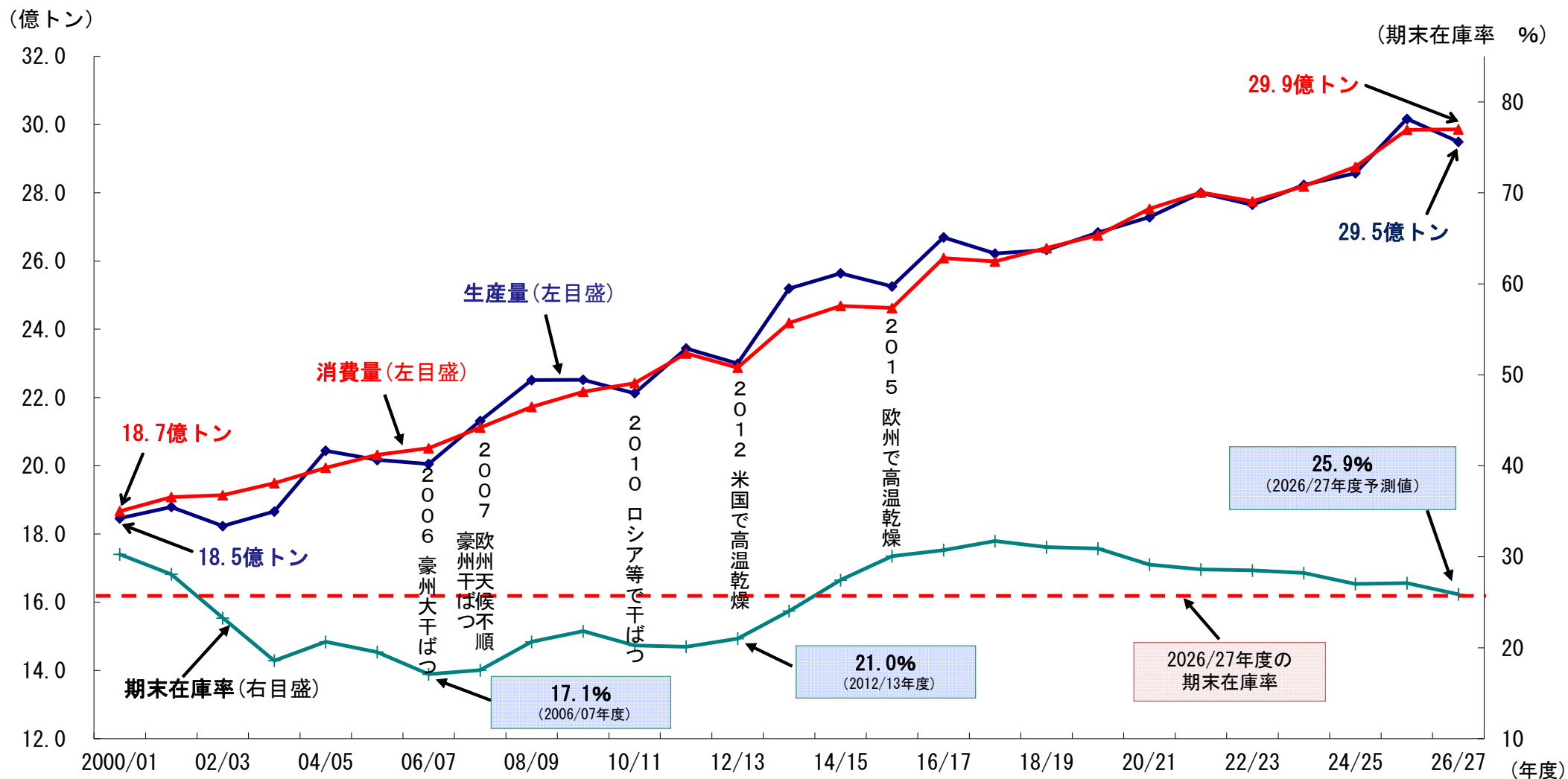
○黒海及びアゾフ海での攻撃激化により穀物等の輸出に懸念。欧州の河川の水位が30年ぶりの水準に低下（2026年8月18日時点）

生産国の情報	チョークポイント情報
○米国 ①USDA「Grain Exports Dashboard」によれば、<u>7月のメキシコ湾から日本向け穀物の海上運賃は、前月71.19ドル/トンから下落し68.95ドル/トン（2月54.19ドル/トン、前年同月51.75ドル/トン）。太平洋岸北西部（PNW）から日本向けは、前月36.75ドル/トンからわずかに下落し35.95ドル/トン（2月30.50ドル/トン、前年同月28.80ドル/トン）。</u> ②USDA「Transportation Updates and Regulatory News」によれば、<u>8月1日、BNSF鉄道（BNSF）とカナディアン・パシフィック・カンザスシティ（CPKC）は、2026/27市場年度の北部産小麦の鉄道運賃を引き上げ。BNSFは、ミネソタ州、モンタナ州、ノースダコタ州のほぼ全ての出発地から太平洋岸北西部（PNW）の輸出ターミナルへの運賃を1車両当たり150ドル引き上げ、サウスダコタ州発は1車両当たり50ドル引き上げ。イリノイ州シカゴ（東部インターチェンジ向け）への国内効率列車輸送については、路線ごとに運賃が引き上げられ、レッドリバーバレーでは1車両当たり最大225ドルの引き上げ。CPKCは、当初は、米国発のPNW輸出ターミナル及び国内製粉市場（例：イリノイ州シカゴ、ミズーリ州セントルイス）ルートについて、1車両当たり225ドルの運賃引き上げを計画していたが、先週、PNW向けの運賃引き上げ額を1車両当たり150ドルに修正し、BNSFの運賃引き上げに歩調を合わせた。コロンビア川・スネーク川流域のバージ運航事業者も、8月1日に基本運賃を3.5%引き上げ。</u> ○カナダ Quorum Corporation「Grain Monitoring Program Report for: July 2026 / Q4 2025–26 CY」によれば、<u>7月のカナダ西部の鉄道による穀物輸送量は、6月の543万トンと比べ7.1%減の505万トン。2025/26年度（2025年8月～2026年7月）の輸送量は、前年度と比べ10.2%増の6,504万トンとなり過去最高を記録。7月の港湾出荷量は、6月の381万トンと比べ1.3%減の376万トン。2025/26年度の出荷量は、前年度と比べ8.3%増の4,712万トン。7月の船舶の港での待機日数は、6月の6.9日から7.2日にわずかに増加。2025/26年度の平均待機日数は、前年度と比べ21.9%減の8.2日。7月の港別の待機日数は、バンクーバー港が6月10.9日から12.0日に増加、プリンス・ルパート港が9.2日から6.9日に減少となった一方、サンダーベイ港は前月と同じ2.1日。</u> ○米国、ブラジル、カナダ Argus Media社の報道によれば、米国の肥料メーカーであるモザイク社は、ホルムズ海峡の海上輸送停止による原材料の供給逼迫を理由に、北米及びブラジルのリン酸塩事業の更なる縮小を7月9日に発表。2026年初めに稼働率が引き下げられたフロリダ州パートウ工場及びルイジアナ州ファウスティナ工場の生産量を更に削減。また、フロリダ州リバービュー工場及びルイジアナ州アングル・サム工場の生産量も削減。同社は、5月に、2026年のリン酸塩の生産見通しである「少なくとも700万トン」を撤回すると発表し、ブラジルでの生産縮小に加え、ルイジアナ州及びフロリダ州工場の生産削減に向けた措置を開始していた。 ○欧州 報道によれば、<u>欧州の河川の水位が30年ぶりの水準に低下し、輸送コストの上昇や配送の遅延を招いている。ドナウ川とライン川の水位は30年ぶりの低水準に達しており、一部の地域では1976年の異常な干ばつに見舞われた夏よりも低い水準。</u>	○パナマ運河 ①7月のパナマ運河通航数は、1,055隻で1日平均34.03隻と前月32.50隻から増加。なお、<u>パナマックス閘門において、8、9月に複数の保守工事が予定されている。</u> ②パナマ運河のガトゥン湖の水位は、8月18日現在、84.1フィートで同月過去5年平均（85.0フィート）を下回る。 ③パナマ運河庁（2026.8.5）によれば、<u>パナマ運河のネオパナマックス閘門を通航する船舶の最大許容喫水について、48.5フィート（8月15日～）を8月26日から48.0フィートに引き下げ。更に9月3日から追って通知があるまで47.5フィートに引き下げ。なお、大部分の穀物輸送船舶が通航するパナマックス閘門については、喫水制限の予定はない。</u> ○黒海及びアゾフ海 報道によれば、<u>7月16日、ロシアとウクライナは黒海及びアゾフ海において船舶への攻撃を行った。穀物等の主要な輸出ルートである当該地域での攻撃激化により穀物等の輸出に懸念が生じている。</u> <u>8月12日、ウクライナの攻撃によりロシアのノヴォロシースクの主要穀物ターミナルの操業が停止。</u>

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2026/27年度は、2000/01年度に比べ1.6倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2026/27年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、25.9%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

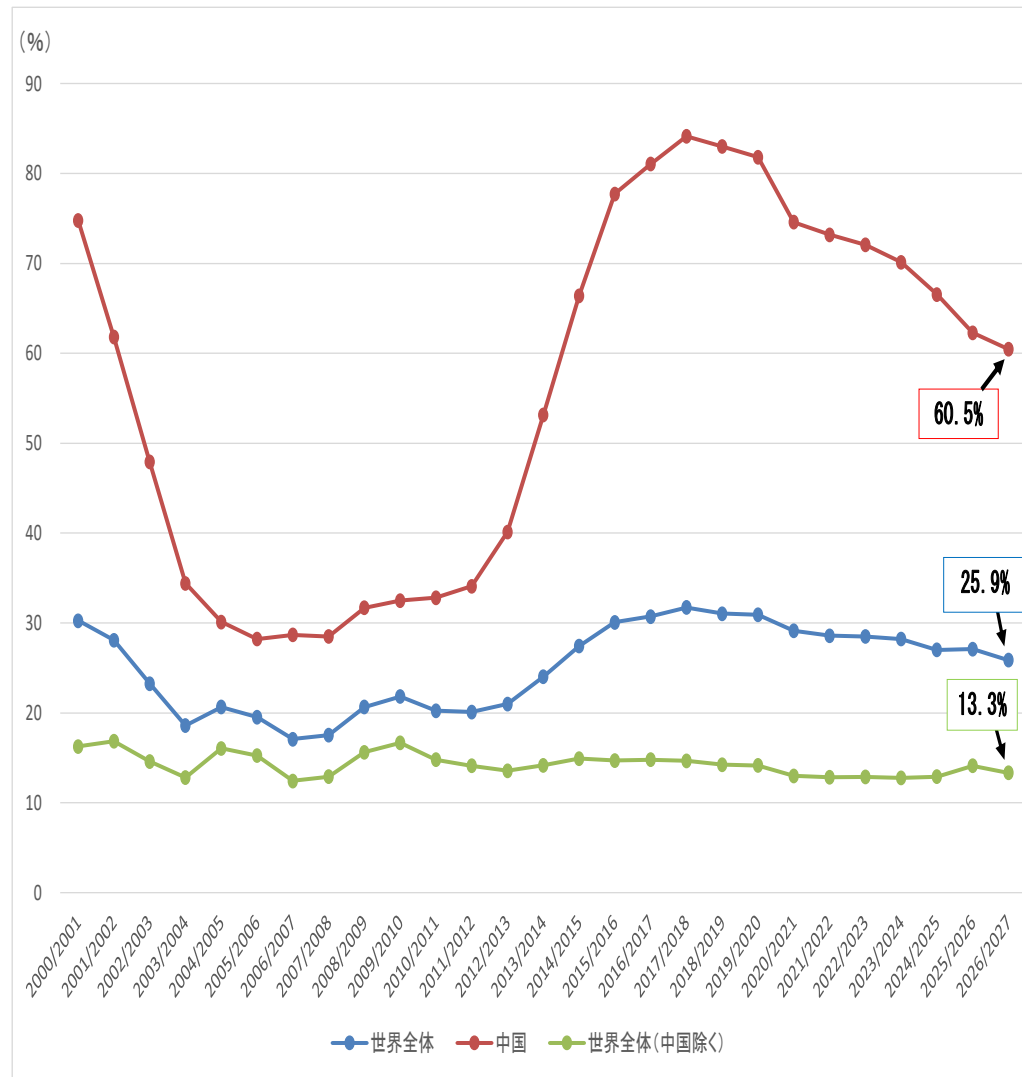


資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(August 2026)、「PS&D」

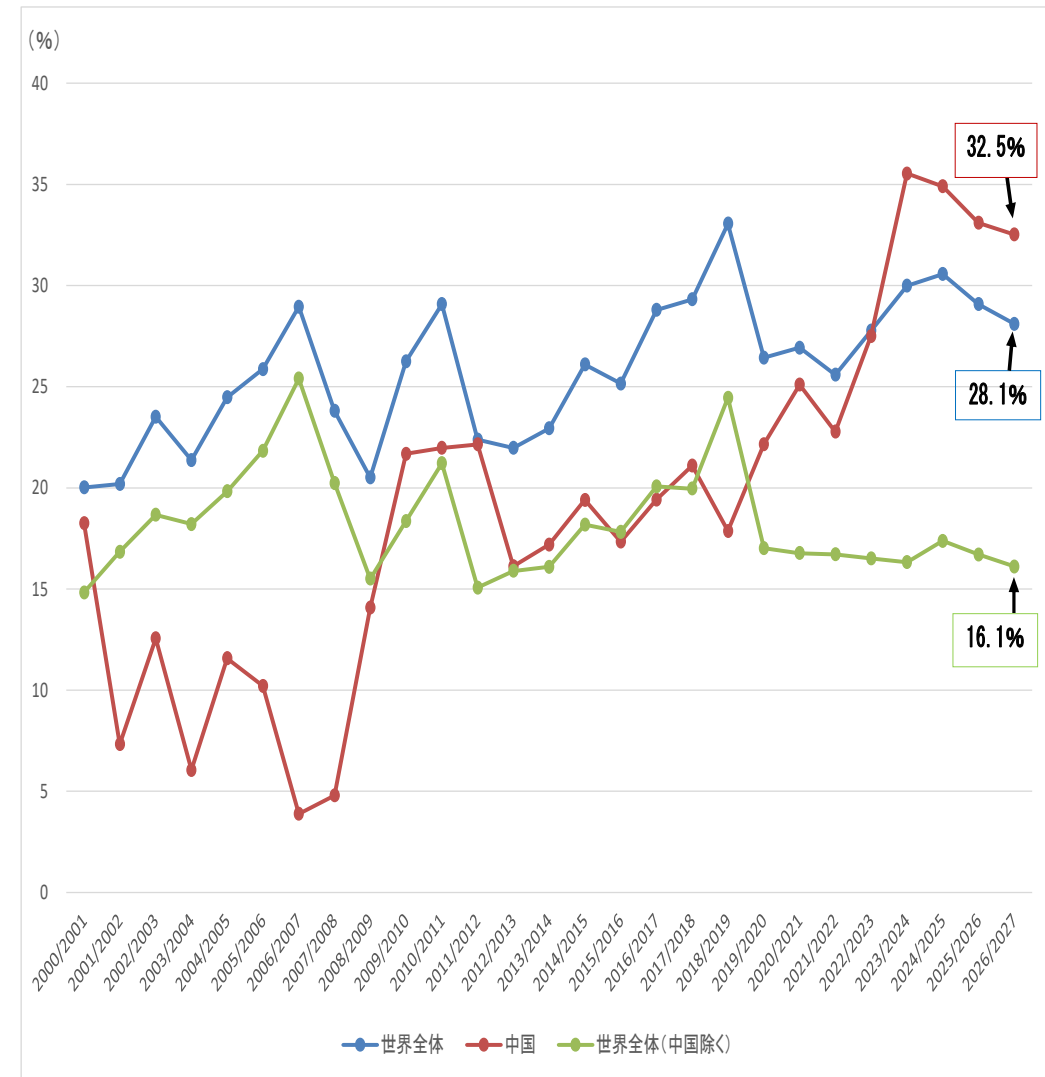
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(August 12, 2026)

注: 1) 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

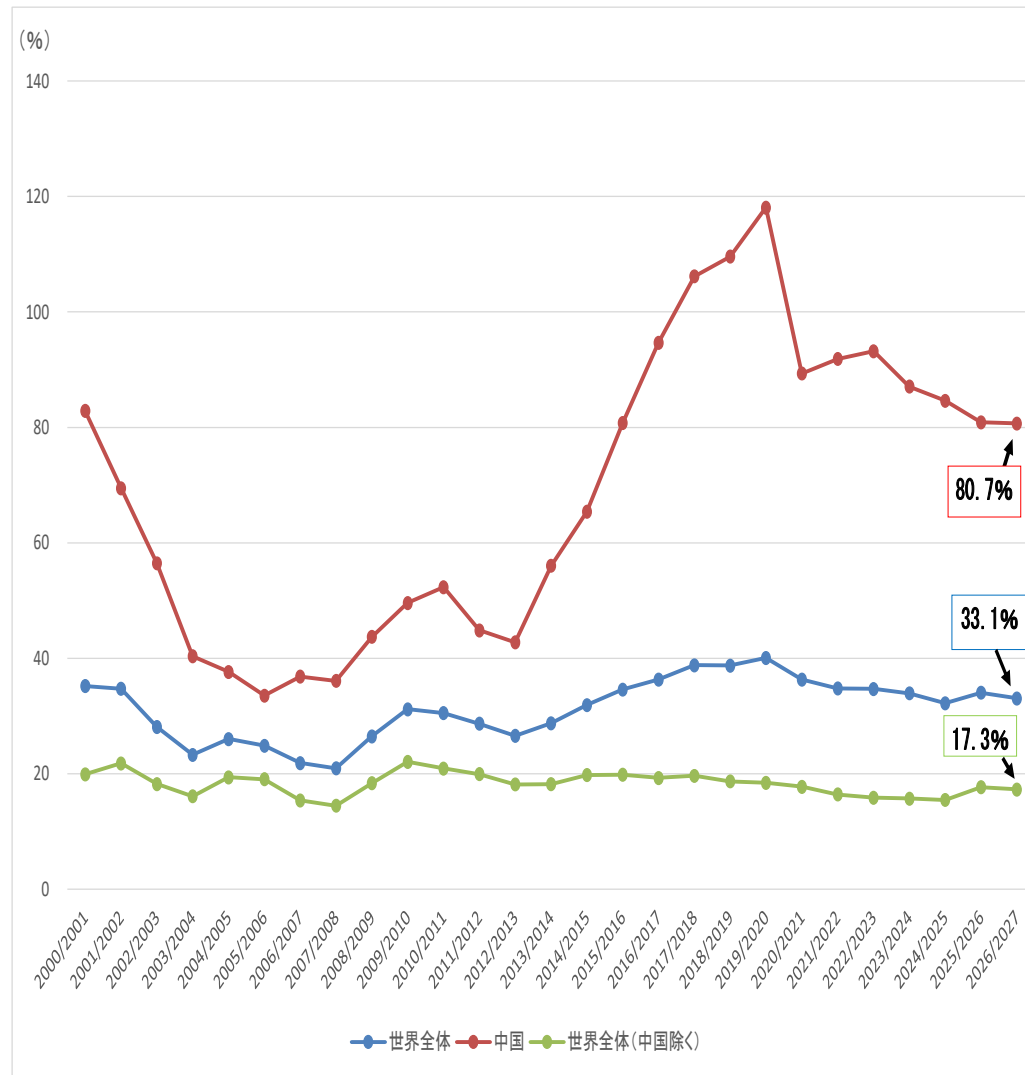
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

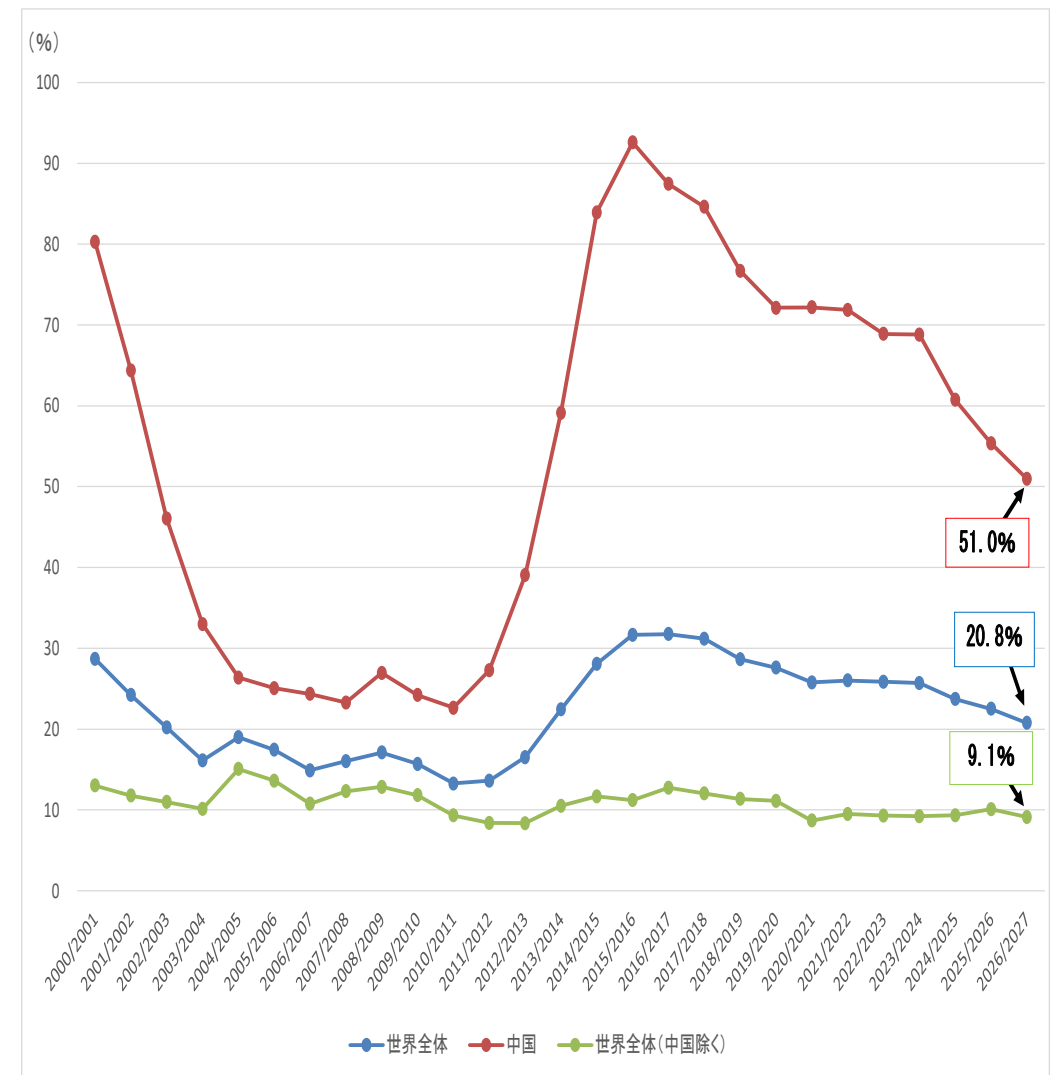
4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料：米国農務省「P S & D」(August 12, 2026)

注：1) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

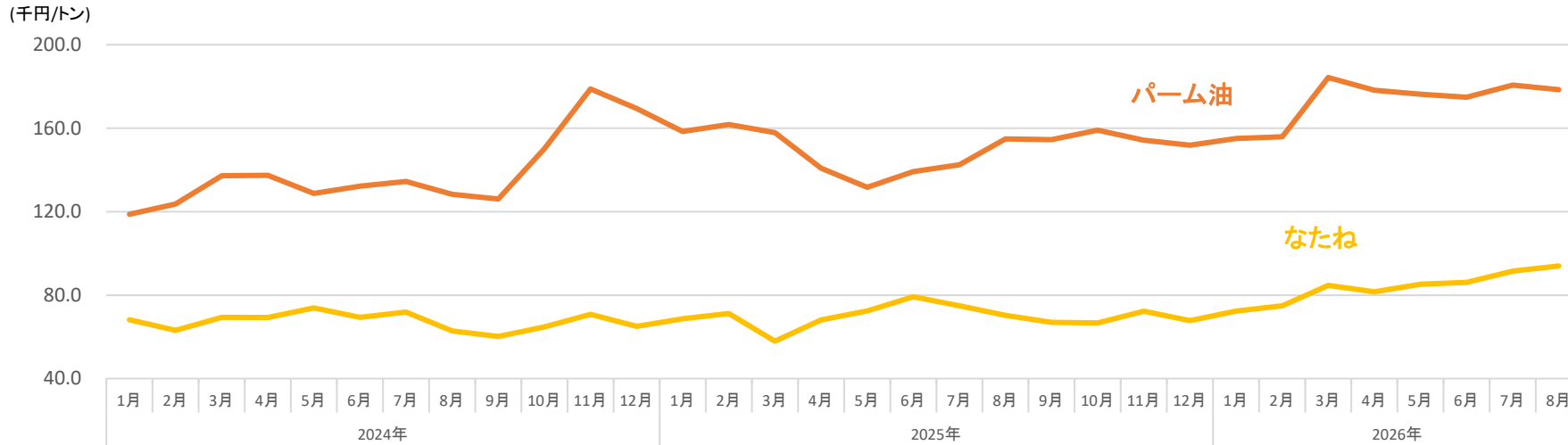
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料 4－1 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

- パーム油の直近の動きとして、中東情勢の影響による原油価格相場の高騰等から上昇している。8月の月央値は178.4千円/トンとなり、前月の月央値をやや下回ったが、依然として高い水準で推移している。
- なたねの直近の動きとして、中東情勢の影響による原油価格相場の高騰、ウクライナ情勢による影響等から上昇している。8月の月央値は94.0千円/トンとなり、2024年1月以降の最高値だった2026年7月の91.5千円/トンを2.5千円/トン上回る高値になった。
- コーヒーについては、2025年11月以降、供給見通しの改善を背景に下落傾向で推移している。2026年6月には、中東情勢の再燃やスーパーエルニーニョ発生への懸念、ブラジル産地の天候不順等により下旬頃から上昇に転じたが、月間平均では前月の平均を下回った。



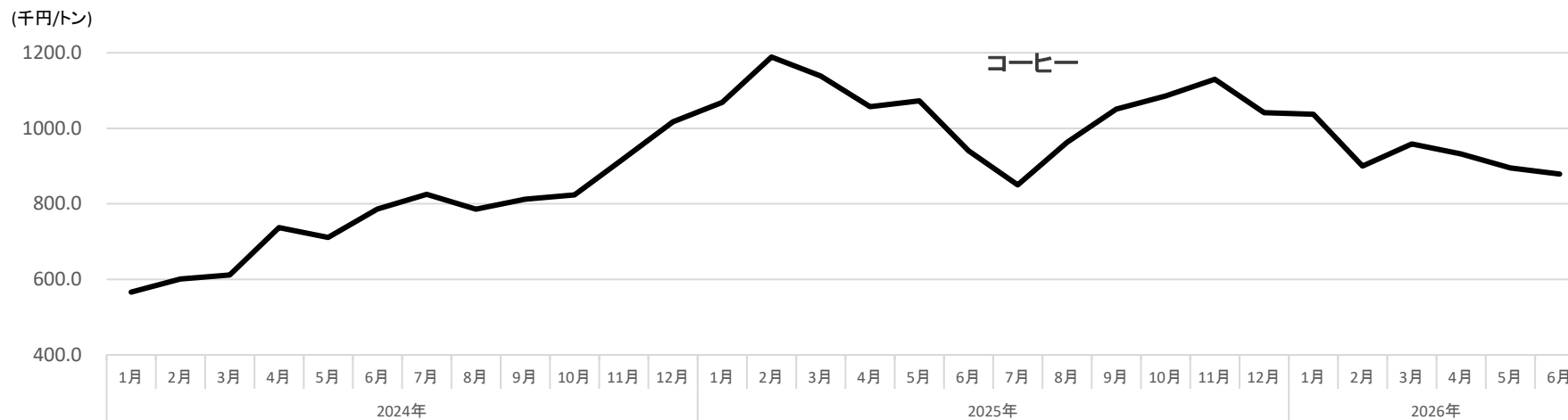
□内は2024年1月以降の最高値。

パーム油
178.4千円/トン

184.3千円/トン
(2026.3)

なたね
94.0千円/トン

94.0千円/トン
(2026.8)



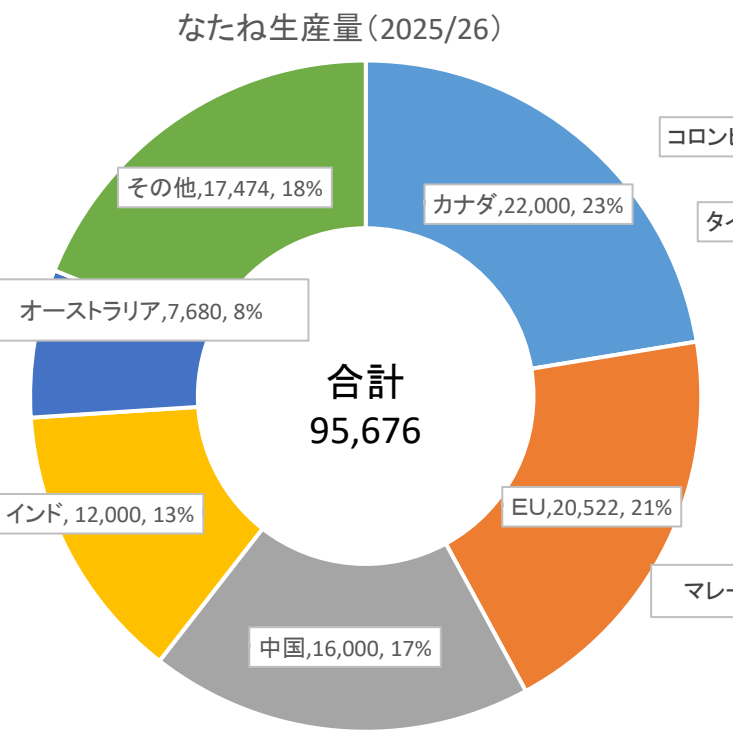
コーヒー
878.9千円/トン

1188.8千円/トン
(2025.2)

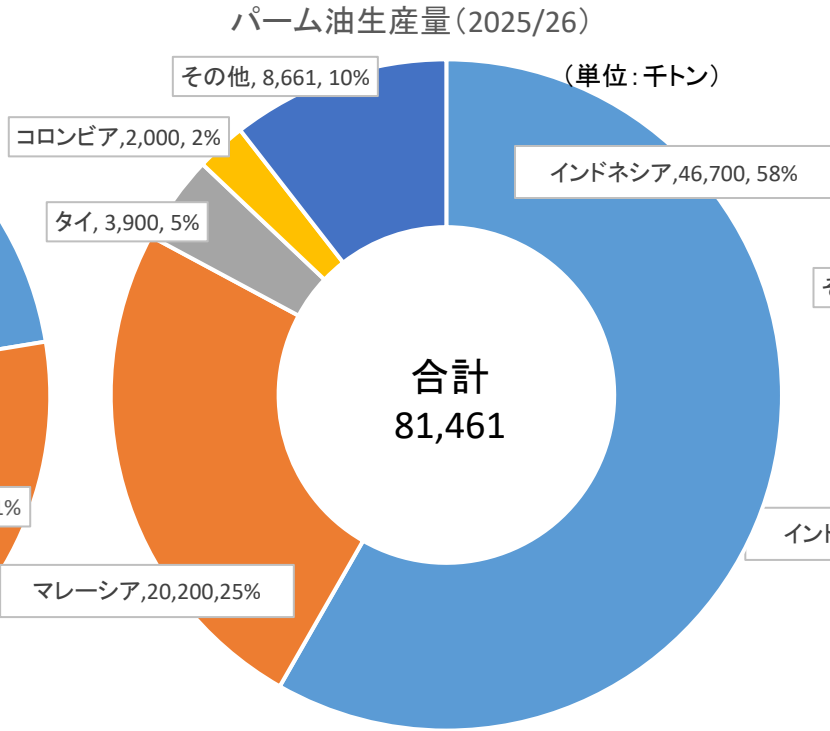
※ なたねの国際価格についてはカナダウィネベグなたね市場の先物価格(期近物)の月央値を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格(期近物)の月央値を使用し、為替レートから円に換算して算出。コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関(ICO)の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

資料 4－2 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

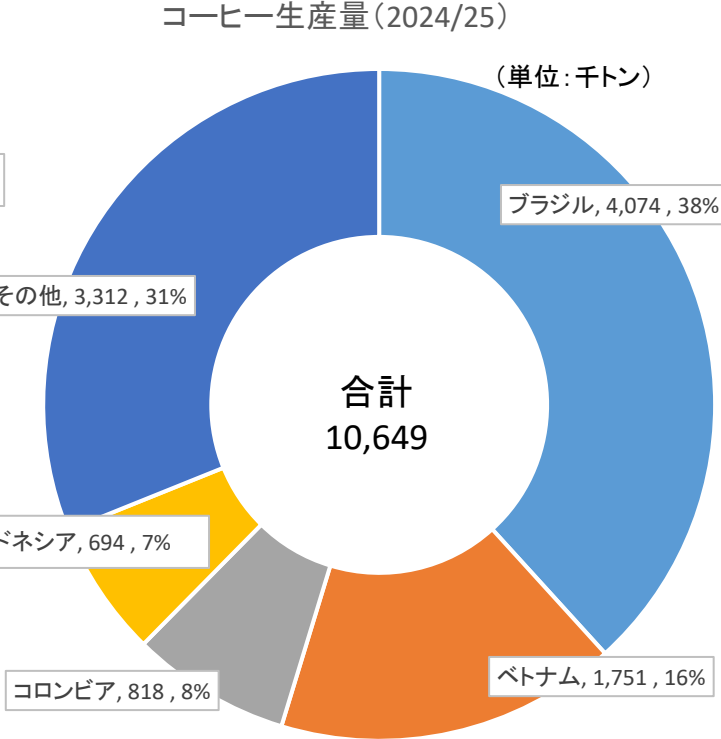
○主要生産国の生産状況（単位：千トン）



※米国農務省 (PS&D)
2026年8月時点



※米国農務省 (PS&D)
2026年8月時点



※国際コーヒー機関 (ICO) 統計資料
2025年7月時点

○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2025年））

なたね	輸入量	割合
カナダ	1,722	80.1%
オーストラリア	429	19.9%
その他	0	0.0%
合計	2,151	100.0%

※財務省「貿易統計」(HSコード：1205)

パーム油	輸入量	割合
マレーシア	568	87.6%
インドネシア	79	12.2%
その他	1	0.2%
合計	648	100.0%

※財務省「貿易統計」(HSコード：1511)

コーヒー	輸入量	割合
ブラジル	147	40.9%
ベトナム	90	25.1%
コロンビア	38	10.6%
その他	84	23.4%
合計	359	100.0%

※財務省「貿易統計」(HSコード：0901.11～0901.12)

資料 4－3 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移①

①なたね 単位(千円/トン)

	2024年												2025年												2026年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
なたね	68.2	63.1	69.4	69.3	73.9	69.4	71.9	62.8	60.2	64.8	70.8	65.1	68.7	71.2	58.0	68.2	72.4	79.2	74.9	70.4	67.0	66.7	72.3	67.8	72.4	74.9	84.7	81.7	85.2	86.2	91.5	94.0				
前月比	99.5	92.5	109.9	99.9	106.6	93.8	103.7	87.3	126.1	107.7	109.3	91.9	105.7	103.7	81.4	117.6	106.3	109.4	94.6	93.9	95.2	99.6	108.4	93.7	106.8	103.5	113.0	96.4	104.4	101.1	106.2	102.7				
前年同月比	84.6	76.6	95.4	90.8	100.1	91.4	83.5	73.5	812.1	81.5	89.0	94.9	100.7	112.9	83.5	98.3	98.0	114.2	104.2	112.1	111.4	103.0	102.1	104.3	105.4	105.2	146.1	119.8	117.6	108.7	122.1	133.5				

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 カナダウィニペグなたね定期相場の各月の月央値(期近物)から算出

②パーム油 単位(千円/トン)

	2024年												2025年												2026年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
パーム油	118.7	123.7	137.2	137.4	128.7	132.2	134.4	128.3	126.1	150.1	178.8	169.4	158.4	161.8	157.8	140.9	131.7	139.2	142.5	154.8	154.5	159.0	154.2	151.8	155.1	155.9	184.3	178.1	176.3	174.8	180.6	178.4				
前月比	106.4	104.2	110.9	100.2	93.7	102.7	101.7	95.4	98.2	119.1	119.1	94.7	93.5	102.2	97.6	89.2	93.5	105.7	102.3	108.7	99.8	102.9	97.0	98.4	102.1	100.5	118.2	96.7	98.9	99.2	103.3	98.8				
前年同月比	104.4	103.2	113.7	122.6	112.2	124.1	114.0	107.1	109.5	127.3	141.8	151.8	133.4	130.8	115.0	102.5	102.3	105.3	106.0	120.7	122.6	106.0	86.2	89.6	97.9	96.4	116.7	126.5	133.8	125.6	126.8	115.2				

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 マレーシアパーム油定期相場の各月の月央値(期近物)から算出

③コーヒー

単位(千円/トン)

	2024年												2025年												2026年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
コー ヒー	566.3	601.1	611.7	737.0	710.8	786.3	825.0	785.5	812.1	823.4	920.3	1017.3	1068.8	1188.8	1138.7	1057.4	1072.9	940.6	850.2	963.0	1050.9	1085.8	1129.9	1041.6	1037.4	900.1	958.9	932.2	895.4	878.9						
前月 比	102.9	106.2	101.8	120.5	96.5	110.6	104.9	95.2	103.4	101.4	111.8	110.5	105.1	111.2	95.8	92.9	101.5	87.7	90.4	113.3	109.1	103.3	104.1	92.2	99.6	86.8	106.5	97.2	96.1	98.2						
前年 同月 比	127.4	116.4	122.4	140.1	135.1	148.6	169.9	157.7	163.3	164.6	170.9	184.9	188.8	197.8	186.2	143.5	150.9	119.6	103.1	122.6	129.4	131.9	122.8	102.4	97.1	75.7	84.2	88.2	83.5	93.4						

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 国際コーヒー機関(ICO)の複合指標価格月次平均から算出
2 ICO複合指標価格は、米国、ドイツ、フランスの3大市場の現物の成約価格を収集しICOの定める方法で4品種ごとの加重平均値を算出したもの。

資料5 食品小売価格の動向

○ 令和8年7月の国内の主な加工食品の消費者物価指数は102.4～112.4(前年同月比は 2.1%～11.6%)の範囲内。

消費者物価指数(総務省)

	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	直近6か月						
品目	年平均	年平均	年平均	R8 2月	3月	4月	5月	6月	7月	上昇率 (前年 同月比)
食パン	93.6	96.2	100.0	99.7	100.0	99.1	99.0	99.2	103.1	2.6%
即席めん	100.2	102.5	100.0	97.7	98.4	102.5	103.4	103.4	103.5	2.6%
豆腐	94.4	97.4	100.0	101.5	101.6	101.6	101.7	102.5	106.5	6.2%
食用油 (キャノーラ油)	107.4	99.5	100.0	105.0	103.1	104.7	105.0	107.0	112.4	11.6%
みそ	90.5	95.1	100.0	107.9	109.0	109.1	108.3	108.5	109.4	10.5%
マヨネーズ	96.0	98.3	100.0	104.7	104.1	104.0	104.5	104.3	104.1	6.1%
チーズ	94.2	95.6	100.0	103.0	102.2	105.7	98.6	102.8	102.4	2.1%
バター	83.2	91.8	100.0	105.5	106.3	106.7	107.5	107.9	107.3	4.8%
生鮮食品を 除く食料	90.0	93.4	100.0	102.5	102.8	102.7	102.9	103.2	103.6	3.0%

資料:総務省「消費者物価指数」
注:令和7年の平均値を100とした指数で表記。

【参考】

食品価格動向調査(農林水産省)

	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	直近7か月								
品目	年 平均	年 平均	年 平均	R8 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)
食パン	114.5	117.9	124.3	124.5	124.5	124.2	123.8	125.1	123.2	127.9	3.8%	2.1%
即席めん	117.5	118.8	117.0	117.9	117.3	117.9	122.2	123.4	123.4	124.6	1.0%	5.1%
豆腐	113.0	116.4	119.3	120.7	120.2	119.3	121.1	120.7	121.5	127.2	4.7%	7.3%
食用油 (キャノーラ油)	159.4	145.8	142.0	144.1	145.4	146.7	146.4	144.5	147.0	152.4	3.7%	7.9%
みそ	105.9	109.5	114.9	126.5	126.9	128.6	128.1	127.7	128.6	128.8	0.2%	13.4%
マヨネーズ	139.8	141.2	142.5	150.3	151.3	149.6	150.9	152.0	150.9	152.0	0.7%	8.9%
チーズ	126.5	127.0	133.8	133.7	139.7	140.2	140.7	131.7	137.2	139.2	1.5%	3.7%
バター	108.0	119.3	131.4	138.9	137.4	138.9	139.4	139.8	139.6	139.2	-0.3%	2.2%

資料:農林水産省「食品価格動向調査」
注1:令和2年の平均値を100とした指数で表記。
注2:調査は原則、各都道府県10店舗で実施。

資料6 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

○独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は毎月25日頃に海外の畜産物の需給動向を『月報 畜産の情報』（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_000168.html）で公表

○2026年9月号（8月25日に公表）の各品目の主な動きは以下の通り

◆牛肉

（米国）26年6月の牛肉生産量は前年同月比0.9%増、肉用繁殖後継牛の頭数が増加

（EU）26年4月も牛肉生産量の減少傾向が続く

（豪州）牛価格は高値を維持するも、主要輸出市場で関税措置の影響が顕在化

（NZ）NZ牛肉輸出は米国向け中心に拡大

◆豚肉

（カナダ）対米生体豚輸出が増加傾向で推移する一方、豚肉輸出はやや減少

（ブラジル）26年1～6月の豚肉輸出は好調ながら、生体豚取引価格は下落が続く

◆牛乳・乳製品

（米国）26年6月の乳用経産牛飼養頭数は前年同月比2.0%増、33年ぶりの高水準

（EU）生乳出荷量の増加に伴い、バターと脱脂粉乳の生産量が増加

（NZ）26/27年度の生乳生産は好調スタートも、乳価は引き下げへ

（中国）26年上期の生乳生産量は増加、生乳価格は下げ止まり

◆飼料穀物

（世界・トウモロコシ）26/27年度の期末在庫は、前月から下方修正でかなりの程度減少

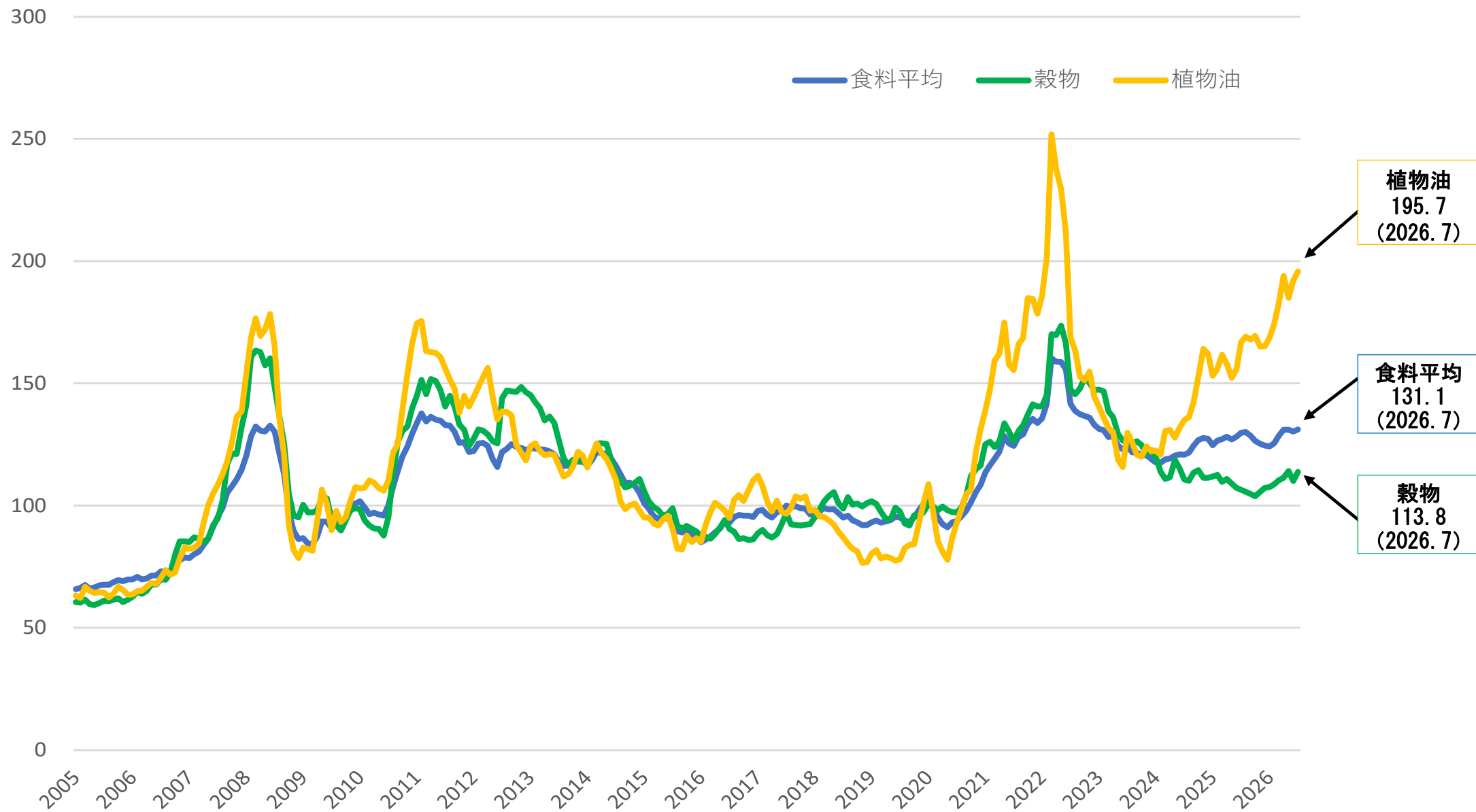
（世界・大豆）生産量は増加も、消費量や輸出量の上方修正から大豆期末在庫は下方修正

（米国）米国は生産量の減少などから期末在庫はかなり大きく減少

（中国）トウモロコシおよび大豆の価格動向

資料 7 FAO食料価格指数

(2014-2016平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2026.7)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

【今月のコラム】

南米・チリの食事情③：日本からの「焼き肉」輸出の可能性

1. はじめにーこれまでのまとめー

チリでは、前回までにご紹介したように、アサードに代表される肉食文化が社会に深く根付いており、肉は日常生活に欠かせない存在となっています。その一方で、こうした高い肉需要を背景として、特に牛肉については海外からの輸入への依存が続いているという特徴があります。

2. チリにおける日本食

このように「肉を大量に消費する国」でありながら、供給面では国外に依存する構造がある中で、改めて現地の食のあり方を見ると、興味深い点として、日本で一般的に見られるような「焼き肉店」をほとんど見かけないことに気づきます。

一方で、日本食そのものがチリで受け入れられていないわけではありません。特に寿司はすでに広く普及しており、サンティアゴをはじめとする都市部では多くの店舗が営業しています。ただし、その多くは日本で一般的な寿司とは異なり、アボカドやクリームチーズを使うなど現地の嗜好に合わせた形にアレンジされた「Sushi」として提供されています（写真1）。このようなローカライズの過程は、日本食が異なる文化の中で受容されていく上で避けて通れないものと考えられます。



写真1：当地でよくみかける「Sushi」

【今月のコラム】

3. チリにおける日本食、特に「焼き肉」普及の可能性

肉料理に目を向けると、日本式の焼き肉はまだ一般的とは言えませんが、韓国料理としての焼肉店は一定数存在しており、都市部では徐々に認知されている様子が見えます。このことは、卓上で肉を焼くというスタイル自体が受け入れられていないわけではなく、むしろ味付けや提供方法、さらには文化的な背景といった要素の違いが、普及の度合いに影響を与えている可能性を示しています。言い換えれば、外来の食文化はそのままの形で広がるのではなく、現地の食習慣や価値観と折り合う形で変化しながら受け入れられていくということです。



写真2:韓国料理店での焼き肉

こうした観点からチリの肉文化を改めて見てみると、その特徴は「大量に消費される一方で、食べ方は比較的シンプルである」という点にあります。アサードでは塊肉を塩のみで焼き、皆で分け合って食べるスタイルが一般的であり、日本の焼き肉のように部位ごとの違いや細かな味付けのバリエーションを楽しむ文化はあまり見られません。この違いは、食材に対する価値の置き方や、食事のあり方そのものの違いともいえます。

このような環境の中で、日本の食文化との接点も徐々に広がっています。例えば、大使館の行事においては、日本酒の試飲や手巻き寿司の実演を通じて日本食の魅力を紹介する機会がありますが、こうした比較的受け入れられやすい要素から日本食への関心が高まっている印象を受けます。寿司の普及状況を見ても、日本食が段階的に浸透していることは明らかであり、今後どのような形で広がっていくのかは注目されることです。



写真3:天皇誕生日レセプションでの手巻き寿司実演

その中で、日本の焼き肉文化については、現時点では一定の広がりを見せているとはいえ難しいものの、チリの食文化との関係で興味深い位置にあるといえます。すなわち、肉そのものに対する需要はすでに非常に大きい一方で、その食べ方には比較的単純な傾向があるため、新しいスタイルの食べ方が入り込む余地も考えられます。他方で、これまで見てきたように、チリの食文

【今月のコラム】

化は共同体的で共有を重視する側面が強く、日本の焼き肉のような個別的・多様な食べ方がどの程度受け入れられるかは、文化的な適合性という観点から慎重に見る必要もあるといえるでしょう。

4. おわりに

このように整理すると、チリという市場は単に食材を供給する場というよりも、食べ方や食文化そのものがどのように受容されるかという点において特徴を持つ市場であるといえます。寿司が現地化を経て広く浸透したように、日本食は今後もさまざまな形で変化しながら広がっていく可能性があります。その中で、肉文化が強く根付くチリにおいて、日本の焼き肉という食べ方がどのように位置づけられていくのかは、今後の展開を考える上でも興味深い論点です。

以上、3回にわたり、チリの食文化と食料事情について、特に肉を切り口にご紹介してきました。アサードに象徴される食文化、そこから生まれる高い肉需要、そしてそれを支える輸入依存の構造といった要素は相互に結びついており、チリの食料安全保障を理解する上で重要な視点となります。日本食が広がっていく中で、アサード文化の国において「焼き肉」という食べ方は、新たな可能性を秘めていると考えられます。本連載が、チリという国の食をめぐる状況を理解する一助となれば幸いです。

※原稿に含まれる見解は個人の見解であり、所属組織の見解を示すものではありません。

文責：吉川 隆史（在チリ日本国大使館 一等書記官）

本稿は、世界各国・地域の駐在員の方々にご協力をいただき、最新の現地情報をご紹介しますものです。日本とは異なる文化や経済、国土条件等を背景として、それぞれの国や地域における食料の生産、流通、消費の特徴などについてご紹介したいと思います。

(品目別需給編)

I 穀物

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDA の見通し> 2026/27 年度

生産量

前年度比



前月比



・ウクライナ、カナダ、カザフスタン等で上方修正されたものの、EU、英国等で下方修正され、前月から下方修正された。

消費量

前年度比



前月比



・バングラデシュ等で下方修正されたものの、EU、パキスタン、インドネシア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量

前年度比



前月比



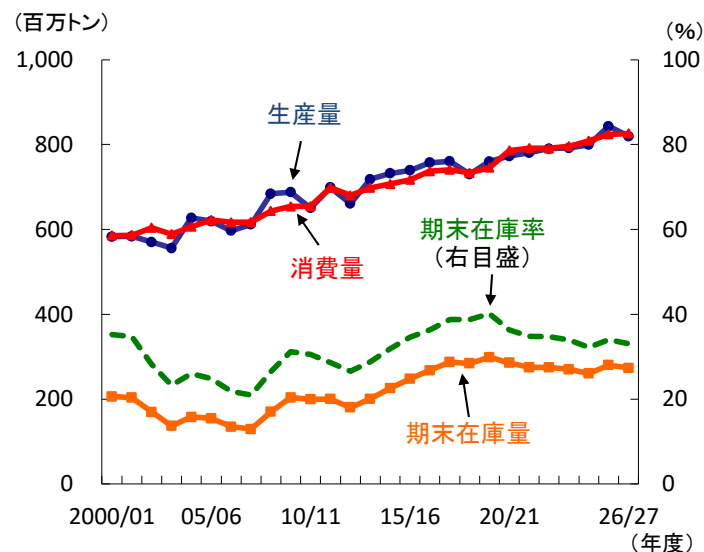
・カナダ、カザフスタン等で上方修正されたものの、ロシア、ウクライナ等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量

前年度比



前月比



資料:USDA「PS&D」(2026.8.12)をもとに農林水産省にて作成

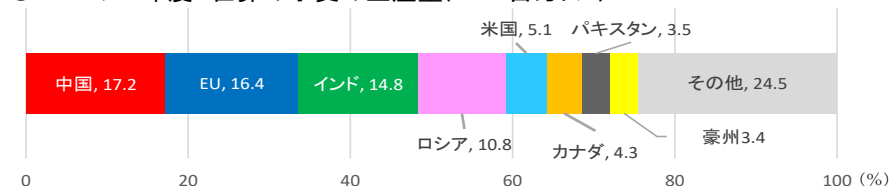
◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

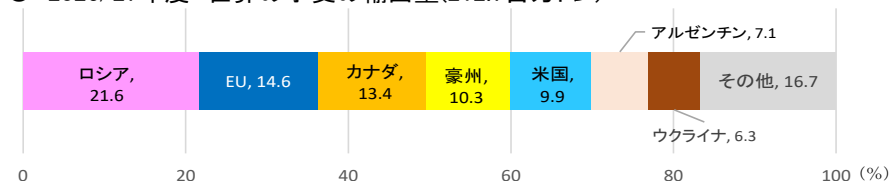
年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	799.1	843.4	819.3	▲ 0.7	▲ 2.9
消費量	808.8	823.6	826.3	0.1	0.3
うち飼料用	157.2	168.2	163.8	1.6	▲ 2.6
輸出量	210.5	227.4	212.7	▲ 0.3	▲ 6.5
輸入量	201.3	221.3	208.3	0.1	▲ 5.9
期末在庫量	260.5	280.2	273.3	0.4	▲ 2.5
期末在庫率	32.2%	34.0%	33.1%	0.05	▲ 1.0

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 August 2026)

○ 2026/27年度 世界の小麦の生産量(819.3百万トン)



○ 2026/27年度 世界の小麦の輸出量(212.7百万トン)



○ 2026/27年度 世界の小麦の輸入量(208.3百万トン)



(2)国別の小麦の需給動向

＜ 米国 ＞ 2026/27 年度の生産量は前年度から 22.9%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、収穫面積及び単収の引下げを受け前月予測から 0.2 百万トン下方修正され、収穫面積及び単収が大きく減少することから前年度から 22.9%減、過去5年平均 (49.3 百万トン)から 15.6%減の 41.7 百万トンとなる見込み。

同「Wheat Outlook」(2026.8.14)によれば、2026/27 年度の実産量は、1970/71 年度(36.8 百万トン)以来の低水準で、長期的な作付面積の減少とグレートプレーンズ諸州の干ばつによる Hard Red Winter の生産減が要因であり、全ての銘柄で前年度から減少が見込まれている。Hard Red Winter は前年度から 42.5%減の 12.6 百万トンと 1957/58 年度(11.7 百万トン)以来の低水準、Hard Red Spring が前年度から 5.3%減の 11.8 百万トン、Soft Red Winter が同 18.6%減の 7.8 百万トン、White 小麦が同 0.8%減の 7.6 百万トン、Durum(デュラム小麦)が同 23.0%減の 1.8 百万トンとなる見込み(表1)。

同「Crop Production」(2026.8.12)によれば、2026/27 年度の作付面積は、前年度から 5.9%減の 1,726 万ヘクタールとなる見込み。種類別には、冬小麦が同 5.7%減の 1,265 万ヘクタール、デュラム小麦が同 18.5%減の 72 万ヘクタール、その他春小麦が同 3.8%減の 389 万ヘクタール。2026/27 年度の収穫面積は、前年度から 13.9%減の 1,297 万ヘクタールとなる見込み。種類別には、冬小麦が同 17.5%減の 851 万ヘクタール、デュラム小麦が同 18.6%減の 70 万ヘクタール、その他春小麦が同 3.4%減の 376 万ヘクタール。

同「Crop Progress」(2026.8.17)によれば、8月 16 日現在、2026/27 年度の冬小麦の収穫進捗率は 96%と、前年同期 93%、過去5年平均 94%を上回りほぼ終了。また、春小麦の作柄評価は、「良～優良」の割合が 52%と、前年同期 50%を上回っており、収穫進捗率は 41%と、前年同期 33%、過去5年平均 34%を上回っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 14.6%減、過去5年平均(21.8 百万トン)から 3.1%減の 21.1 百万トンとなる見込み。

同「Global Agricultural Trade System」よれば、2026/27 年度のうち 2026 年6月の輸出量は、前年同月(175.8 百万トン)に比べ 16.2%減の 147.3 百万トン。輸出先国別には、メキシコ 29.7 百万トン(20.2%)、フィリピン 23.1 百万トン(15.7%)、韓国 17.9 百万トン(12.2%)の順となっている(表2)。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、生産量の引下げを受け前月予測から 0.2 百万トン下方修正され、前年度から 22.1%減の 19.5 百万トンとなる見込み。

小麦－米国(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)					
年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年6月～27年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	53.9	54.0	41.7	▲ 0.2	▲ 22.9
消 費 量	31.1	30.9	29.9	-	▲ 3.3
うち飼料用	3.0	3.2	2.2	-	▲ 32.7
輸 出 量	22.6	24.7	21.1	-	▲ 14.6
輸 入 量	4.1	3.4	3.8	-	12.1
期末在庫量	23.3	25.0	19.5	▲ 0.2	▲ 22.1
期末在庫率	43.4%	45.0%	38.3%	▲ 0.3	▲ 6.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	15.63	15.07	12.97	▲ 0.01	▲ 13.9
単収(t/ha)	3.44	3.58	3.21	▲ 0.01	▲ 10.3

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,「World Agricultural Production」(12 August 2026)

表1 米国の銘柄別生産量の推移

単位:百万トン						
銘柄	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25	2025/26	2026/27
Hard Red Winter	20.4	14.5	16.2	21.0	21.9	12.6
Hard Red Spring	8.1	12.2	12.7	13.7	12.5	11.8
Soft Red Winter	9.8	9.1	12.2	9.4	9.6	7.8
White	5.5	7.4	6.4	7.5	7.7	7.6
Durum	1.0	1.7	1.6	2.2	2.3	1.8
All Wheat	44.8	44.9	49.1	53.9	54.0	41.7

資料:USDA「Wheat Data」(2026.8.13)をもとに農林水産省で作成

表2 米国の小麦の輸出先国と輸出量

2025/26年度 (2025年6月～2026年5月)			2025/26年度 (2025年6月)			2026/27年度 (2026年6月)		
国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
メキシコ	441.0	18.2	フィリピン	27.1	15.4	メキシコ	29.7	20.2
フィリピン	254.3	10.5	メキシコ	25.5	14.5	フィリピン	23.1	15.7
日本	210.1	8.7	ナイジェリア	15.4	8.8	韓国	17.9	12.2
韓国	187.5	7.8	日本	13.0	7.4	日本	12.7	8.6
ナイジェリア	165.2	6.8	台湾	10.7	6.1	ナイジェリア	8.6	5.8
インドネシア	109.4	4.5	モーリタニア	9.9	5.6	インドネシア	6.5	4.4
その他	1,049.9	43.4	その他	74.2	42.2	その他	48.6	33.0
計	2,417.5	100.0	計	175.8	100.0	計	147.3	100.0

資料:USDA「Global Agricultural Trade System」をもとに農林水産省で作成

＜ カナダ ＞ 2026/27 年度の生産量は前年度から 9.2%減少する見込み(AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2026.8.20)によれば、2026/27 年度の実産量は、単収の引上げを受け前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、収穫面積及び単収が減少することを受け史上最高の前年度から 9.2%減となるものの、過去5年平均(33.3 百万トン)から 8.9%増の 36.3 百万トンとなる見込み。種類別には、普通小麦は、単収の引上げを受け前月予測から 0.8 百万トン上方修正され、史上最高の前年度(32.8 百万トン)から 8.6%減となるものの、過去5年平均(28.0 百万トン)から 7.1%増の 30.0 百万トンとなる見込み。デュラム小麦も、単収の引上げを受け前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、前年度(7.1 百万トン)から 12.1%減となるものの、過去5年平均(5.3 百万トン)から 18.0%増の 6.3 百万トンとなる見込み(図)。2026/27 年度の作付面積は、普通小麦が前年度から4%減、過去5年平均からはわずかに減の 7.95 百万ヘクタール、デュラム小麦が前年度から 10%減、過去5年平均から4%減の 2.37 百万ヘクタールとなる見込み。8 月初旬の作柄は、春小麦はプレーリー地方の生育は概ね良好で、「良～優良」の割合がサスカチュワン州 87%、アルバータ州 64%、デュラム小麦は7月末時点でサスカチュワン州 79%、アルバータ州 77%と評価されている。

USDA「Grain and Feed Update」(2026.7.31)によれば、2026/27 年度の春小麦は、平年を上回る降雨と低温のため作付けが遅延したものの、単収は平年並みから平年以上が見込まれている。一方でデュラム小麦は、作付けの遅延はなく、単収も平年並みから平年以上が見込まれている。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からわずかに上方修正されたものの、前年度から 4.8%減の 28.4 百万トンとなる見込み。種類別には、普通小麦は前月予測から 0.3 百万トン上方修正されたものの、前年度から 2.1%減の 23.5 百万トン。デュラム小麦は北アフリカ及びトルコで豊作が見込まれることによる世界的な供給増を受け前月予測から 0.2 百万トン下方修正され、前年度から 15.8%減の 4.9 百万トン(図)。

カナダ穀物委員会(CGC)によれば、2025/26 年度のうち 2025 年8月～2026 年6月の輸出量は、前年同期(2,734.4 万トン)に比べ6.3%減の 2,563.0 万トン。種類別には、普通小麦が前年同期(2,198.7 万トン)に比べ6.8%減の 2,049.8 万トンで、輸出先国別には、中国 237.0 万トン(11.6%)、インドネシア 222.7 万トン(10.9%)、日本 189.8 万トン(9.3%)の順。デュラム小麦は前年同期(535.7 万トン)に比べ 4.2%減の 513.2 万トンで、輸出先国別には、アルジェリア 146.3 万トン(28.5%)、イタリア 99.5 万トン(19.4%)、モロッコ 89.2 万トン(17.4%)の順(表)。

AAFC によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 6.4%減の 5.5 百万トンとなる見込み。

小麦一カナダ(春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

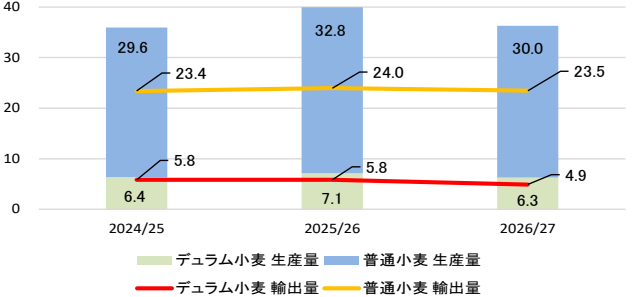
年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(26年8月～27年7月)			
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度増減率(%)	
生 産 量	35.9	40.0 (40.0)	35.0 (36.3)	1.0 (1.0)	▲12.4	(▲9.2)
消 費 量	8.3	8.9 (8.6)	8.9 (8.4)	- (0.4)	-	(▲2.1)
うち飼料用	3.0	3.5 (4.0)	3.5 (3.9)	- (0.4)	-	(▲1.9)
輸 出 量	29.4	29.6 (29.8)	28.5 (28.4)	1.0 (0.02)	▲3.7	(▲4.8)
輸 入 量	0.6	0.6 (0.2)	0.7 (0.1)	- (-)	3.2	(▲33.5)
期末在庫量	4.2	6.3 (5.9)	4.6 (5.5)	0.4 (-)	▲26.9	(▲6.4)
期末在庫率	11.1%	16.4% (15.3%)	12.3% (15.0%)	0.8 (▲0.2)	▲4.1	(▲0.4)
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.65	10.62 (10.62)	10.10 (10.12)	0.10 (-)	▲4.9	(▲4.7)
単収(t/ha)	3.37	3.76 (3.76)	3.47 (3.59)	0.07 (0.10)	▲7.7	(▲4.5)

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,「World Agricultural Production」(12 August 2026)

AAFC「Outlook For Principal Field Crops」(20 August 2026) ※() 書き。

図 カナダの小麦の種類別生産量・輸出量の推移

(百万トン)



資料:AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2026.8.20)をもとに農林水産省で作成

表 カナダの小麦の輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年8月～2025年7月)				2024/25年度 (2024年8月～2025年6月)				2025/26年度 (2025年8月～2026年6月)			
国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)		国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)		国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	
普通小麦	インドネシア	247.0	10.3	インドネシア	227.9	10.4		中国	237.0	11.6	
	中国	210.7	8.8	中国	182.9	8.3		インドネシア	222.7	10.9	
	日本	191.2	8.0	日本	178.4	8.1		日本	189.8	9.3	
	ベネズエラ	164.2	6.9	ベネズエラ	147.0	6.7		ベネズエラ	140.7	6.9	
	コロンビア	143.1	6.0	コロンビア	133.7	6.1		コロンビア	116.2	5.7	
	その他	1,434.8	60.0	その他	1,328.7	60.4		その他	1,143.4	55.8	
小計			2,390.8	100.0	小計	2,198.7	100.0	小計	2,049.8	100.0	
デュラム小麦	アルジェリア	156.8	27.2	アルジェリア	146.8	27.4		アルジェリア	146.3	28.5	
	モロッコ	124.2	21.5	モロッコ	112.8	21.1		イタリア	99.5	19.4	
	イタリア	83.8	14.5	イタリア	80.8	15.1		モロッコ	89.2	17.4	
	米国	51.0	8.8	米国	48.7	9.1		米国	31.7	6.2	
	日本	22.7	3.9	日本	21.8	4.1		ベネズエラ	19.6	3.8	
	その他	138.4	24.0	その他	124.8	23.3		その他	126.9	24.7	
小計			576.8	100.0	小計	535.7	100.0	小計	513.2	100.0	
小麦計			2,967.7		小麦計	2,734.4		小麦計	2,563.0		

資料:CGC のデータをもとに農林水産省で作成

< 豪州 > 2026/27 年度の生産量は前年度から 22.2%減少する見込み(USDA)

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、史上3番目の生産量となった前年度から収穫面積及び単収が減少することを受け、前年度から 22.2%減、過去5年平均(34.6 百万トン)から 19.0%減の 28.0 百万トンとなる見込み(図)。一方、豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report」(2026.6.2)によれば、2026/27 年度の実産量は、前年度から 25.7%減、過去5年平均から 22.6%減の 26.7 百万トンとなる見込み。州別には、ウェスタンオーストラリア州(WA)は前年度から 29.3%減の 9.5 百万トン。ニューサウスウェールズ州(NSW)は同 37.5%減の 7.0 百万トン。サウスオーストラリア州(SA)は同 1.6%減の 4.7 百万トン。ビクトリア州(VIC)は同 0.8%減の 4.2 百万トン。クイーンズランド州(QLD)は同 42.9%減の 1.3 百万トン。2026/27 年度の実産量の作付面積は、小麦と他作物の収益性格差の拡大と豪州北部の乾燥した気象条件により、前年度から 12%減の 10.9 百万ヘクタールとなり 2019/20 年度以来の低水準となる見込み。

USDA「Grain and Feed Update」(2026.7.24)によれば、シーズン序盤の降雨量は一部地域で平年を下回ったものの、大部分の小麦生産地域で平年並み又は平年以上となり、2026/27 年度小麦の作付け条件や初期生育に好条件となった。生育は平年に比べ2～4週間進んでおり、6月下旬から7月上旬の涼しい気候は水分需要を減少させるとともに生育にも適した条件となった。一方で豪州気象局はエルニーニョ現象の発生を宣言しており、豪州東部の小麦生産地域では平年に比べ乾燥する可能性がある。

西豪州穀物産業協会(GIWA)「Crop Report」(2026.8.14)によれば、WA 州の小麦を含む冬作物の生育は、記録的な7月の乾燥と寒冷前線の影響により、特に南部地域において大きく鈍化した。2026/27 年度の実産量は、前月予測から 52 万トン下方修正され 903 万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の減少を受け、前年度から 10.2%減、過去5年平均(25.5 百万トン)から 13.6%減の 22.0 百万トンとなる見込み(図)。一方、ABARES によれば、2026/27 年度の実輸出量は、前年度から 30.8%減、過去5年平均(26.1 百万トン)から 26.1%減の 19.3 百万トンとなる見込み。ABARES「Trade dashboard」によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年 6 月の輸出量は、前年同期(1,755.6 万トン)に比べ 2.8%減の 1,706.5 万トン。輸出先国別には、インドネシア 339.9 万トン(19.9%)、フィリピン 323.3 万トン(18.9%)、イエメン 135.8 万トン(8.0%)の順(表)。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.5 百万トン下方修正され、生産量の減少等を受け前年度から 47.4%減の 2.7 百万トンとなる見込み。一方、ABARES によれば、2026/27 年度の期末在庫量は前年度から 36.2%減の 2.5 百万トンとなる見込み。

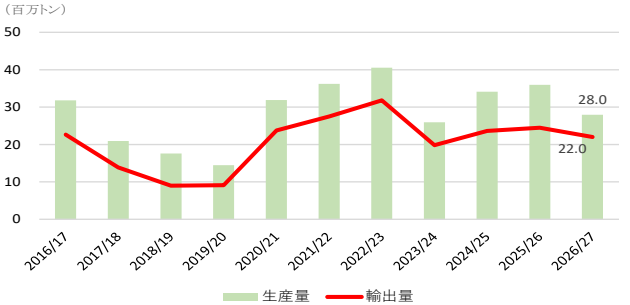
小麦一豪州(冬小麦を主に栽培)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(26年10月～27年9月)			
			2026/27 年度		対前年度増減率(%)	
			予測値	前月(前回)予測からの変更	2026/27 年度	2025/26 年度
生産量	34.1	36.0 (36.0)	28.0 (26.7)	- (-)	▲22.2	(▲25.7)
消費量	9.1	10.6 (8.8)	8.7 (8.9)	- (-)	▲18.4	(1.3)
うち飼料用	5.6	7.0 ...	5.0 ...	- ...	▲28.6	...
輸 出 量	23.7	24.5 (27.8)	22.0 (19.3)	- (-)	▲10.2	(▲30.8)
輸 入 量	0.2	0.2 ...	0.2 ...	- ...	4.3	...
期末在庫量	4.0	5.1 (3.9)	2.7 (2.5)	▲0.5 (-)	▲47.4	(▲36.2)
期末在庫率	12.2%	14.6% (10.5%)	8.8% (8.7%)	▲1.6 (-)	▲5.8	(▲1.8)

(参考)
収穫面積(百万ha) 13.06 12.41 (12.41) 11.00 (10.93) - (-) ▲11.4 (▲12.0)
単収(t/ha) 2.61 2.90 (2.90) 2.55 (2.45) - (-) ▲12.1 (▲15.6)

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,「World Agricultural Production」(12 August 2026)
ABARES「Australian Crop Report」(2 June 2026) ※ () 書き

図 豪州の小麦の実産量・輸出量の推移



資料:USDA「PS&D」(2026.8.12)をもとに農林水産省で作成

表 豪州の小麦の輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年10月～2025年9月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年6月)			2025/26年度 (2025年10月～2026年6月)		
国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
インドネシア	449.6	19.0	インドネシア	321.1	18.3	インドネシア	339.9	19.9
フィリピン	352.7	14.9	フィリピン	239.3	13.6	フィリピン	323.3	18.9
タイ	170.9	7.2	タイ	148.3	8.4	イエメン	135.8	8.0
ベトナム	157.4	6.7	ベトナム	111.0	6.3	中国	97.4	5.7
韓国	146.5	6.2	イエメン	106.2	6.0	ベトナム	97.4	5.7
イエメン	137.6	5.8	韓国	98.3	5.6	韓国	84.3	4.9
その他	946.6	40.1	その他	731.5	41.7	その他	628.3	36.8
計	2,361.3	100.0	計	1,755.6	100.0	計	1,706.5	100.0

資料: ABARES「Trade dashboard」をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2026/27 年度の生産量は前年度から 8.2%減少する見込み(EC)

【生育・生産状況】欧州委員会(EC)「EU Cereals Balance Sheets」(2026.7.30)によれば、2026/27 年度の実産量は、収穫面積及び単収の引下げを受け前月予測から 2.5 百万トン下方修正され、生育に好ましい気象条件により増産となった前年度から 8.2%減、過去5年平均(133.0 百万トン)から 1.0%減の 131.6 百万トンとなる見込み。種類別には、普通小麦が前月予測からブルガリア等で引上げられたものの、ドイツ、ハンガリー、フランス等の引下げを受け 1.9 百万トン下方修正され、前年度から 8.1%減、過去5年平均(125.3 百万トン)から 0.7%減の 124.4 百万トンとなる見込み。デュラム小麦は、前月予測からギリシャ、イタリア等の引下げを受け 0.6 百万トン下方修正され、前年度から 9.7%減、過去5年平均(7.7 百万トン)から 6.0%減の 7.3 百万トンとなる見込み(図)。

USDA「Grain and Feed Quarterly」(2026.7.30)によれば、2026/27 年度の実産量について、2026 年5月以降の猛暑により、フランス、ドイツ、ポーランド、スペイン等で減少が見込まれている。特にフランスは猛暑の影響を強く受けており、収穫が平年に比べ約3週間も早く、保水力の低い土壌で生産された小麦については容積重の低下など品質に悪影響を与えた。

EC「JRC MARS Bulletin – Crop monitoring in Europe」(2026.7.27)によれば、熱波により 2026/27 年度冬作物の登熟が短縮され収穫が早まった。南欧州では収穫は完了し、他の地域は進展中である。熱波は、西欧州の冬・夏作物に悪影響を及ぼし、西欧州及び中央欧州の一部では継続的な水不足が熱波の影響を悪化させた。

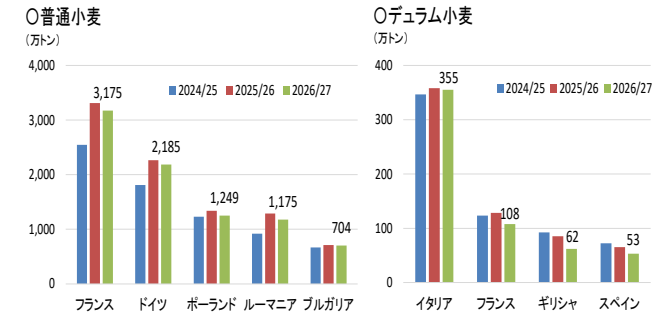
【貿易情報・その他】EC によれば、2026/27 年度の実消費量は、前月予測からわずかに下方修正され、前年度と同水準の 112.5 百万トンとなる見込み。2026/27 年度の実輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 0.5%減の 6.6 百万トンとなる見込み。同「Cereals exports and imports」(2026.8.11)によれば、2025/26 年度の実輸入量は、前年度(1,010.1 万トン)に比べ 33.9%減の 667.4 万トン。種類別には、普通小麦が前年度に比べ 43.1%減の 457.1 万トン。デュラム小麦が同 1.9%増の 210.3 万トン(表)。ロシアのウクライナ侵攻以降、ウクライナからの輸入が大きく増加していたが、関税割当制度の再開等により同国からの輸入は大きく減少している。2026/27 年度の実輸出量は、前月予測から 1.0 百万トン下方修正されたものの、前年度から 3.1%増の 30.0 百万トンとなる見込み。同「Cereals exports and imports」(2026.8.11)によれば、2025/26 年度の実輸出量は、前年度(2,625.8 万トン)に比べ 14.3%増の 3,001.1 万トン。種類別には、普通小麦が前年度に比べ 14.1%増の 2,901.4 万トン。デュラム小麦が同 18.8%増の 99.7 万トン(表)。2026/27 年度の実在庫量は、生産量の引下げ等を受け前月予測から 1.5 百万トン下方修正され、前年度から 24.6%減の 13.1 百万トンとなる見込み。

小麦－EU27 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)									
年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(26年7月～27年6月)						
			予測値		前月予測 からの変更		対前年度増減率(%)		
生 産 量	121.1	145.1 (143.4)	134.2	(131.6)	▲1.8	(▲2.5)	▲7.5	(▲8.2)	
消 費 量	108.0	113.5 (112.5)	114.8	(112.5)	1.0	(▲0.02)	1.1	(0.01)	
うち飼料用	44.5	50.0 (47.1)	51.0	(47.1)	2.0	(-)	2.0	(-)	
輸 出 量	27.9	31.5 (29.1)	31.0	(30.0)	-	(▲1.0)	▲1.6	(3.1)	
輸 入 量	10.7	7.2 (6.6)	6.5	(6.6)	-	(-)	▲9.7	(▲0.5)	
期末在庫量	11.8	19.1 (17.3)	14.0	(13.1)	▲0.3	(▲1.5)	▲26.5	(▲24.6)	
期末在庫率	8.7%	13.2% (12.2%)	9.6%	(9.2%)	▲0.3	(▲1.0)	▲3.5	(▲3.1)	
(参考)									
収穫面積(百万ha)	22.71	23.96 (23.70)	23.73	(23.40)	0.13	(▲0.13)	▲1.0	(▲1.3)	
単収(t/ha)	5.33	6.06 (6.05)	5.66	(5.63)	▲0.10	(▲0.08)	▲6.6	(▲7.0)	
資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,「World Agricultural Production」(12 August 2026)									
ECB「EU Cereals Balance Sheets」(30 July 2026) ※ () 書き。									

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,「World Agricultural Production」(12 August 2026)
EC「EU Cereals Balance Sheets」(30 July 2026) ※()書き。

図 EU の主要小麦生産国の小麦生産量の推移



資料:EC「EU cereals production (usable), area and yield」(2026.7.30)をもとに農林水産省で作成

表 EU の小麦の輸出量及び輸入量

	O輸出量				O輸入量			
	2024/25年度 (2024年7月～2025年6月)		2025/26年度 (2025年7月～2026年6月)		2024/25年度 (2024年7月～2025年6月)		2025/26年度 (2025年7月～2026年6月)	
	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)
普通小麦	モロッコ	342.2	13.5	モロッコ	389.2	13.4	ウクライナ	450.4
	アルジェリア	324.4	12.8	アルジェリア	279.1	9.6	カナダ	134.4
	ナイジェリア	281.5	11.1	ナイジェリア	232.1	8.0	モルドバ	63.1
	その他	1,593.8	62.7	その他	2,001.1	69.0	その他	155.7
	小計	2,541.9	100.0	小計	2,901.4	100.0	小計	803.6
デュラム小麦	チュニジア	21.4	25.5	チュニジア	20.4	20.4	カナダ	108.2
	アルジェリア	11.3	13.5	アルジェリア	20.3	20.3	トルコ	34.3
	イタリア	10.0	11.9	イタリア	9.0	9.0	カザフスタン	29.6
	その他	41.1	49.0	その他	50.0	50.0	その他	34.4
	小計	83.9	100.0	小計	99.7	100.0	小計	206.5
	小麦計	2,625.8		小麦計	3,001.1		小麦計	1,010.1

資料:EC「Cereals exports and imports」(2026.8.11)をもとに農林水産省で作成

＜ ロシア ＞ 2026/27 年度の輸出量は前年度から 4.2%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の生産量(クリミア地域分を含まず)は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が減少することを受け前年度から 2.0%減となるものの、過去5年平均(86.1 百万トン)から 2.8%増の 88.5 百万トンと史上4番目の生産量となる見込み(図)。種類別には、冬小麦は、前年度(63.0 百万トン)から 4.8%増の 66.0 百万トン。春小麦は、前年度(27.3 百万トン)から 17.6%減の 22.5 百万トンとなる見込み。

同「World Agricultural Production」(2026.7.10)によれば、2026/27 年度の冬小麦は、休眠明けから十分な降雨と適度な気温が維持され、主要な冬小麦生産地域で収穫見通しが向上した。一方、春小麦は、湿潤な春の気象条件により作付けが遅延し、6月 19 日現在、11.1 百万ヘクタールの作付計画に対して 9.7 百万ヘクタールの作付けにとどまっている。

ロシア統計庁によれば、2026/27 年度の小麦全体の作付面積は、前年度から 5.3%減の 2,546 万ヘクタールで、種類別には、冬小麦が前年度から 1.0%増の 1,597.8 万ヘクタールとなる一方、春小麦が同 14.5%減の 948.6 万ヘクタール。

ロシア農業省によれば、8月 11 日現在、2026/27 年度の小麦の収穫量は、前年同期に比べ 545 万トン増の 6,297 万トンで南部の生産地では収穫終盤を迎えている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、黒海での混乱を受け前月予測から 1.5 百万トン下方修正され、前年度から 4.2%減となるものの、過去5年平均(45.9 百万トン)から 0.2%増の 46.0 百万トンとなり、史上4番目の輸出量となる見込み(図)。

現地情報会社によれば、2026/27 年度のうち 2026 年7月の輸出量は、前年同月(174.7 万トン)に比べ 10.5%増の 193.0 万トン。輸出先国別には、エジプト 37.2 万トン(19.3%)、スーダン 17.7 万トン(9.2%)、ケニア 15.1 万トン(7.8%)の順(表)。7月の輸出量は、前年に比べ増加しているが、これは前年7月の輸出量が収穫の遅れによる供給不足により少なかったためであり、黒海及びアゾフ海におけるウクライナのドローン攻撃により平年に比べ輸出量は大きく減少している。また、8月 12 日にノヴォロシースクの穀物ターミナルがドローン攻撃を受け操業を停止しており、早期に操業が再開できなければ輸出量が大きく減少する可能性がある。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、輸出量の引下げを受け前月予測から 1.5 百万トン上方修正され、前年度から 13.3%増の 13.6 百万トンとなる見込み。

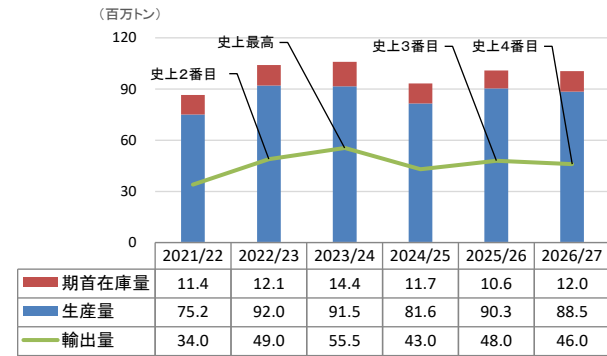
小麦ーロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(26年7月～27年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	81.6	90.3	88.5 (89.8)	-	▲ 2.0
消 費 量	40.0	41.2	41.2 (42.4)	-	-
うち飼料用	17.0	18.0	18.0 (18.5)	-	-
輸 出 量	43.0	48.0	46.0 (47.7)	▲ 1.5	▲ 4.2
輸 入 量	0.3	0.3	0.3 (1.0)	-	-
期末在庫量	10.6	12.0	13.6 (12.8)	1.5	13.3
期末在庫率	12.8%	13.4%	15.6% (14.2%)	2.0	2.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.80	26.30	25.10 (25.40)	-	▲ 4.6
単収(t/ha)	2.94	3.43	3.53 (3.54)	-	2.9

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(12 August 2026)
IGC「Grain Market Report」(16 July 2026)

図 ロシアの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料:USDA「PS&D」(2026.8.12)をもとに農林水産省で作成

表 ロシアの小麦の輸出先国と輸出量

2025/26年度 (2025年7月～2026年6月)			2025/26年度 (2025年7月)			2026/27年度 (2026年7月)		
国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
エジプト	890.3	19.5	エジプト	35.9	20.5	エジプト	37.2	19.3
トルコ	669.4	14.7	トルコ	18.8	10.8	スーダン	17.7	9.2
スーダン	229.4	5.0	サウジアラビア	13.8	7.9	ケニア	15.1	7.8
ケニア	209.3	4.6	スーダン	13.5	7.7	タンザニア	10.2	5.3
イスラエル	207.8	4.5	ケニア	8.8	5.0	ナイジェリア	9.0	4.7
その他	2,361.6	51.7	その他	83.9	48.0	その他	103.8	53.8
合計	4,567.8	100.0	合計	174.7	100.0	合計	193.0	100.0

資料:現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ ウクライナ ＞ 2026/27 年度の輸出量は前年度から 4.3%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27年度の生産量(クリミア地域分を含む)は、収穫面積の引上げを受け前月予測から1.4百万トン上方修正され、前年度から5.4%増、過去5年平均(25.0百万トン)から1.6%増の25.4百万トンとなる見込み(図)。

同「World Agricultural Production」(2026.6.11)によれば、小麦は、単収に重要な影響を与える生育期間が5月上旬から中旬であり、6月中旬から下旬にかけて成熟期を迎える。5月の降雨量が良好だったため、重要な生育期に十分な土壌水分が供給され、生育が促進されるとともに生産見通しが向上した。

現地情報会社によれば、2026/27年度の冬小麦の単収は、乾燥の影響があった前年度を上回るのは確実と予測されている。8月10日現在、2026/27年度の小麦の収穫進捗率は78.8%(前年同期74.4%)で1,973.8万トンが収穫されている。作柄は概ね良好か平年並。

ウクライナ経済・環境・農業省(2026.6.19)によれば、2026/27年度の小麦の収穫見通しは、2,200～2,300万トンとなっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27年度の輸出量は、黒海での混乱を受け前月予測から1.0百万トン下方修正され、前年度から4.3%減、過去5年平均(16.9百万トン)から20.0%減の13.5百万トンとなる見込み(図)。

EUは、ウクライナ産品の輸入に関し、「深化した包括的自由貿易協定(DCFTA)」に基づき、関税割当制度等の適用を再開した。小麦及びメスリン等に対する年間輸入割当数量は130万トン、小麦粉等は同3万トンで、農業団体の「ウクライナ・アグリビジネスクラブ」によれば、6月1日時点で輸入割当数量130万トンは全て消化されており、年末までのEUへの小麦及びメスリン等の輸出については関税が課されることとなる。

現地情報会社によれば、2026/27年度のうち2026年7月の輸出量は、前年同月(73.3万トン)に比べ45.2%増の106.4万トン。輸出先国別には、バングラデシュ30.2万トン(28.4%)、インドネシア24.7万トン(23.2%)、アルジェリア22.6万トン(21.3%)の順(表)。7月の輸出量は、繰越在庫が十分にあったにも関わらず、中旬からロシアによるオデーサ港等への攻撃が激しくなったことから前月から大きく減少している。前年に比べれば増加しているものの、これは前年7月の輸出量が収穫の遅れによる供給不足により少なかったためである。

USDAによれば、2026/27年度の期末在庫量は、生産量の引上げ及び輸出量の引下げを受け前月予測から2.3百万トン上方修正され、前年度から140.0%増の4.8百万トンとなる見込み。

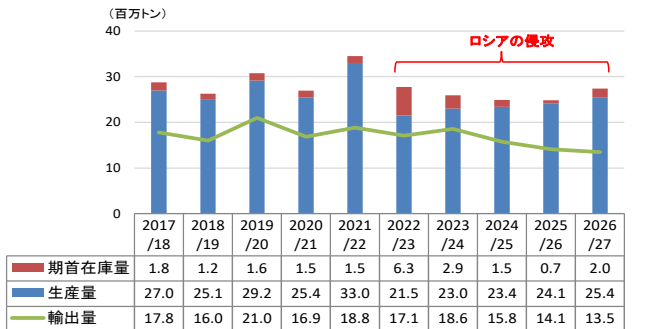
小麦－ウクライナ(主に冬小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(26年7月～27年6月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	23.4	24.1	25.4 (26.1)	1.4	5.4
消費量	8.5	8.8	9.2 (10.2)	-	4.5
うち飼料用	3.6	3.8	4.2 (3.0)	-	10.5
輸 出 量	15.8	14.1	13.5 (16.0)	▲ 1.0	▲ 4.3
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	25.0
期末在庫量	0.7	2.0	4.8 (1.7)	2.3	140.0
期末在庫率	3.0%	8.7%	21.1% (6.3%)	10.5	12.4
参考)					
収穫面積(百万ha)	5.20	5.65	5.50 (6.20)	0.30	▲ 2.7
単収(t/ha)	4.50	4.27	4.62 (4.21)	-	8.2

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(12 August 2026)
IGC「Grain Market Report」(16 July 2026)

図 ウクライナの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料:USDA「PS&D」(2026.8.12)をもとに農林水産省で作成

表 ウクライナの小麦の輸出先国と輸出量

2025/26年度 (2025年7月～2026年6月)			2025/26年度 (2025年7月)			2026/27年度 (2026年7月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
エジプト	385.5	27.6	エジプト	32.0	43.7	バングラデシュ	30.2	28.4
アルジェリア	278.4	19.9	スペイン	15.3	20.8	インドネシア	24.7	23.2
インドネシア	206.8	14.8	インドネシア	11.4	15.6	アルジェリア	22.6	21.3
イエメン	104.8	7.5	ベトナム	5.5	7.5	サウジアラビア	5.5	5.1
スペイン	67.8	4.9	チェコ	2.7	3.7	イエメン	5.4	5.1
その他	355.0	25.4	その他	6.4	8.7	その他	18.0	16.9
合計	1,398.4	100.0	合計	73.3	100.0	合計	106.4	100.0

資料:APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2026/27年度の生産量は史上最高となる見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 0.7%増、過去5年平均(138.3 百万トン)から 2.0%増の 141.0 百万トンとなり、史上最高となる見込み(図)。

中国国家统计局(2026.7.10)によれば、2026/27 年度の夏季産小麦の作付面積は、前年度から 0.3%減(6.7 万ヘクタール減)の 23.01 百万ヘクタール。単収は、前年度から 0.9%増(0.05 トン/ヘクタール増)の 6.04 トン/ヘクタール。生産量は、前年度から 0.6%増(0.78 百万トン増)の 139.0 百万トン。

中国中央气象台「作物生育期監測」(2026.8.9～15)によれば、2026/27 年度の春小麦については、開花期から成熟期を迎えている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 1.3%減、過去5年平均(149.9 百万トン)からも 1.3%減の 148.0 百万トンとなる見込み。

2026/27 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 9.9%増となるものの、過去5年平均(9.2 百万トン)から 34.9%減の 6.0 百万トンとなる見込み(図)。

同「Grain and Feed Update」(2026.7.3)によれば、中国は、主に特定の品質要件(高たんぱく質等)を満たすために小麦を輸入している。消費者の嗜好は高品質な製品へとシフトし続けていることから、高品質を求める需要は比較的安定して推移する見込み。一方、飼料用小麦の輸入については、中国国内の穀物供給が潤沢で、代替飼料原料もあることから、引き続き限定的となる可能性が高い。

2026 年5月 14 日の米中首脳会談後、ホワイトハウスは、5月 17 日付のファクトシートで中国が 2026 年から 2028 年の各年に少なくとも 170 億ドルの米国農産物を購入すると発表した。なお、具体的な品目は公表されていない。

中国商務部「米中経済貿易協議の暫定的な成果解説」(2026.5.21)によれば、米中双方が農産物の貿易拡大に向けて努力していく考えが示された。

中国海関統計によれば、2025/26 年度の輸入量は、前年度(385.9 万トン)に比べ 32.3%増の 510.7 万トン。輸入先国別には、カナダ 291.0 万トン(57.0%)、豪州 125.8 万トン(24.6%)、アルゼンチン 35.0 万トン(6.8%)の順(表)。

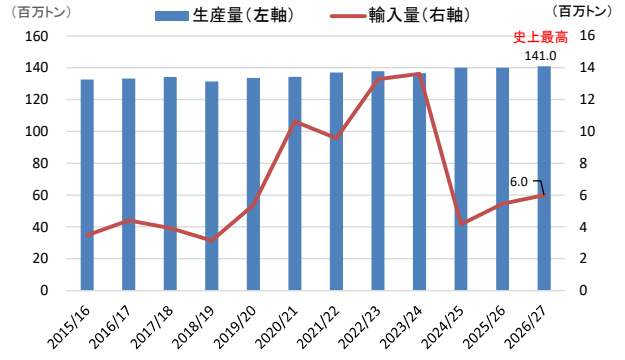
USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、期首在庫量の引下げを受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され、前年度から 1.6%減の 120.2 百万トンとなる見込み。

小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(26年7月～27年6月)			
			2026/27(26年7月～27年6月)		2026/27(26年7月～27年6月)	
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	140.1	140.1	141.0 (140.5)	-	0.7	
消費量	150.0	150.0	148.0 (146.9)	-	▲ 1.3	
うち飼料用	33.0	33.0	31.0 (28.0)	-	▲ 6.1	
輸出量	1.0	1.1	1.0 (1.3)	-	▲ 9.1	
輸入量	4.2	5.5	6.0 (6.3)	-	9.9	
期末在庫量	127.8	122.2	120.2 (133.9)	▲ 0.5	▲ 1.6	
期末在庫率	84.6%	80.9%	80.7% (90.3%)	▲ 0.3	▲ 0.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.59	23.58	23.60 (23.59)	-	0.1	
単収(t/ha)	5.94	5.94	5.97 (5.96)	-	0.5	

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、World Agricultural Production(12 August 2026)
IGC「Grain Market Report」(16 July 2026)

図 中国の小麦生産量・輸入量の推移



資料:USDA「PS&D」(2026.8.12)をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦の輸入先国と輸入量

2024/25年度 (2024年7月～2025年6月)			2025/26年度 (2025年7月～2026年6月)		
国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)
カナダ	185.9	48.2	カナダ	291.0	57.0
豪州	86.9	22.5	豪州	125.8	24.6
米国	46.2	12.0	アルゼンチン	35.0	6.8
カザフスタン	30.8	8.0	米国	33.6	6.6
ロシア	29.7	7.7	ロシア	13.8	2.7
日本	4.9	1.3	カザフスタン	6.1	1.2
その他	1.5	0.4	その他	5.3	1.0
合計	385.9	100.0	合計	510.7	100.0

資料:中国海関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDAの見通し> 2026/27 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・EUで下方修正されたものの、ウクライナ、ロシア、ザンビア、米国、トルコ等で上方修正され、前月から上方修正された。

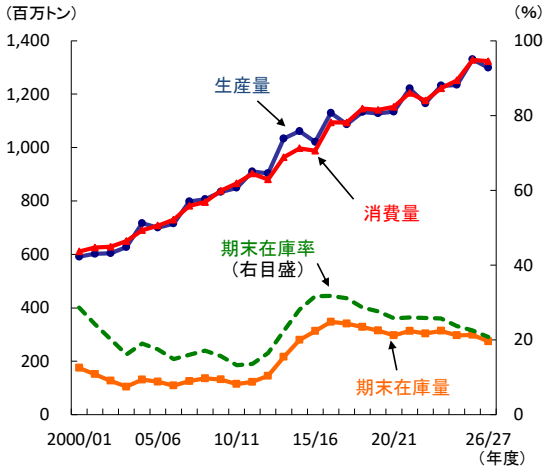
消費量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・EU、中国等で下方修正されたものの、ブラジル、ロシア、ザンビア、カナダ等で上方修正され、前月から上方修正された。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・ウクライナ、EU等で下方修正されたものの、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料:USDA「PS&D」(2026.8.12)をもとに農林水産省で作成

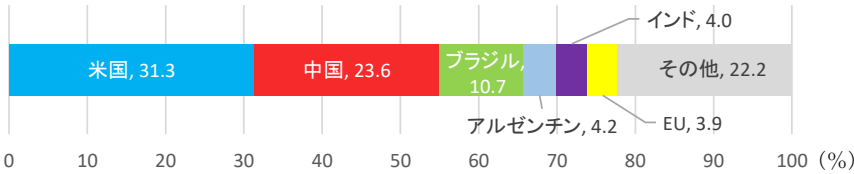
◎世界のとうもろこし需給

(単位:百万トン)

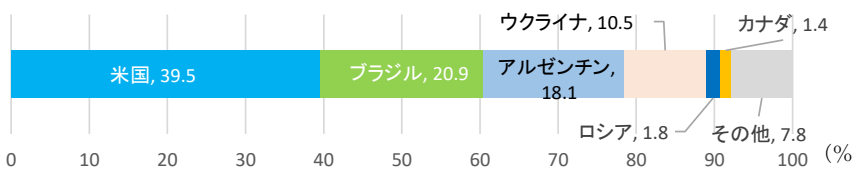
年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	1,234.1	1,329.9	1,298.9	1.8	▲ 2.3
消 費 量	1,251.2	1,327.8	1,323.1	2.6	▲ 0.4
うち飼料用	783.7	827.4	832.5	▲ 0.6	0.6
輸 出 量	187.6	220.7	210.5	0.6	▲ 4.6
輸 入 量	186.3	197.3	203.7	▲ 0.3	3.3
期末在庫量	296.7	298.8	274.7	▲ 0.6	▲ 8.1
期末在庫率	23.7%	22.5%	20.8%	▲ 0.1	▲ 1.7

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 August 2026)

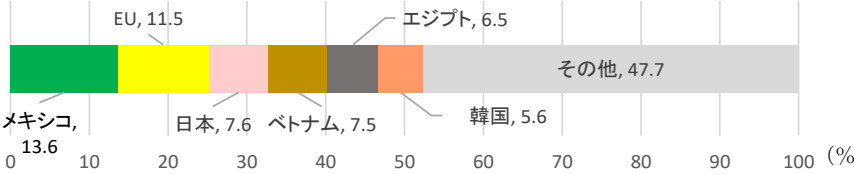
○ 2026/27 年度 世界のとうもろこしの生産量 (1,298.9 百万トン)



○ 2026/27 年度 世界のとうもろこしの輸出量 (210.5 百万トン)



○ 2026/27 年度 世界のとうもろこしの輸入量 (203.7 百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 2026/27 年度の生産量は、前年度から 5.9%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実生産量は、前月予測から 0.3 百万トン上方修正されたものの、とうもろこしから大豆に作付けがシフトすることを受け前年度から 5.9%減、過去5年平均(385.7 百万トン)からは 5.5%増の 406.8 百万トンと史上2番目の見込み。同「Feed Outlook」(2026.8.14)によれば、生産量が大きく減少するのはプレーンズの諸州(テキサス、オクラホマ、カンザス、ネブラスカ、サウスダコタ、ノースダコタ)であり、前年度から平均 17%の実生産減が予測されている。この生産量減は、7月に一部の生産地域で高温と少雨に見舞われ、単収が低下したことが主な要因とみられる。

同「Crop Production」(2026.8.12)によれば、7月の降水量は地域によってばらつきがあり、プレーンズの一部では、高温かつ乾燥した天候により、局地的に作物への深刻なストレスが生じたが、コーンベルト中部及び東部は猛暑を免れ、とうもろこしは比較的良好な状態を維持した。

同「Crop Progress」(2026.8.17)によれば、8月 16 日現在、ドウ(ミルク状の穀粒が徐々に柔らかい固まりになっていく段階)進捗率は 76%と、前年同期(70%)、過去5年平均(70%)を上回っている。作柄評価は「良～優良」の割合が 60%と、前年同期(71%)を下回っている。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、エタノール用等需要は増加するものの、飼料用消費の減少等を受け、前年度から 1.5%減の 331.6 百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、2025/26 年度の輸出が引き続き好調であること等を受け前月予測から 1.9 百万トン上方修正されたものの、他の輸出国との競争等を受け前年度から 3.7%減の 83.2 百万トンとなる見込み。同「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」によれば、2025/26 年度のうち 2025 年9月～2026 年7月の輸出量は、前年同期(6,164.6 万トン)に比べ 25.4%増の 7,727.4 万トン。輸出先国別には、メキシコ 2,240.6 万トン(29.0%)、日本 1,388.0 万トン(18.0%)、韓国 832.6 万トン(10.8%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、期首在庫量の引下げ及び輸出量の引上げを受け前月予測から 3.5 百万トン下方修正され、生産量の減少等を受け前年度から 15.0%減、過去5年平均(40.6 百万トン)からは 3.3%増の 42.0 百万トンとなる見込み。期末在庫率は前年度から 1.6 ポイント減の 10.1%となる見込み。

とうもろこしー米国

(4～5月に作付けされ、9～11 月に収穫される。)

(単位:百万トン)					
年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年9月～27年8月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	378.3	432.3	406.8	0.3	▲ 5.9
消 費 量	311.2	336.7	331.6	-	▲ 1.5
うち飼料用	138.1	161.3	155.0	-	▲ 3.9
エタノール用等	138.1	141.0	142.2	-	0.9
輸 出 量	73.0	86.4	83.2	1.9	▲ 3.7
輸 入 量	0.6	0.7	0.6	-	▲ 9.9
期末在庫量	39.4	49.4	42.0	▲ 3.5	▲ 15.0
期末在庫率	10.3%	11.7%	10.1%	▲ 0.9	▲ 1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.61	36.93	35.85	0.5	▲ 2.9
単収(t/ha)	11.26	11.71	11.35	▲ 0.1	▲ 3.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2026)

写真 中西部オハイオ州の圃場



当圃場では、
登熟が進み始
めている。
(8月1日撮影)

表 米国のとうもろこしの輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年9月～2025年8月)			2024/25年度 (2024年9月～2025年7月)			2025/26年度 (2025年9月～2026年7月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
メキシコ	2,212.2	32.6	メキシコ	2,000.1	32.4	メキシコ	2,240.6	29.0
日本	1,344.0	19.8	日本	1,210.7	19.6	日本	1,388.0	18.0
コロンビア	743.7	11.0	コロンビア	674.2	10.9	韓国	832.6	10.8
韓国	617.4	9.1	韓国	570.1	9.2	コロンビア	751.4	9.7
台湾	241.6	3.6	台湾	227.8	3.7	スペイン	414.5	5.4
その他	1,617.3	23.9	その他	1,481.7	24.0	その他	2,100.3	27.2
合計	6,776.2	100.0	合計	6,164.6	100.0	合計	7,727.4	100.0

資料:USDA「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省で作成

＜ ブラジル ＞ 2026/27 年度の生産量は、前年度から 0.7%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、単収減を受け前年度から 0.7%減となるものの、過去5年平均(129.6 百万トン)から 7.3%増の 139.0 百万トンとなる見込み。同「World Agricultural Production」(2026.8.12)によれば、2025/26 年度の実産量は、マツ・グロソ州における第2期作の実産量増を受け、前月予測から 2.0 百万トン上方修正され、過去最高の 140.0 百万トンの見込み。

ブラジル食料供給公社(CONAB)の月例報告(2026.8.13)によれば、2025/26 年度の実産量は、作付面積の増加を受け前年度から 1.3%増の 143.0 百万トンとなる見込み。作期別には、第1期作(南部が主産地)の実産量は、前年度から 18.2%増の 29.5 百万トンとなる見込み。良好な気象条件と生産者による投資を受け単収は史上最高となった。第2期作(中西部が主産地)の実産量は、前年度から 1.9%減の 111.0 百万トンとなる見込み。収穫進捗率は、8月初旬時点で 69.1%が収穫されたが、直近数年の平均である 74.5%をやや下回った。サンパウロ州、マツ・グロソ・ド・スール州、パラナ州では、低温と降雨により穀粒の乾燥が遅れ、収穫が遅延した。第3期作(北東部が主産地)の実産量は、前年度から 18.6%減の 2.4 百万トンとなる見込み(図)。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測から 2.0 百万トン上方修正され、エタノール用需要の増加を受け前年度から 2.0%増の 100.0 百万トンと史上最高の見込み。

同「Grain and Feed Update」(2026.8.5)によれば、ブラジル政府は、ガソリンへの無水エタノール混合率を 30%から 32%(E32)に引き上げることを発表した。ブラジル全国とうもろこし由来エタノール協会(UNEM)は、この変更により、年間約 10 億リットルの追加需要が発生し、このうち約3億リットルはとうもろこし由来エタノールでの供給が期待されると報告している。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出力は、前月予測からの変更はなく、供給量の増加を受け前年度から 4.8%増の 44.0 百万トンとなる見込み。ブラジル貿易統計によれば、2025/26 年度のうち 2026 年3～7月の輸出力は、前年同期(388.5 万トン)に比べ 4.9%増の 407.7 万トン。輸出力先国別には、エジプト 178.0 万トン(43.7%)、ベトナム 22.9 万トン(5.6%)、イスラエル 21.5 万トン(5.3%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測から 1.0 百万トン下方修正され、生産量の減少及び輸出力の増加を受け前年度から 24.1%減となるものの、過去5年平均(9.3 百万トン)から 8.9%増の 10.1 百万トンとなる見込み。期末在庫率は前年度から 2.5 ポイント減の 7.0%となる見込み。

とうもろこしーブラジル

(第1期作は、10～12 月に作付けされ、2～6月に収穫される。第2期作は、大豆収穫後の1～2月に作付けされ、6～9月に収穫される。)

(単位:百万トン)					
年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (27年3月～28年2月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	136.0	140.0 (143.0)	139.0 (-)	- (-)	▲0.7 (-)
消 費 量	91.5	98.0 (95.0)	100.0 (-)	2.0 (-)	2.0 (-)
うち飼料用	64.0	65.0 ...	65.0 ...	- ...	- ...
輸 出 量	42.0	42.0 (46.5)	44.0 (-)	- (-)	4.8 (-)
輸 入 量	1.8	1.7 (1.7)	1.8 (-)	- (-)	5.9 (-)
期末在庫量	11.6	13.3 (15.6)	10.1 (-)	▲1.0 (-)	▲24.1 (-)
期末在庫率	8.7%	9.5% (11.0%)	7.0% (-)	▲0.8 (-)	▲2.5 (-)
(参考)					
収穫面積(百万ha)	22.30	22.80 (22.60)	23.20 (-)	- (-)	1.8 (-)
単収(t/ha)	6.10	6.14 (6.33)	5.99 (-)	- (-)	▲2.4 (-)
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」, 「World Agricultural Production」(12 August 2026) CONAB「Graos」(13 August 2026) ※()書き。なお、CONABの収穫面積は作付面積である。					

図 ブラジルのクロップカレンダー

2025/26年度	2025年				2026年											
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
とうもろこし 第1期作		作付け 4.1百万ha			収穫 29.5百万トン											
とうもろこし 第2期作					作付け 17.8百万ha						収穫 111.0百万トン					
とうもろこし 第3期作											作付け 0.7百万ha				収穫 2.4百万トン	
大豆																
		作付け 48.6百万ha									収穫 180.5百万トン					

資料:CONAB「Graos」(2026.8.13)等をもとに農林水産省で作成。
なお、作付け及び収穫の時期は目安である。

表 ブラジルのとうもろこしの輸出先国と輸出力

2024/25年度 (2025年3月～2026年2月)			2024/25年度 (2025年3～7月)			2025/26年度 (2026年3～7月)		
国名	輸出力 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出力 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出力 (万トン)	シェア (%)
イラン	871.3	20.9	イラン	99.2	25.5	エジプト	178.0	43.7
エジプト	724.2	17.4	ベトナム	50.0	12.9	ベトナム	22.9	5.6
ベトナム	527.6	12.7	エジプト	42.2	10.9	イスラエル	21.5	5.3
サウジアラビア	219.6	5.3	サウジアラビア	37.4	9.6	イラン	21.0	5.2
中国	192.9	4.6	モロッコ	25.6	6.6	サウジアラビア	19.8	4.9
その他	1,634.1	39.2	その他	134.1	34.5	その他	144.5	35.4
合計	4,169.7	100.0	合計	388.5	100.0	合計	407.7	100.0

資料:ブラジル貿易統計のデータをもとに農林水産省で作成

＜ アルゼンチン ＞ 2026/27 年度の生産量は、前年度から 12.7%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の減少を受け前年度から 12.7%減となるものの、過去5年平均(50.5 百万トン)から 8.9%増の 55.0 百万トンとなる見込み。

同「Grain and Feed Update」(2026.7.23)によれば、2026/27 年度の作付面積は、2025/26 年度の終盤に、アルゼンチン北部において病害虫であるヨコバイの発生が確認された影響で他作物への転作が進むと見込まれ、前年度から 20～30 万ヘクタール減少すると予測されている。

アルゼンチン農牧漁業庁(SAGyP)の週報(2026.8.6)によれば、8月6日時点の 2025/26 年度のとうもろこしの収穫進捗率は 85%と前年同期(92%)を下回っており、主要生産州では、ブエノス・アイレス州 82%(前年同期 83%)、コルドバ州 89%(同 99.8%)、サンタフェ州 93%(同 99%)、ラ・パンパ州 40%(同 68%)となっている。継続的な降雨により穀粒の乾燥が遅れ、多くの地域で収穫が遅れている。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の減少を受け前年度から 4.8%減の 17.7 百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の減少を受け前年度から 15.6%減の 38.0 百万トンとなる見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2025/26 年度のうち 2026 年3～6月の輸出量は、前年同期(1,309.0 万トン)に比べ 30.7%増の 1,710.6 万トン。輸出先国別には、ベトナム 292.9 万トン(17.1%)、エジプト 211.1 万トン(12.3%)、アルジェリア 192.2 万トン(11.2%)の順となっている(表)。

USDA「Grain: World Markets and Trade」(2026.8.12)によれば、8月7日現在の輸出価格は、アルゼンチンは、多雨により収穫ペースが鈍化しているものの、記録的な豊作による価格下落圧力を受け、前月から1ドル/トン下落し 206 ドル/トン。米国は堅調な輸出需要を受け前月から3ドル/トン上昇し 222 ドル/トン。ブラジルは前月から横ばいの 222ドル/トンとなった(図)。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、生産量の減少を受け前年度から 14.9%減となるものの、過去5年平均(3.9 百万トン)からは 2.8%増の 4.0 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度から 0.2 ポイント減の 7.2%となる見込み。

とうもろこしーアルゼンチン

(早植えとうもろこしは、9 月後半～12 月前半に作付けされ、遅植えとうもろこしは、12 月前半～翌年2 月前半に作付けされる。3～8 月に収穫される。)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (27年3月～28年2月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	49.0	63.0	55.0 (63.0)	-	▲ 12.7
消 費 量	17.1	18.6	17.7 (22.2)	-	▲ 4.8
うち飼料用	12.7	14.0	13.0 (17.0)	-	▲ 7.1
輸 出 量	29.1	45.0	38.0 (41.0)	-	▲ 15.6
輸 入 量	0.01	0.01	0.01 (0.001)	-	-
期末在庫量	5.3	4.7	4.0 (7.2)	-	▲ 14.9
期末在庫率	11.5%	7.4%	7.2% (11.4%)	-	▲ 0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.83	8.20	7.90 (8.80)	-	▲ 3.7
単収(t/ha)	7.18	7.68	6.96 (7.16)	-	▲ 9.4

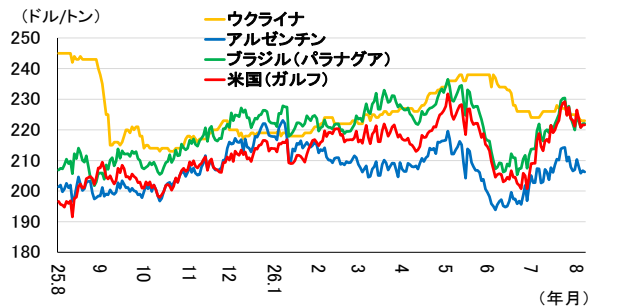
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2026)
IGC「Grain Market Report」(16 July 2026)

表 アルゼンチンのとうもろこしの輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2025年3月～2026年2月)			2024/25年度 (2025年3～6月)			2025/26年度 (2026年3～6月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
ベトナム	534.1	18.4	ベトナム	242.4	18.5	ベトナム	292.9	17.1
ペルー	462.8	15.9	ペルー	152.2	11.6	エジプト	211.1	12.3
マレーシア	309.5	10.6	エジプト	144.1	11.0	アルジェリア	192.2	11.2
アルジェリア	259.0	8.9	アルジェリア	134.7	10.3	サウジアラビア	167.6	9.8
サウジアラビア	214.9	7.4	マレーシア	116.2	8.9	ペルー	159.0	9.3
その他	1,125.7	38.7	その他	519.4	39.7	その他	687.7	40.2
合計	2,905.9	100.0	合計	1,309.0	100.0	合計	1,710.6	100.0

資料:アルゼンチン国家統計局(INDEC)をもとに農林水産省で作成。なお、その他には秘匿「Confidential」の数量を含む。

図 各国のとうもろこし輸出価格(FOB)の推移



資料:IGC のデータをもとに農林水産省で作成

＜ ウクライナ ＞ 2026/27 年度の生産量は、前年度から 2.9%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測から 1.8 百万トン上方修正され、収穫面積及び単収の増加を受け前年度から 2.9%増となるものの、過去5年平均(31.9 百万トン)から 0.2%減の 31.8 百万トンとなる見込み。同「Grain and Feed Quarterly」(2026.8.5)によれば、2026/27 年度は、作付面積の拡大と好天により、前年度に比べ穀物の生産量の増加が見込まれている。

同「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2026.8.11)によれば、8月2日の週、旧ソ連地域西部では、今シーズン一番の猛暑となり、ウクライナ北西部では日中の最高気温が 39.2℃にまで達した。この高温は、生殖生長後期から登熟期にあたる、とうもろこし、ひまわり、大豆にとって好ましくないタイミングであったものの、7月下旬に広範囲にわたる降雨があったため、深刻な影響とはならなかった。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要の増加等を受け前年度から 10.8%増の 7.2 百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、黒海における混乱を受け、前月予測から 1.0 百万トン下方修正され、前年度から 4.3%減の 22.0 百万トンとなる見込み。同「Feed Outlook」(2026.8.14)によれば、7月下旬にオデーサの港湾施設やその周辺で発生した攻撃により、輸出ターミナルや船舶、乗組員が被害を受け、海上を通じた穀物輸送能力が低下し、輸出見通しが不透明となっている。

現地情報会社によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年7月の輸出量は、前年同期(1,972.5 万トン)に比べ 9.6%増の 2,162.4 万トン。輸出先国別には、トルコ 673.5 万トン(31.1%)、イタリア 383.8 万トン(17.7%)、スペイン 202.0 万トン(9.3%)の順となっている(表)。

USDA「Grain: World Markets and Trade」(2026.8.12)によれば、8月7日現在のウクライナの輸出価格は、オデーサ港における物流の混乱による価格上昇圧力があつた一方、トルコ等の輸出先国からの需要が弱まるとの観測を受け前月から1ドル/トン下落し 223 ドル/トンとなった(＜アルゼンチン＞図参照)。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、生産量の引上げ及び輸出量の引下げを受け前月予測から 2.8 百万トン上方修正され、生産量の増加及び輸出量の減少を受け前年度から 116.0%増、過去5年平均(2.9 百万トン)から 68.5%増の 4.9 百万トンとなる見込み。期末在庫率は、前年度から 9.0 ポイント増の 16.6%となる見込み。

とうもろこしーウクライナ

(4～5月に作付けされ、8～11 月に収穫される。)

(単位:百万トン)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年10月～27年9月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	26.8	30.9	31.8 (32.0)	1.8	2.9
消 費 量	6.5	6.5	7.2 (6.9)	-	10.8
うち飼料用	5.3	5.0	5.5 (4.7)	-	10.0
輸 出 量	20.0	23.0	22.0 (25.0)	▲ 1.0	▲ 4.3
輸 入 量	0.02	0.01	0.01 (0.002)	-	-
期末在庫量	0.8	2.3	4.9 (2.9)	2.8	116.0
期末在庫率	3.2%	7.6%	16.6% (9.1%)	9.8	9.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.10	4.40	4.45 (4.40)	0.3	1.1
単収(t/ha)	6.54	7.02	7.15 (7.27)	0.01	1.9

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2026)
IGC「Grain Market Report」(16 July 2026)

写真 ドニプロペトロウスク州の圃場



圃場のとうもろこしは出穂期～開花期にある。8月初めに高温に見舞われたため、今期は収量の減少が懸念される。(8月10日撮影)

表 ウクライナのとうもろこしの輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年10月～2025年9月)			2025/26年度 (2024年10月～2025年7月)			2025/26年度 (2025年10月～2026年7月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
トルコ	568.8	28.4	トルコ	564.7	28.6	トルコ	673.5	31.1
イタリア	273.6	13.7	イタリア	270.2	13.7	イタリア	383.8	17.7
スペイン	240.7	12.0	スペイン	240.7	12.2	スペイン	202.0	9.3
オランダ	199.1	10.0	オランダ	193.7	9.8	オランダ	175.8	8.1
エジプト	162.5	8.1	エジプト	162.5	8.2	チェコ	94.2	4.4
その他	556.1	27.8	その他	540.7	27.4	その他	633.1	29.3
合計	2,000.8	100.0	合計	1,972.5	100.0	合計	2,162.4	100.0

資料:APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 2026/27 年度の生産量は、前年度から 1.9%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加を受け前年度から 1.9%増、過去5年平均(287.0 百万トン)から 7.0%増の 307.0 百万トンと史上最高の見込み(図)。同「Grain and Feed Update」(2026.7.3)によれば、2025 年後半からの比較的堅調なとうもろこし価格に支えられ、特に中国東北部の農家は作付面積を拡大すると予測されている。

中国中央气象台「全国農業気象週報」(2026.8.10)によれば、8月2～8日の期間、春とうもろこしは、大部分ではシルキング期を迎えており、一部では乳熟期まで進んでいる。吉林省・遼寧省の大部分では気象条件に恵まれた一方、黒龍江省南西部と吉林省北西部では過湿により生育に不利な条件となった。夏とうもろこしは、節間伸長期から開花・シルキング期まで生育段階に幅がある。新疆ウイグル自治区・甘肅省西部では高温、陝西省・山西省南西部・河南省西部では過湿が続き、生育に不利な条件となった。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測から 1.0 百万トン下方修正されたものの、前年度から 1.3%増の 324.0 百万トンと史上最高の見込み。同「World Agricultural Production」(2026.5.12)によれば、家禽肉生産の堅調な伸び、養豚部門及び国内加工業界からの安定した需要により消費量は増加すると見込まれる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸入量は、前月予測から 1.0 百万トン下方修正されたものの、前年度から 25.0%増の 5.0 百万トンとなる見込み。

中国海関統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年6月の輸入量は、前年同期(167.4 万トン)に比べ 62.4%増の 271.9 万トン。輸入先国別には、ブラジル 192.9 万トン(71.0%)、ロシア 40.6 万トン(14.9%)、ミャンマー21.0 万トン(7.7%)の順となっている(表)。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2026 年6月号」によれば、6月の国内価格は前月(2,480 元/トン)から減少し 2,460 元/トンとなった。気温の上昇に伴い、取引業者の売却意欲が高まるとともに、飼料企業については代替品の輸入が増加していること、加工企業は季節的な設備点検期に入り買付需要が低下することから、今後、価格は横ばいから弱含みで推移すると見込まれる。USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、消費量の増加を受け前年度から 6.8%減、過去5年平均(199.1 百万トン)から 17.1%減の 165.1 百万トンとなる見込み。期末在庫率は前年度から 4.4 ポイント減の 51.0%となる見込み。

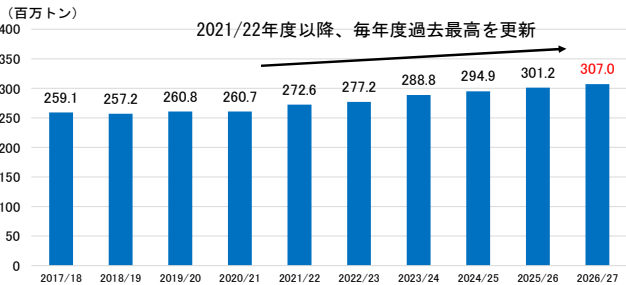
とうもろこしー中国

(春とうもろこしは、2～4月に作付けされ、7～9月に収穫される。
夏とうもろこしは、4～6月に作付けされ、9～10月に収穫される。)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (2026年10月～27年9月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	294.9	301.2	307.0 (306.0)	-	1.9
消 費 量	316.0	320.0	324.0 (314.4)	▲ 1.0	1.3
うち飼料用	234.0	238.0	242.0 (212.0)	▲ 1.0	1.7
輸 出 量	0.00	0.02	0.02 (0.0)	-	-
輸 入 量	1.8	4.0	5.0 (4.5)	▲ 1.0	25.0
期末在庫量	191.9	177.2	165.1 (173.4)	-	▲ 6.8
期末在庫率	60.7%	55.4%	51.0% (55.1%)	0.2	▲ 4.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	44.74	44.96	45.40 (45.13)	-	1.0
単収(t/ha)	6.59	6.70	6.76 (6.78)	-	0.9

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2026)
IGC「Grain Market Report」(16 July 2026)

図 中国のとうもろこしの生産量の推移



資料:USDA「PS&D」(2026.8.12)をもとに農林水産省で作成

表 中国のとうもろこしの輸入先国と輸入量

2024/25 年度 (2024年10月～2025年 9 月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年 6 月)			2025/26年度 (2025年10月～2026年 6 月)		
国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)
ブラジル	72.4	39.7	ブラジル	72.4	43.3	ブラジル	192.9	71.0
ウクライナ	37.6	20.6	ウクライナ	37.6	22.4	ロシア	40.6	14.9
ロシア	36.8	20.2	ロシア	24.9	14.9	ミャンマー	21.0	7.7
ミャンマー	22.8	12.5	ミャンマー	20.1	12.0	アルゼンチン	6.9	2.5
ラオス	6.4	3.5	ラオス	6.2	3.7	ウクライナ	6.2	2.3
米国	3.9	2.1	米国	3.9	2.3	ラオス	4.3	1.6
その他	2.3	1.3	その他	2.3	1.4	その他	0.0	0.0
計	182.3	100.0	計	167.4	100.0	計	271.9	100.0

資料:中国海関統計をもとに農林水産省で作成

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDAの見通し> 2026/27年度

生産量

前年度比



前月比



・ペルーで下方修正されたものの、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。

消費量

前年度比



前月比



・前月予測からの変更なし。史上最高の見込み。

輸血量

前年度比



前月比



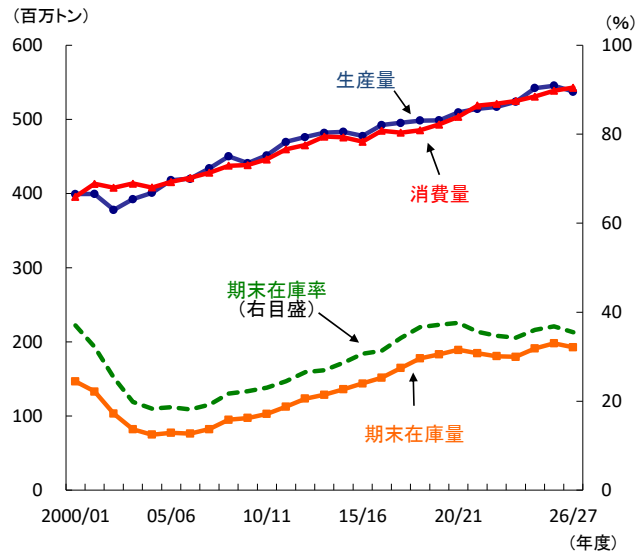
・前月予測からの変更なし。史上最高の見込み。

期末在庫量

前年度比



前月比



資料:USDA「PS&D」(2026.8.12)をもとに農林水産省にて作成

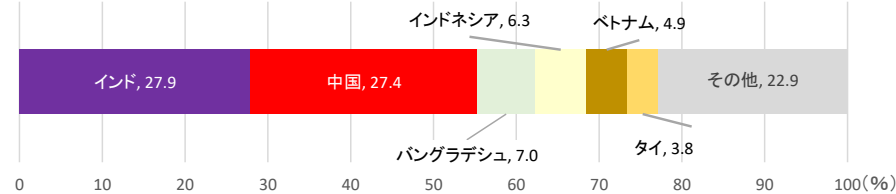
◎世界のコメ需給

(単位:百万精米トン)

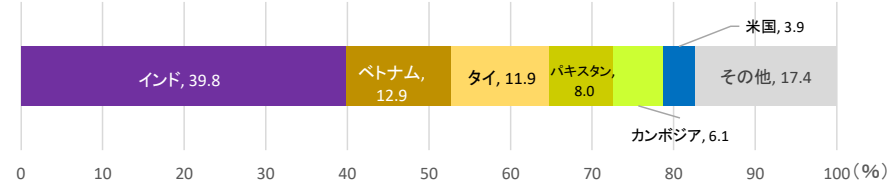
年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	542.3	545.5	537.3	0.1	▲ 1.5
消 費 量	530.8	538.6	542.8	-	0.8
輸 出 量	61.5	60.3	62.8	-	4.1
輸 入 量	58.0	57.1	60.2	0.04	5.6
期末在庫量	191.3	198.2	192.6	0.1	▲ 2.8
期末在庫率	36.0%	36.8%	35.5%	0.01	▲ 1.3

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 August 2026)

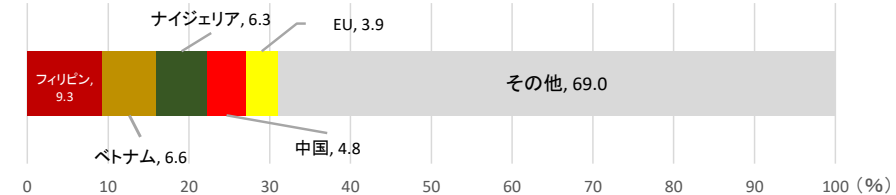
○ 2026/27年度 世界のコメの生産量(537.3百万トン)



○ 2026/27年度 世界のコメの輸血量(62.8百万トン)



○ 2026/27年度 世界のコメの輸入量(60.2百万トン)



(2) 国別のコメの需給動向

< タイ > 2026/27 年度の生産量は、前年度から 1.9%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が前年度比 0.9%減及び単収が 1.1%減となることから、前年度から 1.9%減の 20.3 百万トンの見込み。

同「Grain and Feed Monthly」(2026.8.7)によれば、タイ王立灌漑局は7月 31 日付評価報告書において、1月 1日から7月 26 日の間、主要な稲作地域で降水量が平年を下回っていると報告。チャオプラヤ川流域の主要貯水池からの今シーズンの排水量が低水準に留まっており、年末にエルニーニョ現象の影響が更に強まると見込んでいる。

タイ農業協同組合省農業経済局(2026.7)によれば、2026/27 年度の雨季米の作付面積は、コメの市場価格が低水準にあることから、作付面積及び作付回数の削減を受け前年度から 0.2%減の 9.79 百万ヘクタールと見込まれている。2026/27 年度の乾季米は、エルニーニョ現象の影響を受けた降水量減少により、作付面積の減少が懸念されている。

アセアン食料安全保障情報システム(2026.7)によれば、2026/27年度の雨季米は、現在、分げつ期に入っている。作付面積は、主にコメ価格の下落と、肥料、農薬、燃料等の投入資材費の上昇により、前年度に比べ減少が予測されている。更に、干ばつの影響により単収の減少が見込まれ、施肥量の減少も作物の生育を妨げる可能性がある。その結果、総生産量は前年度を下回ると予測されている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 7.1%増加し 7.5 百万トンの見込み。同「Grain and Feed Monthly」(2026.8.7)によれば、現在、アフリカへの輸出量が最大シェアを占めているが、エルニーニョ現象に伴う備蓄需要により ASEAN 市場(特にマレーシアやフィリピン)からの安定した発注を受け7月を通じ堅調な輸出が維持されている。

タイ関税局によれば、2025/26 年度の輸出量のうち 2026 年1～6月の輸出量は、前年同期(403.6 万トン)に比べ 18.8%減の 327.8 万トンで、輸出先国別には、南アフリカ 50.3 万トン(15.3%)、米国 35.7 万トン(10.9%)、マレーシア 32.9 万トン(10.0%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、堅調な国内生産、輸出量の減少(2024/25 年度比)を受け、前年度から 1.3%増の 3.9 百万トンとなり、過去5年間で最高水準に達する見込み。

コメータイ

夏期の雨季作(5～10月作付け、同年7月～翌年5月収穫)と冬期の乾季作(11月～翌年4月作付け、翌年2～10月収穫)で行われる。主にインディカ米を栽培。

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(27年1月～27年12月)		
			予測値、〇はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.8	20.7	20.3 (20.7)	-	▲ 1.9
消費量	12.5	12.7	12.8 (12.7)	-	0.8
輸出量	7.9	7.0	7.5 (7.0)	-	7.1
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.02)	-	-
期末在庫量	2.8	3.8	3.9 (3.9)	-	1.3
期末在庫率	13.5%	19.3%	19.0% (19.8%)	-	▲ 0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.08	11.00	10.90 (10.90)	-	▲ 0.9
単収(kg/ha)	2.85	2.85	2.82 (1.86)	-	▲ 1.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(12 August 2026)
IGC「Grain Market Report」(16 July 2026) (単収は精米t/ha)

写真 作付後 84 日目のインディカ米圃場



5月 16 日
に作付け
を実施。
生育は良
好。(タイ
中部ウド
ンタニ県
で 8 月 8
日撮影)。

表 タイのコメの輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2025年1～12月)			2024/25年度 (2025年1～6月)			2025/26年度 (2026年1～6月)		
国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
イラク	101.1	12.4	イラク	59.2	14.7	南アフリカ	50.3	15.3
南アフリカ	97.3	11.9	南アフリカ	45.7	11.3	米国	35.7	10.9
米国	81.8	10.0	米国	43.1	10.7	マレーシア	32.9	10.0
中国	65.5	8.0	中国	33.2	8.2	フィリピン	29.6	9.0
セネガル	32.4	4.0	セネガル	20.2	5.0	中国	15.6	4.8
マレーシア	28.8	3.5	日本	15.5	3.9	セネガル	12.6	3.9
その他	411.7	50.3	その他	186.6	46.2	その他	151.2	46.1
計	818.6	100.0	計	403.6	100.0	計	327.8	100.0

資料:タイ関税局「Electronic Service」をもとに農林水産省で作成

< 米国 > 2026/27 年度の生産量は、前年度から 23.3%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA「Rice Outlook: August 2026」(2026.8.14)によれば、2026/27年度の実産量は、単収の減少を収穫面積の増加が上回り、前月予測から0.2百万トン上方修正されたものの、前年度からは、23.3%減の5.0百万トンと33年ぶり(1993/94年度5.1百万トン)の低水準となる見込み。

2026/27年度の実産面積は、米国農業統計局(NASS)の6月の作付面積報告から、0.04百万ヘクタール増加したものの、前年度に比べ24.3%減の0.84百万ヘクタールと、1972/73年度以来の最低水準となる見込み。

NASSは、ミズーリ州を除く、全コメ生産州の実産面積を0.04百万ヘクタール上方修正したが、この内、特に中・短粒種の主要生産州であるカリフォルニア州では、0.02百万ヘクタール上方修正された。

同「Crop Progress」(2026.8.17)によれば、8月16日現在、主要生産6州の作柄評価は「良～優良」が70%と、前年同期(75%)を下回る。カリフォルニア州の作柄評価は「良～優良」が85%となっている。

【貿易情報・その他】USDA「Rice Outlook: August 2026」(2026.8.14)によれば、2026/27 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 15.3%増の 1.6 百万トンと史上最高の見込み。輸入する長粒種米はタイ産のジャスミン米やインド、パキスタン産のバスマティ米が大部分を占めると見込まれている。

2026/27 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 3.5%減の 2.5 百万トン の見込み。生産量の減少を受け、3年連続での減少となり、1985/86 年度以来の最低水準となる見込み。

同「Exports Sales Query System」によれば、2025/26 年度の実輸出量は前年度(288.6 万トン)に比べ12.6%減の 252.2 万トンで、輸出先国別には、日本 48.4 万トン(19.2%)、メキシコ 43.9 万トン(17.4%)、ハイチ 33.4 万トン(13.3%)の順(表1)。種類別には、長粒種は、輸出量 168.3 万トンで、輸出先国別には、メキシコ 38.8 万トン(国別シェア 23.1%)、ハイチ 33.4 万トン(同 19.9%)、コロンビア 17.9 万トン(同 10.6%)。中・短粒種は、輸出量 83.9 万トンで、輸出先国別には、日本 48.4 万トン(57.6%)、韓国 15.1 万トン(18.0%)、メキシコ 5.1 万トン(6.0%) (表2)。

USDAによれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測から0.2 百万トン上方修正されたものの、前年度から 33.3%減の 1.1 百万トンと4年ぶりの低水準となる見込み。

コメー米国

長粒種の生産量は7割、中・短粒種の生産量は3割を占め、長粒種の6割をアーカンソー州が、中・短粒種の7割をカリフォルニア州が占める。

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年8月～27年7月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	7.1	6.6	5.0	0.2	▲ 23.3
消 費 量	5.3	5.4	4.7	0.1	▲ 12.5
輸 出 量	2.9	2.6	2.5	-	▲ 3.5
輸 入 量	1.6	1.4	1.6	-	15.3
期末在庫量	1.7	1.7	1.1	0.2	▲ 33.3
期末在庫率	20.9%	21.5%	15.9%	2.1	▲ 5.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	1.16	1.11	0.84	0.04	▲ 24.3
単収(粒/ha)	8.69	8.45	8.56	▲ 0.12	1.3

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2026)

表1 米国の全コメの輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年8月～2025年7月)			2025/26年度 (2025年8月～2026年7月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
メキシコ	68.6	23.8	日本	48.4	19.2
日本	39.4	13.7	メキシコ	43.9	17.4
ハイチ	28.6	9.9	ハイチ	33.4	13.3
ホンジュラス	27.4	9.5	ホンジュラス	19.5	7.7
イラク	22.0	7.6	コロンビア	18.0	7.1
韓国	13.4	4.6	韓国	15.1	6.0
その他	89.3	31.0	その他	73.9	29.3
合計	288.6	100.0	合計	252.2	100.0

表2 米国の中・短米種の輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年8月～2025年7月)			2025/26年度 (2025年8月～2026年7月)		
国	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国	輸出量 (万トン)	シェア (%)
日本	39.4	49.8	日本	48.4	57.6
韓国	13.4	16.9	韓国	15.1	18.0
ヨルダン	6.6	8.3	メキシコ	5.1	6.0
メキシコ	6.4	8.0	台湾	4.1	4.8
カナダ	3.3	4.1	カナダ	3.8	4.5
トルコ	2.9	3.7	ヨルダン	3.3	3.9
その他	7.3	9.2	その他	4.3	5.1
合計	79.2	100.0	合計	83.9	100.0

資料:USDA「Exports Sales Query System」をもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2026/27 年度の生産量は、前年度から 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、作付面積が安定し、単収が前年度を上回るとの予測から、前年度から 0.5%増の 147.0 百万トン(精米ベース)となる見込み。同「Grain and Feed Update」(2026.7.3)によれば、中国南部では、春先に好天に恵まれたため、育苗や田植えが順調に進んだ。結果、今年度の早稲米の作付面積は横ばいで推移すると見込まれている。

中国中央気象台「全国農業気象週報」(2026.8.10)によれば、8月2日～8日の期間、一期作は、黒龍江省、吉林省、貴州省で出穂期から節間伸長期、遼寧省と安徽省で穂ばらみ期から節間伸長期、江蘇省で節間伸長期、浙江省で節間伸長期から分けつ期、湖北省と雲南省で出穂期から穂ばらみ期、四川省と重慶市では出穂期から乳熟期に達している。吉林省、遼寧省の主産地や四川省中部・貴州省では生育は概ね順調だが、黒龍江省南西部、吉林省北西部の過湿、安徽省中部の高温・少雨、四川省北東部、重慶市、雲南省の曇雨天には注意を要する。二期作晩稲は、広東省で活着期から3葉期、広西チワン族自治区、湖南省、江西省で活着期から分けつ期、浙江省、福建省で分けつ期、海南省では移植から分けつ期にある。

現地報道によれば、8月7日、東北地帯において、8月上旬としては異例の急激な気温低下が記録され、秋に収穫を迎える主要な農作物の実産量に対する悪影響が懸念されている(図)。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正されたものの、前年度からはわずか(0.03%)に減少し 147.3 百万トンとなる見込み。

同「Rice Outlook: August 2026」(2026.8.14)によれば、2026/27年度の実輸入量は、ベトナム、インド及びミャンマーからの飼料用の碎米輸入が加速していることを受け、前月予測から0.1百万トン上方修正されたものの、前年度から2.0%減の4.0百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2025/26年度の実輸入量は、前年度(233.5万トン)に比べ74.8%増の408.2万トンとなっている。輸入先国別には、ミャンマー128.0万トン(31.4%)、ベトナム113.5万トン(27.8%)、タイ52.1万トン(12.8%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2026/27 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、在庫が豊富であること等を受け、前年度から 6.8%増の 2.2 百万トンの見込み。2026/27 年度の実在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 1.4%増の 107.0 百万トンの見込み。

コメー中国

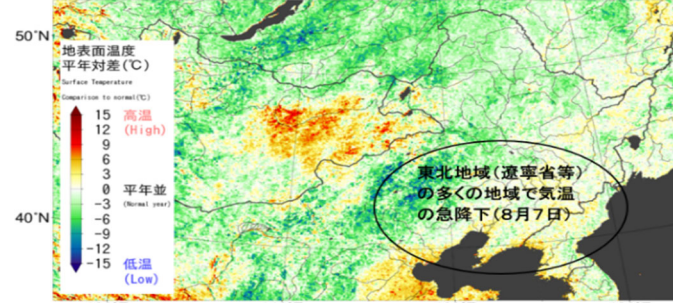
中国の主要コメ生産地域は、南部稲作地域(華南、華中、西南高原地域)で、インディカ米とジャポニカ米を栽培。北部稲作地域では、主にジャポニカ米を栽培。

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年7月～27年6月)		
			予測値、〇はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	145.3	146.3	147.0 (146.3)	-	0.5
消 費 量	145.0	147.4	147.3 (145.7)	0.1	▲ 0.03
輸 出 量	1.2	2.1	2.2 (2.0)	-	6.8
輸 入 量	2.3	4.1	4.0 (2.8)	0.1	▲ 2.0
期末在庫量	104.5	105.5	107.0 (103.5)	-	1.4
期末在庫率	71.5%	70.6%	71.6% (70.1%)	▲ 0.1	1.0

(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.01	29.00	29.00 (29.00)	-	-
単収(kg/ha)	7.15	7.21	7.24 (5.07)	-	0.4

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2026)
IGC「Grain Market Report」(16 July 2026) (単収は精米t/ha)

図 地表面温度平年対差(8月1～15日)



注:JAXA「地表面温度プロダクト」を加工して作成
Note:Created by processing JAXA's "Surface Temperature Products".

出典:農業気象情報衛星モニタリングシステム(JASMAI)

表 中国のコメの輸入先国と輸入量

2024/25年度 (2024年7月～2025年6月)			2025/26年度 (2025年7月～2026年6月)		
国名	輸入量 (万トン)	シェア(%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア(%)
ミャンマー	67.4	28.9	ミャンマー	128.0	31.4
タイ	56.1	24.0	ベトナム	113.5	27.8
ベトナム	49.6	21.3	タイ	52.1	12.8
インド	24.1	10.3	インド	45.8	11.2
パキスタン	20.7	8.9	パキスタン	38.5	9.4
カンボジア	11.7	5.0	カンボジア	27.3	6.7
その他	3.8	1.6	その他	3.0	0.7
合計	233.5	100.0	合計	408.2	100.0

資料:中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< インド > 2026/27 年度の生産量は、前年度から 2.6%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 2.6%減、過去5年平均(141.5 百万トン)から 6.0%増の 150.0 百万トンとなる見込み。

インド農業・農民福祉省「作付進捗週報」によれば、2026/27 年度のカリフ米の作付けが進行中である(写真)が、7月 27 日時点の作付面積は、前年同期(24.06 百万ヘクタール)から 2.57%減の 23.44 百万ヘクタールとなっている。

USDA「Monsoon Recovery Fails to Boost Sluggish Crop Planting」(2026.8.10)によれば、東部州(アッサム州及びビハール州等)ではモンスーンによる早期降雨が好条件となったものの、降雨に依存する中央部州(マッディヤ・プラデシュ州やマハーラーシュトラ州)では作付けが遅れ、作付面積は減少した。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 2.8%増の 128.0 百万トンと予測されている。同「Grain and Feed Annual」(2026.4.2)によれば、当該増加は、主に食料安全保障向けの政府補助米の供給増、民間取引増及びインド政府が実施するエタノール混合プログラム(EBP)によるエタノール製造者への補助金付きコメ販売によるインド国内市場へのコメ供給量増が要因となっている。また、インド政府は人口増加と食料安全保障を確保するための政府による公的配給制度(PDS)による配給も継続しており、400 万トン増の過去最高の消費量となる見込み。

USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 6.4%増の 25.0 百万トンとなる見込み。同「Grain and Feed Update」(2026.6.18)によれば、インド産米の価格競争力の維持と国内の供給余剰を背景とする。

インド輸出入統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年5月の輸出量は、1,540.1 万トンと前年同期(1,636.4 万トン)に比べ 5.9%減となっている。輸出先国別には、ベナン143.9 万トン(9.3%)、サウジアラビア 86.0 万トン(5.6%)、バングラデシュ 80.8 万トン(5.2%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度からは 5.6%減の 51.0 百万トンとなる見込み。インド食料公社(Food Cooperation India)によれば、2026 年7月時点の期末在庫量は、40.31 百万トン(精米)と前年同期(37.78 百万トン)に比べ 6.7%増の見込み。

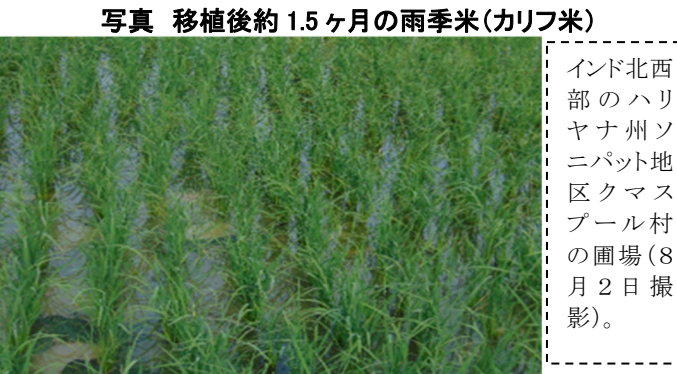
コメーインド

カリフ米:雨季/モンスーン期(5～10 月)に栽培。
ラビ米:冬季の 11 月～翌3月に栽培。
夏季米:3～6月に栽培。

(単位:百万精米トン)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27(26年10月～27年9月)		
			予測値、〇はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	150.2	154.0	150.0 (154.0)	-	▲ 2.6
消 費 量	121.4	124.5	128.0 (125.2)	-	2.8
輸 出 量	22.8	23.5	25.0 (21.8)	-	6.4
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	48.0	54.0	51.0 (55.5)	-	▲ 5.6
期末在庫率	33.3%	36.5%	33.3% (37.8%)	-	▲ 3.1
(参考)					
穫面積(百万ha)	51.27	52.83	51.50 (52.70)	-	▲ 2.5
収(粍t/ha)	4.39	4.37	4.37 (2.93)	-	-

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2026)
IGC「Grain Market Report」(16 July 2026)(単収は精米t/ha)



2024/25年度 (2024年10月～2025年9月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年5月)			2025/26年度 (2025年10月～2026年5月)		
国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
ベナン	216.7	9.4	ベナン	153.7	9.4	ベナン	143.9	9.3
バングラデシュ	149.9	6.5	バングラデシュ	105.2	6.4	サウジアラビア	86.0	5.6
サウジアラビア	139.8	6.1	サウジアラビア	102.5	6.3	バングラデシュ	80.8	5.2
ギニア	114.5	5.0	ギニア	92.2	5.6	ギニア	77.6	5.0
トーゴ	113.9	5.0	コートジボワール	88.2	5.4	トーゴ	75.1	4.9
コートジボワール	111.2	4.8	トーゴ	72.7	4.4	アラブ首長国連邦	73.7	4.8
その他	1,454.8	63.2	その他	1,021.9	62.5	その他	1,003.1	65.1
計	2,300.8	100.0	計	1,636.4	100.0	計	1,540.1	100.0

資料:インド農業・加工食品輸出振興局(APEDA)「Agri Xchange」をもとに農林水産省で作成

< ベトナム > 2026/27 年度の生産量は、前年度から 0.4%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、コメ農家がより収益性の高い作物等(果物・野菜・養殖)へシフトする傾向が続き、収穫面積が前年度から 1.5%減少し、前年度から 0.4%減の 26.1 百万トンとなる見込み。

ベトナム総統計局(2026.8.3)によれば、2026年(USDA:2026/27年度)の全国の雨季米(ムア作)の作付面積は、7月20日時点で、より収益性の高い一年生及び多年生作物、水産養殖、公共インフラや工業団地等の非農業用途への転換を要因とし、前年同期に比べ4万5,600ヘクタール減の113万8,500ヘクタールとなっている。北部は前年同期に比べ2万5,400ヘクタール減の80万6,900ヘクタール。南部は前年同期に比べ2万200ヘクタール減の33万1,600ヘクタール。全国の雨季米(夏秋作)の作付面積は、前年同期に比べ2万4,000ヘクタール減の186万2,800ヘクタールとなっている。北部で16万6,900ヘクタール、南部で169万5,900ヘクタールとなっているが、作付面積の減少は、冬春作の収穫遅れ、長期的な熱波、一部地域での灌漑用水不足により農家が作付面積を縮小、又は作付けを延期したことによる。

アセアン食料安全保障情報システム(2026.7)によれば、北部では乾季米(冬春作)の収穫は全て完了した。単収は約6.53トン/ヘクタールと推定され、前年度に比べ0.1トン/ヘクタール増加している。一方、雨季米(夏秋作)は、作付け及び分げつ期にある。灌漑用水が十分に確保されていることから、作柄は概ね良好である。南部では、雨季米(夏秋作)が幼穂形成期から登熟期に入っている。長引く猛暑と灌漑用水の供給不足により、作付進捗は前年同期より遅れており、農家は作付面積を縮小したり、作付作業を遅らせたりしている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、生産量の減少を受け前年度から 0.2%減の 22.2 百万トンとなる見込み。

2026/27 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 15.2%増の 3.8 百万トンと、過去最高を記録すると予測されている。2026/27 年度の輸出量は、前月予測及び前年度からの変更はなく 8.1 百万トンとなる見込み。ベトナム税関総局によれば、2025/26 年度のうち 2026 年1～7月の輸出量は、549.6 万トンと前年同期(550.3 万トン)に比べ0.1%減。輸出先国別には、フィリピン 254.0 万トン(46.2%)、中国 97.8 万トン(17.8%)、ガーナ 55.2 万トン(10.1%)の順(表)。USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、生産量の減少を受け前年度から 16.0%減の 2.1 百万トンとなる見込み。

コメベトナム

北部で二期作、南部で三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培。

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (27年1月～27年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	26.9	26.2	26.1 (28.2)	-	▲ 0.4
消 費 量	22.3	22.3	22.2 (23.2)	-	▲ 0.2
輸 出 量	8.1	8.1	8.1 (8.8)	-	-
輸 入 量	3.5	3.3	3.8 (3.5)	-	15.2
期末在庫量	3.4	2.5	2.1 (3.2)	-	▲ 16.0
期末在庫率	11.0%	8.2%	6.9% (10.1%)	-	▲ 1.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.02	6.80	6.70 (6.98)	-	▲ 1.5
単収(穀t/ha)	6.12	6.16	6.23 (4.00)	-	1.1

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2026)
IGC「Grain Market Report」(16 July 2026) (単収は精米t/ha)

写真 作付後 55 日目の稲(雨季米)(ベトナム南部)



カントー市沿岸部(旧ソクチャン省)の稲作農家。OM5451 品種(8月10日撮影)。

表 ベトナムのコメの輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2025年1～12月)			2024/25年度 (2025年1～7月)			2025/26年度 (2026年1～7月)		
国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
フィリピン	320.7	39.8	フィリピン	243.3	44.2	フィリピン	254.0	46.2
インドネシア	105.5	13.1	インドネシア	64.9	11.8	中国	97.8	17.8
ガーナ	91.9	11.4	ガーナ	58.7	10.7	ガーナ	55.2	10.1
中国	74.7	9.3	中国	49.7	9.0	インドネシア	30.9	5.6
マレーシア	51.5	6.4	マレーシア	29.4	5.3	マレーシア	28.7	5.2
セネガル	16.8	2.1	バングラデシュ	10.5	1.9	シンガポール	8.6	1.6
その他	145.1	18.0	その他	93.9	17.1	その他	74.3	13.5
計	806.3	100.0	計	550.3	100.0	計	549.6	100.0

資料: ベトナム税関総局「月別主要輸出統計データ」をもとに農林水産省で作成

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要(詳細は右表を参照)

<USDA の見通し> 2026/27 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ウクライナ等で下方修正されたものの、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

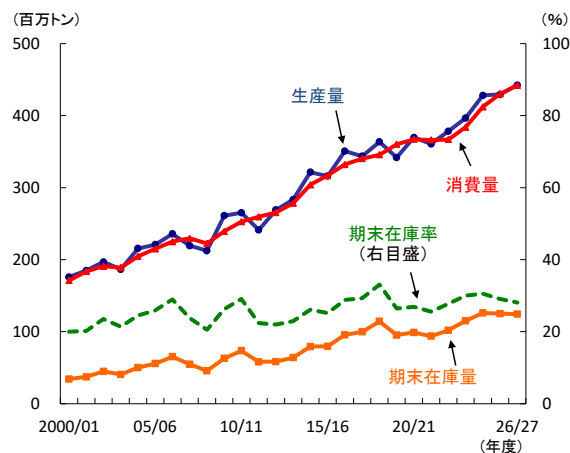
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ウクライナ等で下方修正されたものの、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 —

・ウクライナで下方修正されたものの、アルゼンチンで上方修正され、前月から変更なし。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料:USDA「PS&D」(2026.8.12)をもとに農林水産省で作成

◎世界の大豆需給

(単位:百万トン)

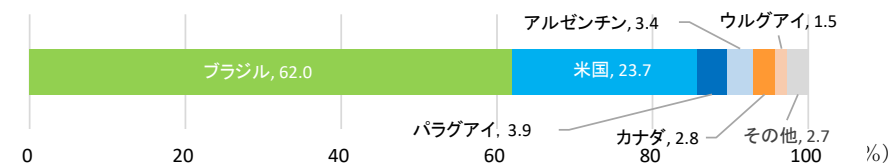
年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	428.1	429.5	442.3	0.6	3.0
消費量	412.1	430.3	442.0	0.3	2.7
うち搾油用	359.2	373.9	384.8	0.6	2.9
輸出量	184.3	187.2	190.4	-	1.7
輸入量	179.2	187.2	189.3	-	1.1
期末在庫量	126.0	125.1	124.2	0.04	▲ 0.7
期末在庫率	30.6%	29.1%	28.1%	▲ 0.01	▲ 1.0

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 August 2026)

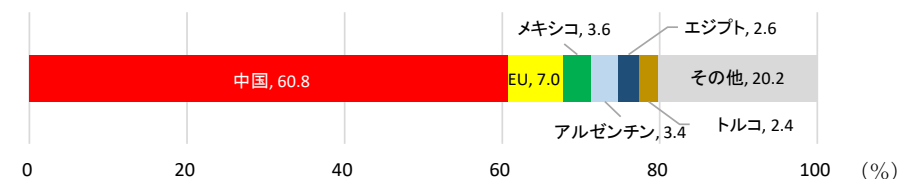
○ 2026/27 年度 世界の大豆の生産量(442.3 百万トン)



○ 2026/27 年度 世界の大豆の輸出量(190.4 百万トン)



○ 2026/27 年度 世界の大豆の輸入量(189.3 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 2026/27 年度の生産量は前年度から 6.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実生産量は、前月予測から 1.2 百万トン上方修正され、前年度から 6.0%増、過去5年平均(117.2 百万トン)から 4.9%増の 123.0 百万トンと史上最高の見込み。

同「Oil Crops Outlook」(2026.8.14)によれば、2026/27 年の大豆の作付けは、例年より早い作付開始と好天に恵まれ、過去5年平均を上回るペースで進展し、7月を通じて続いた高温は、主要生産州における大豆の生育を促進する要因となった。

同「Crop Progress」(2026.8.17)によれば、8月 16 日現在の着莢進捗率は 85%と、前年同期(80%)、過去5年平均(80%)を上回っている。作柄評価は「良～優良」の割合が 61%と、前年同期(68%)を下回っている。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測から 0.8 百万トン上方修正され、バイオディーゼルの需要の増加等を受け前年度から 4.4%増の 78.6 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加を受け前年度から 9.2%増の 45.2 百万トンの見込み。

同「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 9 月～2026 年7月の輸出量は、前年同期(4,786.2 万トン)に比べ 17.8%減の 3,934.9 万トン。輸出先国別には、中国 1,229.6 万トン(31.2%)、エジプト 478.6 万トン(12.2%)、メキシコ 468.1 万トン(11.9%)の順(表)。

国際穀物理事会(IGC)によれば、8月7日現在の輸出価格は、米国は前月(7月7日)から9ドル/トン下落し 474 ドル/トン、ブラジルは前月から 12 ドル/トン上昇し 487 ドル/トン、アルゼンチンは前月から4ドル/トン上昇し 451 ドル/トンとなった(図)。USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」(2026.8.12)によれば、米国の大豆輸出価格は、7月前半、中国による大量買い付けや米国主要産地における乾燥傾向を背景に上昇し、2024 年初頭以来で初めて 500 ドル/トンを上回った。その後、乾燥地域での降雨予報を受け7月後半から8月前半にかけて価格は下落した。ブラジル及びアルゼンチンの輸出価格も概ね米国に連動して推移した。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、消費量及び輸出量の増加を受け前年度から 1.6%減となるものの、過去5年平均(8.3 百万トン)から 4.5%増の 8.7 百万トンとなる見込み。期末在庫率は、前年度から 0.6 ポイント減の 7.0%となる見込み。

大豆－米国

(5～6月に作付けされ、9～11 月に収穫される。)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年9月～27年8月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	119.1	116.0	123.0	1.2	6.0
消費量	68.8	75.3	78.6	0.8	4.4
うち搾油用	66.6	72.3	75.7	0.8	4.7
輸出量	51.5	41.4	45.2	-	9.2
輸入量	0.8	0.7	0.7	-	-
期末在庫量	8.8	8.9	8.7	0.3	▲ 1.6
期末在庫率	7.3%	7.6%	7.0%	0.2	▲ 0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	34.89	32.55	34.71	0.55	6.6
単収(t/ha)	3.41	3.56	3.54	▲ 0.03	▲ 0.6

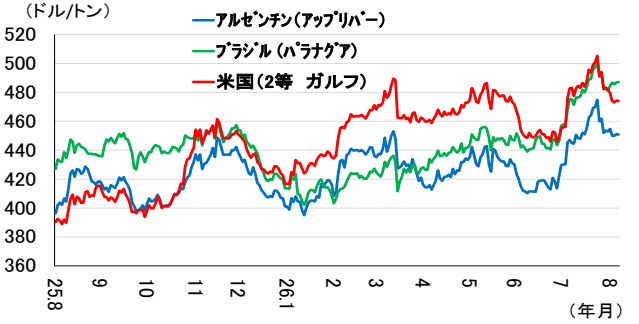
資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(12 August 2026)

表 米国の大豆の輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年9月～2025年8月)			2024/25年度 (2024年9月～2025年7月)			2025/26年度 (2025年9月～2026年7月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
中国	2,232.5	44.6	中国	2,232.5	46.6	中国	1,229.6	31.2
メキシコ	498.5	10.0	メキシコ	441.8	9.2	エジプト	478.6	12.2
エジプト	369.2	7.4	エジプト	339.2	7.1	メキシコ	468.1	11.9
ドイツ	273.1	5.5	ドイツ	255.2	5.3	インドネシア	250.9	6.4
イタリア	210.0	4.2	イタリア	195.7	4.1	日本	196.9	5.0
その他	1,418.0	28.4	その他	1,323.4	27.6	その他	1,310.8	33.3
合計	5,001.5	100.0	合計	4,787.8	100.0	合計	3,934.9	100.0

資料:USDA「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省で作成

図 各国の大豆輸出価格(FOB)の推移



資料:IGC のデータをもとに農林水産省で作成

＜ ブラジル ＞ 2026/27 年度の生産量は前年度から 3.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 3.0%増、過去5年平均(160.0 百万トン)から 16.3%増の 186.0 百万トンと史上最高の見込み。同「Oilseeds and Products Update」(2026.7.6)によれば、生産量の増加の要因には、作付面積の増加のほか、栽培技術等の改善、これまでに行われた技術や機械への投資が挙げられる。また、作付面積の増加の大部分は、マトピバ地域(マラニョン州、トカンティンス州、ピアウイ州、バイーア州)が占めるとみられる。

ブラジル食料供給公社(CONAB)の月例報告(2026.8.13)によれば、2025/26 年度の実産量は、作付面積及び単収の増加を受け前年度から 5.2%増の 180.5 百万トンの見込み。ほとんどの州で収穫は終了しているが、ロライマ州、アラゴアス州、トカンティンス州では依然として収穫作業が続けられている。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 4.8%増の 69.6 百万トンと史上最高の見込み。同「Oil Crops Outlook」(2026.8.14)によれば、過去5年間、主要な大豆生産国及び輸入国では、設備稼働率の上昇と処理能力の拡大により、大豆搾油量が増加を続けている。ブラジルの大豆搾油量は、2026/27 年度に過去最高の 65.0 百万トンに達する見通しである。

CONAB の月例報告(2026.8.13)によれば、2025/26 年度の実産量の見通しは、バイオディーゼルの混合義務率の 15%から 16%(B16)への引上げ延期を受け、前月予測から 43.5 万トン下方修正され 6,213 万トンとなる見込み。2026/27 年度の見通しは、引き続き B16 の導入に関する決定に左右される。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加を受け前年度から 2.6%増の 118.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年7月の輸出量は、前年同期(8,647.3 万トン)に比べ 12.5%増の 9,728.5 万トン。輸出先国別には、中国 7,053.9 万トン(72.5%)、スペイン 368.7 万トン(3.8%)、タイ 320.0 万トン(3.3%)の順となっている(表)。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、消費量の増加等を受け前年度から 2.1%減となるものの、過去5年平均(33.9 百万トン)からは 8.9%増の 36.9 百万トンとなる見込み。期末在庫率は、前年度から 1.1 ポイント減の 19.7%となる見込み。

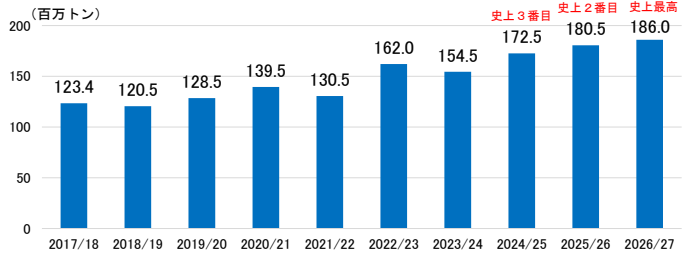
大豆ーブラジル

(9～12 月に作付けされ、1～4月に収穫される。)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年10月～27年9月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	172.5	180.5 (180.5)	186.0 (-)	- (-)	3.0 (-)
消 費 量	62.2	66.4 (65.9)	69.6 (-)	- (-)	4.8 (-)
うち搾油用	58.2	62.0 (62.1)	65.0 (-)	- (-)	4.8 (-)
輸 出 量	103.1	115.0 (116.2)	118.0 (-)	- (-)	2.6 (-)
輸 入 量	0.7	0.9 (0.9)	0.8 (-)	- (-)	▲11.1 (-)
期末在庫量	37.7	37.7 (9.2)	36.9 (-)	- (-)	▲2.1 (-)
期末在庫率	22.8%	20.8% (5.0%)	19.7% (-)	- (-)	▲1.1 (-)
(参考)					
収穫面積(百万ha)	47.40	48.50 (48.61)	50.00 (-)	- (-)	3.1 (-)
単収(t/ha)	3.64	3.72 (3.71)	3.72 (-)	- (-)	- (-)

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(12 August 2026)
CONAB「Graos」(13 August 2026)※()書き。なお、CONABの収穫面積は作付面積である。

図 ブラジルの大豆の実産量の推移



資料:USDA「PS&D」(2026.8.12)をもとに農林水産省で作成

表 ブラジルの大豆の輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年10月～2025年9月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年7月)			2025/26年度 (2025年10月～2026年7月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
中国	7,968.8	77.3	中国	6,498.3	75.1	中国	7,053.9	72.5
スペイン	396.3	3.8	スペイン	351.7	4.1	スペイン	368.7	3.8
タイ	365.5	3.5	タイ	293.8	3.4	タイ	320.0	3.3
トルコ	184.8	1.8	トルコ	182.5	2.1	トルコ	275.2	2.8
イラン	146.3	1.4	イラン	146.3	1.7	オランダ	208.0	2.1
その他	1,252.1	12.1	その他	1,174.7	13.6	その他	1,502.8	15.4
合計	10,313.8	100.0	合計	8,647.3	100.0	合計	9,728.5	100.0

資料:ブラジル貿易統計のデータをもとに農林水産省で作成

＜ カナダ ＞ 2026/27 年度の生産量は前年度から 8.4%増加する見込み(AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2026.8.20)によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加を受け前年度から 8.4%増の 7.5 百万トンとなる見込み(図)。

カナダ統計局(2026.6.30)によれば、2026/27 年度の作付面積は、前年度から 3.1%増、過去5年平均(223.0 万ヘクタール)から 8.2%増の 241.2 万ヘクタールとなる見込み。他作物の投入コスト上昇及び価格下落による収益性低下により作付けが大豆へシフトしたとみられる。

AAFC によれば、7月末時点でカナダ東部の生育状況は安定しており、オンタリオ州及びケベック州の単収は平年を上回ると予測されている。同2州でカナダの大豆作付面積の約 65%を占める。マニトバ州ではシーズン序盤に厳しい生育条件に見舞われたが、同州農業局及び大豆生産者によれば、最近数週間で生育が急速に進み、全体的に生育が改善している。

【需要状況】AAFC によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費等の増加を受け前年度から 7.3%増の 2.2 百万トンとなる見込み。このうち、搾油用消費量は、前年度と同水準、過去5年平均(1.74 百万トン)をわずかに上回り 1.8 百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2026/27 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 1.8%増の 5.6 百万トンとなる見込み(図)。

2025/26 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度(5.52 百万トン)から 0.4%減の 5.5 百万トンとなるものの、史上3番目の輸出量となる見込み。カナダ統計局によれば、2025/26 年度のうち 2025 年8月～2026 年6月の輸出量は、前年同期(522.1 万トン)に比べ 2.4%減の 509.8 万トン。輸出先国別には、中国 197.9 万トン(38.8%)、アルジェリア 52.7 万トン (10.3%)、オランダ 52.5 万トン(10.3%)の順となっている(表)。

AAFC によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加等を受け前年度から 35.0%増の 0.4 百万トンとなるものの、依然として逼迫した水準となる見込み。期末在庫率は、前年度から 1.2 ポイント増の 4.9%となる見込み。

大豆－カナダ

(5～6月に作付けされ、9～11 月に収穫される。)

(単位:百万トン)

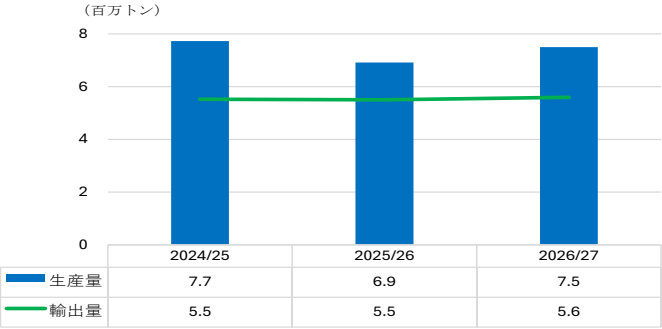
年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年8月～27年7月)		
			予測値、○はAAFC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生 産 量	7.7	6.9 (6.9)	7.4 (7.5)	-	7.0 (8.4)
消 費 量	2.4	2.2 (2.1)	2.3 (2.2)	0.1 (-)	3.4 (7.3)
うち搾油用	1.7	1.6 (1.8)	1.6 (1.8)	0.1 (-)	3.2 (-)
輸 出 量	5.6	5.3 (5.5)	5.4 (5.6)	-	1.9 (1.8)
輸 入 量	0.3	0.3 (0.3)	0.3 (0.4)	-	▲9.1 (33.3)
期末在庫量	0.6	0.4 (0.3)	0.4 (0.4)	▲0.2 (-)	13.5 (35.0)
期末在庫率	7.5%	5.0% (3.8%)	5.5% (4.9%)	▲2.1 (-)	0.5 (1.2)
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.29	2.32 (2.32)	2.40 (2.39)	-	3.4 (2.9)
単収(t/ha)	3.37	2.98 (2.98)	3.08 (3.14)	-	3.4 (5.4)

資料:USDA「PS&D」(12 August 2026)

「World Agricultural Production」(12 August 2026)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(20 August 2026)※()書き

図 カナダの大豆の実産量・輸出量の推移



資料:AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2026.8.20)をもとに農林水産省で作成

表 カナダの大豆の輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年 8 月～2025 年 7 月)			2024/25年度 (2024年 8 月～2025 年 6 月)			2025/26年度 (2025 年 8 月～2026 年 6 月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
中国	104.2	19.0	中国	103.2	19.8	中国	197.9	38.8
イラン	83.9	15.3	イラン	83.9	16.1	アルジェリア	52.7	10.3
アルジェリア	52.1	9.5	アルジェリア	44.3	8.5	オランダ	52.5	10.3
米国	42.2	7.7	米国	37.5	7.2	イラン	43.1	8.5
日本	39.3	7.2	日本	35.8	6.9	日本	30.3	5.9
インドネシア	31.8	5.8	インドネシア	28.5	5.5	米国	27.8	5.4
その他	194.6	35.5	その他	188.9	36.2	その他	105.5	20.7
合計	547.9	100.0	合計	522.1	100.0	合計	509.8	100.0

資料:カナダ統計局のデータをもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2026/27 年度の生産量は前年度から 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、単収増を受け前年度から 0.5%増、過去5年平均(19.8 百万トン)から 6.0%増の 21.0 百万トンと史上最高の見込み。

中国中央気象台「全国農業気象週報」(2026.8.10)によれば、8 月 2 ～ 8 日の期間、黒龍江省、内モンゴル自治区、吉林省、山西省、遼寧省では開花期から着莢期にあり、河南省、安徽省、江蘇省で開花期、河北省で分枝期にあった。黒龍江省、吉林省、遼寧省の大部分では、日照が平年並みか多く、土壌水分も適していたため、開花、着莢の進行には総じて好条件だった。一方、黒龍江省南西部、吉林省北西部では、降水量が多く、一部農地で土壌が過湿となり開花と着莢に不利な状況となった。また陝西省の大部分、山西省南西部、河南省西部では累積降水量が多く日照が少ない曇雨天により、土壌の過湿が続き、開花、着莢に不利な影響を及ぼした(図)。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、家禽及び水産養殖部門の成長や養豚部門での飼料安定を受け、前年度から 1.6%増の 136.0 百万トンと史上最高の見込み。消費の伸びは食用需要にも支えられており、当該需要も GDP の増加に伴う拡大が見込まれている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 1.8%増の 115.0 百万トンと史上最高の見込み。

中国海関統計によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年6月の輸入量は、前年同期(7,257.3 万トン)に比べ 4.4%増の 7,578.7 万トン。輸入先国別には、ブラジル 5,337.4 万トン(70.4%)、米国 930.9 万トン(12.3%)、アルゼンチン 872.1 万トン(11.5%)の順(表)。現地報道によれば、2026 年8月におけるブラジル産大豆の輸出量は推定 1,088 万トンに達し、前年同期の 810.7 万トンから約 34.3%の大幅な増加を記録した。この背景には、中国の輸入業者が、地政学的摩擦の影響を回避するための「デリスキング」戦略を取り、米国産から南米産へと調達先をシフトさせていることによる。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2026 年6月号」によれば、6月の国際的な大豆価格は原油価格の下落、世界の主要産地における豊富な供給を受け、大幅に下落した。国内価格は前月(5,000 元/トン)から 60 元/トン下落し 4,940 元/トンとなった。

USDA によれば、2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.01 百万トン下方修正され、消費量の増加を受け前年度から 0.2%減となるものの、過去5年平均(37.9 百万トン)から 16.7%増の 44.3 百万トンとなる見込み。

大豆—中国

(4～6月に作付けされ、9～10月に収穫される。)(単位:百万トン)

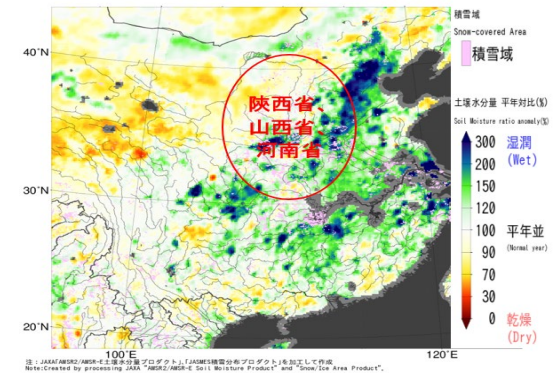
年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年10月～27年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	20.7	20.9	21.0 (21.0)	-	0.5
消 費 量	127.4	133.9	136.0 (138.9)	-	1.6
うち搾油用	103.5	109.0	111.0 (114.5)	-	1.8
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	▲ 23.1
輸 入 量	108.0	113.0	115.0 (115.5)	-	1.8
期末在庫量	44.5	44.4	44.3 (48.7)	▲ 0.01	▲ 0.2
期末在庫率	34.9%	33.1%	32.5% (35.0%)	▲ 0.01	▲ 0.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.33	10.30	10.30 (10.25)	-	-
単収(t/ha)	2.00	2.03	2.04 (-)	-	0.5

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2026)
IGC「Grain Market Report」(16 July 2026)

図 土壌水分量平年対比(2026 年8月1～15 日)



出典:農業気象情報衛星モニタリングシステム(JASMAI)

表 中国の大豆の輸入先国と輸入量

2024/25年度 (2024年10月～2025年9月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年6月)			2025/26年度 (2025年10月～2026年6月)		
国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)
ブラジル	7,610.8	69.6	ブラジル	4,427.3	61.0	ブラジル	5,337.4	70.4
米国	2,440.9	22.3	米国	2,376.0	32.7	米国	930.9	12.3
アルゼンチン	476.6	4.4	アルゼンチン	198.1	2.7	アルゼンチン	872.1	11.5
ウルグアイ	244.3	2.2	カナダ	112.7	1.6	ウルグアイ	179.6	2.4
カナダ	118.6	1.1	ウルグアイ	110.6	1.5	カナダ	175.4	2.3
ロシア	45.0	0.4	ロシア	32.2	0.4	ロシア	76.1	1.0
その他	2.1	0.0	その他	0.3	0.0	その他	7.2	0.1
合計	10,938.3	100.0	合計	7,257.3	100.0	合計	7,578.7	100.0

資料:中国海関統計のデータをもとに農林水産省で作成

＜ アルゼンチン ＞ 2026/27 年度の生産量は前年度から 1.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2026/27 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 1.0%増、過去5年平均(43.5 百万トン)から 14.8%増の 50.0 百万トンとなる見込み。また、2025/26 年度の実産量は、単収は増加するものの収穫面積の減少を受け前年度から 3.2%減の 49.5 百万トンとなる見込み。同「Oilseeds and Products Update」(2026.7.6)によれば、2025/26 年度は、主要産地の大部分で、生育に重要な時期である3月下旬から4月にかけて、十分な降雨があったことにより、高水準の単収となった。

アルゼンチン農牧漁業庁(SAGyP)の週報(2026.7.23)によれば、2025/26 年度の実産量は終了した。

【需要状況】USDA によれば、2026/27 年度の実消費量は、前月予測から 0.3 百万トン下方修正されたものの、搾油用需要の増加を受け前年度から 2.6%増の 49.7 百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2026/27 年度の輸出量は、世界的な需要増の見通しを受け前月予測から 0.3 百万トン上方修正されたものの、輸出税一時撤廃(表1)により中国向け輸出が大幅に増加した前年度から 28.3%減の 6.5 百万トンとなる見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2025/26 年度のうち 2025 年 10 月～2026 年6月の輸出量は、前年同期(266.5 万トン)に比べ 175.8%増の 735.1 万トン。輸出先国別には、中国 702.2 万トン(95.5%)、米国 5.7 万トン(0.8%)、チリ 4.2 万トン(0.6%)の順となっている(表2)。

USDA「Oilseeds and Products Update」(2026.7.6)によれば、アルゼンチン政府は、2026 年6月3日、政令 423/2026 号にて、小麦及び大麦の輸出税を即時引き下げるとともに、2027 年1月から 2028 年 12 月にかけて、大豆、大豆製品(大豆油・大豆粕)、とうもろこし、ソルガム、ヒマワリの輸出税を段階的に引き下げることを発表した(表1)。これらの引下げは同国の財政状況に応じて実施されることとなっている。輸出税の引下げは、直接的に農家の収入を増加させ、収益性の向上をもたらすとみられ、現地の農業界は今回の発表を歓迎している。

USDA によれば、2026/27 年度の実輸入量は、前月予測からの変更はなく、アルゼンチン最大の輸入先国であるパラグアイにおける生産量減少を受け、前年度から 7.8%減の 6.5 百万トンとなる見込み。

2026/27 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、輸出量の減少等を受け前年度から 1.7%増、過去5年平均(22.7 百万トン)から 6.9%増の 24.2 百万トンとなる見込み。期末在庫率は、前年度から 1.7 ポイント増の 43.2%となる見込み。

大豆ーアルゼンチン

(10～1月に作付けされ、3～7月に収穫される。)

年 度	2024/25	2025/26 (見込み)	2026/27 (26年10月～27年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	51.1	49.5	50.0 (51.0)	-	1.0
消 費 量	48.9	48.4	49.7 (50.8)	▲ 0.3	2.6
うち搾油用	43.2	42.0	43.0 (44.3)	-	2.4
輸 出 量	7.9	9.0	6.5 (6.1)	0.3	▲ 28.3
輸 入 量	6.3	7.1	6.5 (6.2)	-	▲ 7.8
期末在庫量	24.7	23.8	24.2 (6.2)	-	1.7
期末在庫率	43.4%	41.5%	43.2% (10.9%)	-	1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.46	16.20	17.10 (17.15)	-	5.6
単収(t/ha)	2.93	3.06	2.92 (-)	-	▲ 4.6

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2026)
IGC「Grain Market Report」(16 July 2026)

表1 アルゼンチンの輸出税率の推移(2022 年 12 月 30 日以降)

政 令	公 布 日	小 麦	とうもろこし	大豆	大豆油 大豆粕
政令851/2021号	2022年12月30日	12	12	33	31
政令38/2025号	2025年1月27日	9.5	9.5	26	24.5
政令439/2025号	6月27日	9.5	12	33	31
政令526/2025号	7月31日	9.5	9.5	26	24.5
政令682/2025号	9月22日	0	0	0	0
政令526/2025号	9月24日(※)	9.5	9.5	26	24.5
政令877/2025号	12月12日	7.5	8.5	24	22.5
政令423/2026号	2026年6月3日	5.5	2027年1月～2028年12月 5.5に段階的に 引下げ 15に段階的に 引下げ 14に段階的に 引下げ		

※9月に一時的に輸出税を撤廃したものの、設定した輸出額の上限に達したため、以前の輸出税が復活した。
資料:アルゼンチン政府官報をもとに農林水産省で作成

表2 アルゼンチンの大豆の輸出先国と輸出量

2024/25年度 (2024年10月～2025年9月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年6月)			2025/26年度 (2025年10月～2026年6月)		
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
中国	681.4	86.6	中国	202.9	76.1	中国	702.2	95.5
米国	15.9	2.0	米国	6.6	2.5	米国	5.7	0.8
イラク	11.2	1.4	チリ	6.3	2.4	チリ	4.2	0.6
チリ	9.0	1.1				ペルー	2.8	0.4
カナダ	1.9	0.2						
その他	67.2	8.5	その他	50.8	19.1	その他	20.2	2.8
合計	786.6	100.0	合計	266.5	100.0	合計	735.1	100.0

資料:アルゼンチン国家統計局(INDEC)をもとに農林水産省で作成。なお、その他には秘匿「Confidential」の数量を含む。

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について (2026/27年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	26年6月～27年5月	26年9月～27年8月	26年8月～27年7月	26年9月～27年8月
カナダ	26年8月～27年7月			26年8月～27年7月
豪州	26年10月～27年9月		27年3月～28年2月	
EU	26年7月～27年6月	26年10月～27年9月		
中国	26年7月～27年6月	26年10月～27年9月	26年7月～27年6月	26年10月～27年9月
ロシア	26年7月～27年6月	26年10月～27年9月		26年9月～27年8月
ウクライナ	26年7月～27年6月	26年10月～27年9月		
ブラジル		27年3月～28年2月	27年4月～28年3月	26年10月～27年9月
アルゼンチン	26年12月～27年11月	27年3月～28年2月		26年10月～27年9月
タイ			27年1月～12月	
インド	26年4月～27年3月		26年10月～27年9月	
ベトナム			27年1月～12月	

※市場年度は、各国で概ね作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2026/27年度は、米国の小麦では2026年6月～2027年5月、ブラジルのとうもろこしでは2027年3月～2028年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216 メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772 メトリックトン	大麦	
	0.025401 メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515 メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359 メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469 ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16 ヘクタール	タイ
1 畝(ムー)	0.0667 ヘクタール	中国

3 その他

1ガロン	4.536 リットル		英国
1ガロン	3.785 リットル		米国
1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国
華氏(°F)	摂氏(°C) = (°F - 32) ÷ 1.8		

ク ロ ッ プ カ レ ン ダ ー (小 麦)

播種
 収穫
 Market year

国名	2025/26年度 生産量	作期	N年												N+1年											
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
EU 	145.1百万トン (シェア17.2%)	冬小麦																								
		春小麦																								
中国 	140.1百万トン (シェア16.6%)	冬小麦																								
		春小麦																								
インド 	117.9百万トン (シェア14.0%)																									
ロシア 	90.3百万トン (シェア10.7%)	冬小麦																								
		春小麦																								
米国 	54.0百万トン (シェア6.4%)	冬小麦																								
		春小麦																								
カナダ 	40.0百万トン (シェア4.7%)	春小麦																								
		冬小麦																								
豪州 	36.0百万トン (シェア4.3%)																									

資料:USDA「Crop Calendars」、「PS&D」(2026.5)。※作期の記載順は生産量の多い順である。

ク ロ ッ プ カ レ ン ダ ー (コ メ)

播種
 収穫
 Market year

国名	2025/26年度 生産量	作期	N年												N+1年											
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
 インド 152.0百万トン (シェア28.0%)		カリフ(雨期)																								
		ラビ(乾期)																								
 中国 146.3百万トン (シェア27.0%)		一期作																								
		二期作遅植え																								
		二期作早植え																								
 バングラデシュ 37.7百万トン (シェア6.9%)		ボロ種																								
		アマン種																								
		アウス種																								
 インドネシア 33.8百万トン (シェア6.2%)		第1期作																								
		第2期作																								
		第3期作																								
 ベトナム 26.2百万トン (シェア4.8%)		南部冬春作																								
		北部冬春作																								
		南部夏秋作早植え																								
		北部冬作Lua Mua																								
		南部夏秋作遅植え																								
 タイ 20.7百万トン (シェア3.8%)		雨期作																								
		乾期作																								

資料:USDA「Crop Calendars」、「PS&D」(2026.5)。※作期の記載順は生産量の多い順である。

ク ロ ッ プ カ レ ン ダ ー (と う も ろ こ し)

播種
 収穫
 Market year

国名	2025/26年度 生産量	作期	N年												N+1年												N+2年	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
 米国 432.3百万トン (シェア32.9%)																												
 中国 301.2百万トン (シェア22.9%)		北部																										
		南部																										
 ブラジル 135.0百万トン (シェア10.3%)		第2期作																										
		第1期作																										
 アルゼンチン 59.0百万トン (シェア4.5%)																												
 EU 56.8百万トン (シェア4.3%)																												
 インド 46.2百万トン (シェア3.5%)		カリフ(雨期)																										
		ラビ(乾期)																										

資料:USDA「Crop Calendars」、 「PS&D」(2026.5)。※作期の記載順は生産量の多い順である。

ク ロ ッ プ カ レ ン ダ ー (大 豆)

播種
 収穫
 Market year

国名	2025/26年度 生産量	作期	N年												N+1年											
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ブラジル 	180.0百万トン (シェア42.1%)																									
米国 	116.0百万トン (シェア27.1%)																									
アルゼンチン 	48.0百万トン (シェア11.2%)	第1期作																								
		第2期作																								
中国 	20.9百万トン (シェア4.9%)																									

資料:USDA「Crop Calendars」、「PS&D」(2026.5)。※作期の記載順は生産量の多い順である。

ク ロ ッ プ カ レ ン ダ ー (な た ね)

播種
 収穫
 Market year

国名	2025/26年度 生産量	N年												N+1年											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
カナダ 	22.0百万トン (シェア23.0%)																								
EU 	20.5百万トン (シェア21.5%)																								
中国 	16.0百万トン (シェア16.8%)																								
インド 	12.0百万トン (シェア12.6%)																								
豪州 	7.7百万トン (シェア8.0%)																								
ロシア 	5.5百万トン (シェア5.8%)																								
ウクライナ 	3.5百万トン (シェア3.7%)																								

資料:USDA「Crop Calendars」、「PS&D」(2026.5)。

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2026 年 8 月中旬までに発表した情報を引用しています（最新年度は 2026/27 年度です）。

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

<https://www.usda.gov/about-usda/reports-and-data/agency-reports>

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<https://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain: World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds: World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

- 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

(1) 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

・食料需給表: <https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>

・食品の価格動向: <https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>

・米に関するマンスリーレポート: <https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

・食料需給見通し(農林水産政策研究所): <https://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

(2) 農林水産関係機関の情報 (ALIC の情報サイト): <https://www.alic.go.jp/>

ア 砂糖、でんぷん: <https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>

イ 野菜: <https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>

ウ 畜産物: <https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

(3) その他海外の機関(英語及び各国語となります)

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関 (FAO) : <https://www.fao.org/home/en>
- ・国際穀物理事会 (IGC) : <https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構 (OECD) (農業・水産業分野):
<https://www.oecd.org/en/topics/agriculture-and-fisheries.html>
- ・農業市場情報システム (AMIS) : <http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関(代表的なものです)

- ・米国農務省 (USDA) : <https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社 (CONAB) : <https://www.gov.br/conab/pt-br>
- ・カナダ農務農産食品省 (AAFC) :
<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・豪州農業資源経済科学局 (ABARES) : <http://www.agriculture.gov.au/abares>

- データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、各国で概ね作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。以下サイトの「Reference Data」を参照ください。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。
- ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

- 本資料の引用等につきましては、出所(農林水産省発行「食料安全保障月報」)を併記願います。
- 本資料の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室
TEL:03-6744-2368(直通)

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大
学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、
その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響
中国の需要・輸入動向
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響
中長期（10 年先）、超長期（30 年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。



https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html